筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅴ

箱崎 23

－箱崎遺跡第 26 次調査報告 (2)－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 853 集

２００５

福岡市教育委員会

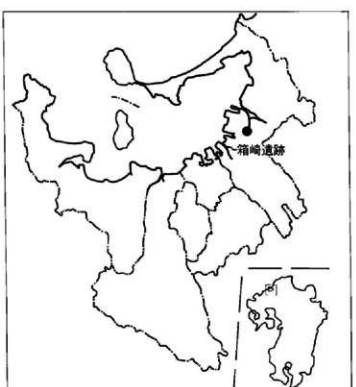
筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅴ

HAKO ZAKI

箱崎 23

－箱崎遺跡第26次調査報告(2)－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第853集

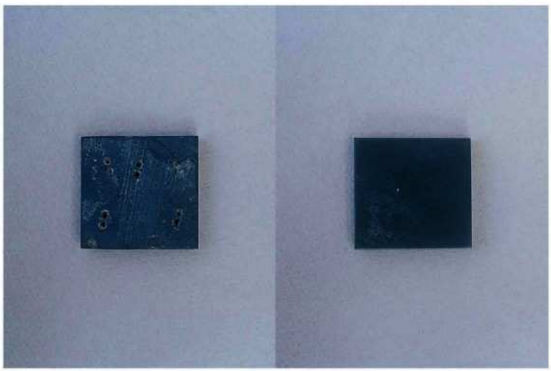


遺跡略号　調査番号
HKZ－26　0108

2005

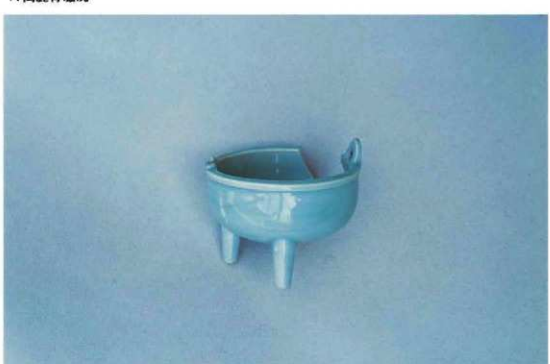
福岡市教育委員会

1. 越州窯青磁碗



2. 石帯巡方

1. 高麗青磁碗



2. 龍泉窯青磁鼎形香炉

序

古くから対外交渉の拠点の一つとして、あるいは筥崎宮の門前町として栄えた箱崎遺跡の発掘調査は近年の都市周辺部の再開発に伴い、現在までに40次を越え、調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は筥崎地区土地区画整理事業に伴って実施された第26次調査の7・8区を報告するものです。式内社筥崎宮の周辺は対外交渉の拠点の一つとして、あるいは蒙古襲来など度重なる戦乱の場として、歴史上非常に重要な地域です。

調査では筥崎宮創建期の遺構や遺物が検出され、往時の繁栄を偲ばせる輸入陶磁器が出土し、中世に入っては歳内の極門社寺との交渉を示す土器や瓦が出土するなど多くの成果を収めることができました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた福岡市土木局筥崎連続立体開発事務所の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成17年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　植　木　とみ子

例　言

1．本書は箱崎地区土地区画整理事業に伴い福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成13(2001)年度に発掘調査を実施した福岡市東区馬出5丁目22番・箱崎1丁目1番地他所在の箱崎遺跡第26次調査7・8区の報告である。

2．本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課佐藤一郎の他石井龍太・所一男が行った。遺物の実測は佐藤一郎の他、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器を埋蔵文化財課赤坂亨、土製品・石製品は瀬戸啓治が行った。撮影は空中写真が株式会社パスコにより、他は佐藤一郎が行った。

3．製図は遺構・遺物の一部を赤坂・石水久美子、遺物は佐藤が行った。

4．本書の執筆は一部赤坂が行った他は、編集とともに佐藤が行った。

5．本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調査番号	０１０８	遺跡略号	ＨＫＺ－26
調査地地籍	東区箱崎１丁目１番地他	分布地図番号	箱崎34
開発面積	3,155㎡		
調査期間	2001.6.1.～2002.3.31.		

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに
1　調査にいたる経過 …… 1
2　調査の組織 …… 1
Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 3
Ⅲ．発掘調査の概要 …… 3
Ⅳ．7区の調査
遺構と遺物
1　検出遺構 …… 6
2　出土遺物 …… 12
Ⅴ．8区の調査
遺構と遺物
1　検出遺構 …… 36
2　出土遺物 …… 49
Ⅵ．小　　結 …… 75

表 目 次

第1表　7区出土土器計測表（1）…… 77
第2表　7区出土土器計測表（2）…… 78
第3表　7区出土土器計測表（3）…… 79
第4表　8区出土土器計測表（1）…… 80
第5表　8区出土土器計測表（2）…… 81
第6表　8区出土土器計測表（3）…… 82

挿 図 目 次

第1図　箱崎遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第2図　箱崎遺跡第26次調査地域周辺図 …… 4
第3図　箱崎遺跡第26次調査7区遺構配置図 …… 5
第4図　井戸実測図（1）…… 7
第5図　井戸実測図（2）…… 8

第 6 図　井戸実測図 (3) ……9
第 7 図　井戸実測図 (4) ……10
第 8 図　井戸実測図 (5) ……11
第 9 図　井戸実測図 (6) ……13
第 10 図　井戸実測図 (7) ……14
第 11 図　井戸実測図 (8) ……15
第 12 図　出土遺物実測図 (1) ……17
第 13 図　出土遺物実測図 (2) ……18
第 14 図　出土遺物実測図 (3) ……20
第 15 図　出土遺物実測図 (4) ……23
第 16 図　出土遺物実測図 (5) ……25
第 17 図　出土遺物実測図 (6) ……26
第 18 図　出土遺物実測図 (7) ……28
第 19 図　出土遺物実測図 (8) ……29
第 20 図　出土遺物実測図 (9) ……31
第 21 図　出土遺物実測図 (10) ……32
第 22 図　出土遺物実測図 (11) ……33
第 23 図　出土遺物実測図 (12) ……34
第 24 図　箱崎遺跡第 26 次調査 8 区遺構配置図 ……35
第 25 図　井戸実測図 (1) ……37
第 26 図　井戸実測図 (2) ……38
第 27 図　井戸実測図 (3) ……39
第 28 図　井戸実測図 (4) ……41
第 29 図　井戸実測図 (5) ……42
第 30 図　井戸実測図 (6) ……43
第 31 図　方形竪穴実測図 (1) ……44
第 32 図　方形竪穴実測図 (2) ……45
第 33 図　方形竪穴実測図 (3) ……46
第 34 図　方形竪穴実測図 (4) ……47
第 35 図　出土遺物実測図 (1) ……51
第 36 図　出土遺物実測図 (2) ……52
第 37 図　出土遺物実測図 (3) ……54
第 38 図　出土遺物実測図 (4) ……55
第 39 図　出土遺物実測図 (5) ……57
第 40 図　出土遺物実測図 (6) ……58
第 41 図　出土遺物実測図 (7) ……60

第 42 図　出土遺物実測図（8）……61
第 43 図　出土遺物実測図（9）……65
第 44 図　出土遺物実測図（10）……66
第 45 図　出土遺物実測図（11）……67
第 46 図　出土瓦・銅銭拓影……68
第 47 図　SX140 実測図……69
第 48 図　SX140 出土土器実測図……70
第 49 図　SX330 実測図……71
第 50 図　SX330 出土土器実測図……72

図　版　目　次

図版 1　(1) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景空中写真
(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区東半空中写真
図版 2　(1) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景空中写真（やや近接）
(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景（北西から）
図版 3　(1) ＳＥ 01 井戸（東から）　(2) ＳＥ 03・02 井戸（南から）
(3) ＳＥ 04 井戸（東から）　(4) ＳＥ 06 井戸（北西から）
(5) ＳＥ 07 井戸（西から）　(6) ＳＥ 06 井戸（南から）
図版 4　(1) ＳＥ 08 井戸（北東から）　(2) ＳＥ 10 井戸（北から）
(3) ＳＥ 11 井戸（南から）　(4) ＳＥ 13 井戸（西から）
(5) ＳＥ 14 井戸（西から）　(6) ＳＥ 15 井戸（西から）
図版 5　(1) ＳＥ 117・16 井戸（西から）　(2) ＳＥ 17・18 井戸（南から）
(3) ＳＥ 20 井戸（南から）　(4) ＳＥ 21 井戸（東から）
(5) ＳＥ 51 井戸（南から）　(6) ＳＥ 55・56 井戸（北東から）
図版 6　(1) ＳＥ 55 井戸（北から）　(2) ＳＥ 57・58 井戸（北西から）
(3) ＳＥ 64 井戸（南東から）　(4) ＳＥ 65 井戸（南から）
(5) ＳＥ 56 井戸（北から）　(6) ＳＥ 73 井戸（北西から）
図版 7　(1) ＳＥ 100 井戸（北から）　(2) ＳＥ 116 井戸（南から）
(3) ＳＫ 41 土坑（南西から）　(4) ＳＫ 42 土坑（東から）
(5) ＳＫ 43 土坑（南から）　(6) ＳＫ 42 土坑（東から）
図版 8　(1) ＳＫ 44 土坑（北から）　(2) ＳＫ 70 土坑（南から）
(3) ＳＫ 70 土坑（北から）　(4) ＳＫ 68 土坑（北西から）
(5) ＳＫ 69 土坑（北西から）
図版 9　(1) Pit28（西から）　(2) ＳＫ 78 土坑（南西から）

(3) ＳＫ 80 土坑（北東から）　(4) ＳＫ 78 土坑（南西から）
(5) ＳＫ 81 土坑（北から）
図版10 (1) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区東半空中写真（北西から）
(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真
図版11 (1) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真（南から）
(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真（南からやや近接）
図版12 (1) ＳＤ 150 溝土層（南東から）　(2) ＳＥ 157 井戸（北東から）
(3) ＳＥ 217・183 井戸（南東から）　(4) ＳＥ 184 井戸（南から）
(5) ＳＥ 184 井戸（南西から）　(6) ＳＥ 184 井戸（南西から）
図版13 (1) ＳＥ 187 井戸（東から）　(2) ＳＥ 188 井戸（東から）
(3) ＳＥ 188 井戸（南東から）　(4) ＳＥ 190 井戸（西から）
(5) ＳＥ 191 井戸（南西から）　(6) ＳＥ 198 井戸（南東から）
図版14 (1) ＳＥ 200 井戸（南東から）　(2) ＳＥ 200 井戸（北から）
(3) ＳＥ 221 井戸（南東から）　(4) ＳＥ 234 井戸（南東から）
(5) ＳＥ 234 井戸（北西から）　(6) ＳＥ 234 井戸（東から）
図版15 (1) ＳＥ 235 井戸（南から）　(2) ＳＥ 238 井戸（南から）
(3) ＳＥ 240 井戸（南西から）　(4) ＳＥ 250 井戸（北西から）
(5) ＳＥ 296 井戸（北西から）　(6) ＳＥ 296 井戸（北東から）
図版16 (1) ＳＥ 319 井戸（南西から）　(2) ＳＥ 319 井戸（南東から）
(3) ＳＥ 319 井戸（南西から）　(4) ＳＥ 320 井戸（南から）
(5) ＳＥ 323 井戸（南東から）　(6) ＳＥ 329 井戸（南西から）
図版17 (1) ＳＥ 331 井戸（北西から）　(2) Pit1270 井戸（南西から）
(3) ＳＫ 181 方形竪穴（北東から）　(4) ＳＫ 185 方形竪穴（東から）
(5) ＳＫ 218 方形竪穴（南西から）　(6) ＳＫ 223 方形竪穴（南東から）
図版18 (1) ＳＫ 227 方形竪穴（南西から）　(2) ＳＫ 232 方形竪穴（北から）
(3) ＳＫ 257 方形竪穴（南東から）　(4) ＳＫ 257 方形竪穴（南東から）
(5) ＳＫ 302 方形竪穴（北西から）　(6) ＳＫ 302 方形竪穴（南西から）
図版19 (1) ＳＫ 192 土坑（南から）　(2) ＳＫ 196 土坑（南から）
(3) ＳＫ 315 土坑（北東から）　(4) Pit687（南から）
(5) Pit767（北東から）　(6) Pit784・783（北西から）
図版20 (1) Pit927（南から）　(2) ＳＸ 330 壺棺墓（南西から）
(3) ＳＸ 140 壺棺墓（北西から）　(4) Pit1381（南から）
図版21 出土遺物（1）　図版25 出土遺物（5）
図版22 出土遺物（2）　図版26 出土遺物（6）
図版23 出土遺物（3）　図版27 出土遺物（7）
図版24 出土遺物（4）　図版28 出土遺物（8）

Ⅰ はじめに

1．調査にいたる経過

福岡市土木局筥崎連続立体開発事務所換地課長より平成6（1994）年8月24日付土筥第476号により埋蔵文化財課長宛てに筥崎土地区画整理事業地内（事業面積：27.8ha）における埋蔵文化財事前調査についての依頼が行われた。これを受けて本課では平成6年度から継続して試掘調査を行い、平成7年7月21日付教理第419号、平成8年2月9日付教理1049号、平成10年5月15日付教理183号において遺跡の有無およびその範囲について回答を行った。その後文化財保護に関する協議をもったが、遺跡が認められた範囲については原則として調査対象とするが、公園緑地箇所および新設もしくは拡幅道路が既存道路と重複する箇所については調査対象から除外している。但し、既存道路が事業区画内に取り込まれる場合は調査対象とした。

同事業に伴う発掘調査は平成11年度より箱崎遺跡第20次調査として始められ、調査区は街区毎に着手順に事業地内通しで1区、2区と呼称し、年度が替って新規に着手される調査区には新たに次数を付けている。平成13（2001）年度は箱崎遺跡第26次調査6区から10区の調査となる。本報告はその内の7区（福岡市東区馬出5丁目22番）・8区（同箱崎1丁目1番）の発掘調査に関するものである。

2．調査の組織

調査委託　福岡市教育委員会

調査主体　福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課

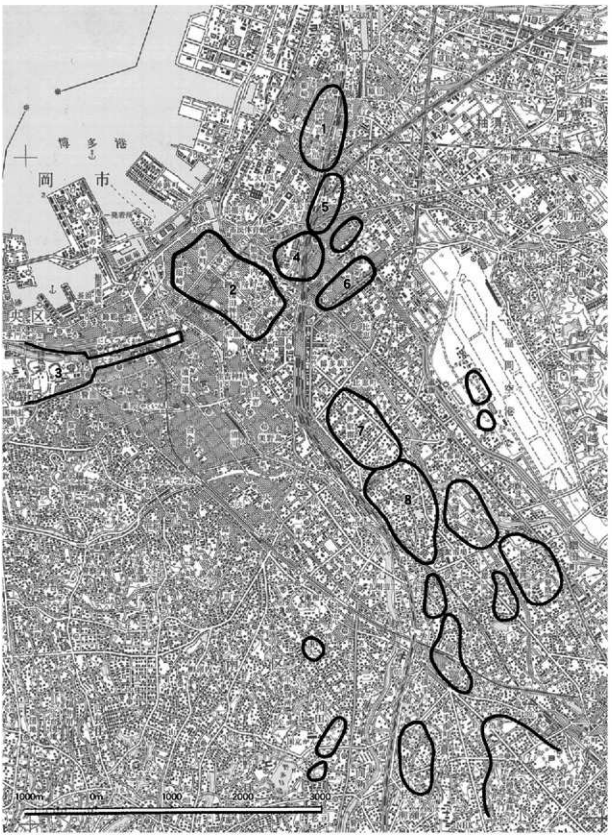
調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男（前任）　山口譲治（現任）
　　調査第2係長　　力武卓治（当時）　池崎譲治（現任）

庶務担当　文化財整備課　御手洗清

調査担当　事前審査　瀧本正志（当時）　井上繭子（現任）
　　発掘調査　佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者　大崎宏之・木村芳任・櫻澤勲・佐藤俊治・西村登・野田淳一・平井拓巳
松本修一・三角哲平・宮本碧・村本義夫・森垣隆視・安元孝憲・脇田栄・瀬戸啓治
石川洋子・荻野須美子・川野美恵子・熊代薫・古長博美・指原給子・鳴ヒサ子・副田澄子
副田善江・田原キヌエ・田中智子・為房紋子・西田文子・西村寿美枝・播磨博子・保坂由美子
松岡芳江・水田ミヨ子・村井藤枝・村山巳代子・持丸玲子・桃野千代美・森田祐子・安田光代
安元尚子・山口慶子・萬スミヨ・相川和子・石水久美子・小田敬子・木山啓子

その他、発掘調査に至るまで諸々の条件整備、調査中の調整等について福岡市土木局筥崎連続立体開発事務所の皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。



1．箱崎遺跡　2．博多遺跡群　3．福岡遺跡・鴻臚館跡　4．吉塚遺跡　5．堅粕遺跡
6．吉塚本町遺跡　7．比恵遺跡群　8．那珂遺跡群

第１図　箱崎遺跡と周辺の遺跡

Ⅱ　遺跡の位置と環境

箱崎遺跡は博多湾沿いに連なる古砂丘、宇美川下流域、多々良川河口左岸に位置する弥生時代終末から近世に至る複合遺跡である。その推定範囲は南北 1.2km、東西 0.5km を測る。式内社筥崎宮の所在地としてひろく知られている。弥生時代終末から墳墓が営まれている。923（延長元）年に穂波郡大分宮（現在の嘉穂郡穂波町）から遷座勧請されたのが筥崎宮（宮は筥崎、地名であれば箱崎と記すのが原則とされる）の始まりである。1051（永承 6）年石清水別当が筥崎宮検校に任命され、石清水八幡宮の別宮となる。権門社寺との結びつきは畿内系の土器や瓦等の考古遺物からも窺うことができる。中世前半からは対外交渉の拠点の一つとして、宋商人が居留するようになりその中心地「博多」を補完する役割を担った。箱崎遺跡の広い地域でこの時期の遺構が検出されている。1151（仁平元）年には太宰府の官人が博多・箱崎の宋人屋敷を大追捕している。『宇治拾遺物語』や『今昔物語』には 11 世紀初めに筥崎宮の神官が宋人と交渉を持ち多大な利を得ていたことが記されている。近年、遺跡の南西部でこの時期の遺構群が検出されている。1274（文永 11）・1281（弘安 4）年の蒙古襲来では博多湾一帯が戦場となり、筥崎宮の焼失など箱崎遺跡の範囲でも多大な被害を蒙っている。

参考文献

川添昭二編「よみがえる中世Ⅰ　東アジアの国際都市」1988　平凡社

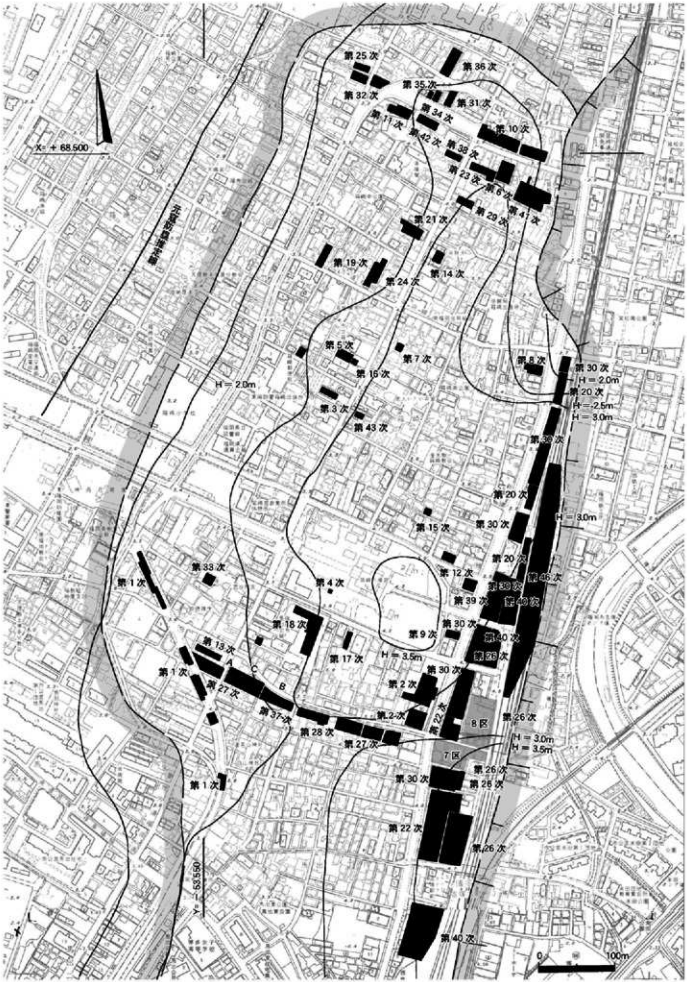
川添昭二「中世九州の政治と文化」1981　文献出版

西日本新聞社福岡県百科事典刊行本部編「福岡県百科事典」1982　西日本新聞社

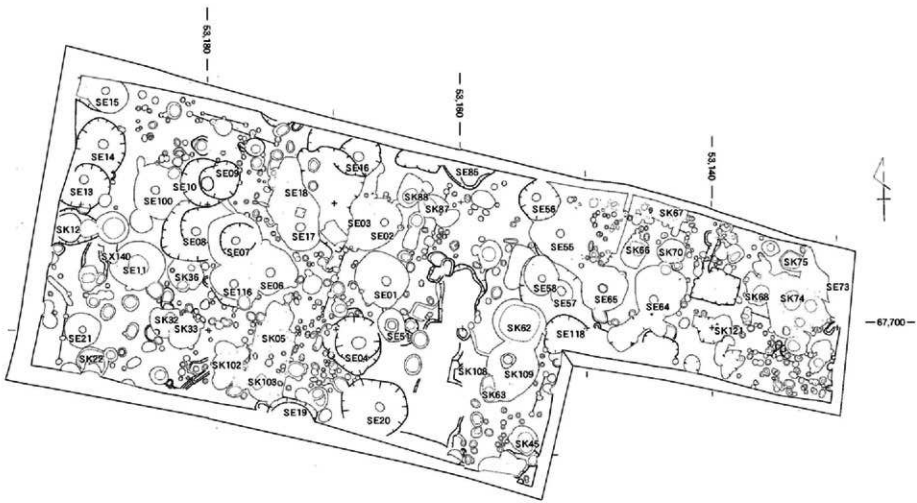
「角川地名大辞典」編纂委員会編「角川日本地名大辞典 40 福岡県」1988 角川書店.

Ⅲ　発掘調査の概要

調査地は箱崎遺跡群の南東部、筥崎宮の南東 250m に位置する。昭和 62（1987）年福岡県教育委員会調査の第 2 次調査地の東 40m に位置する。遺構面は現地表下、1 ～ 1.5m で表土（撹乱層）直下の砂層上面で確認され、東側へやや高くなっている。検出した遺構は 10 ～ 15 世紀の井戸・土坑・柱穴・ピット状遺構の他、弥生時代終末から古墳時代初頃にかけての壺棺墓 2 基である。2001（平成 13）年 6 月 1 日に発掘機材を搬入、7 区の表土剥ぎから調査を開始した。続いて作業員を入れ、撹乱の除去、遺構検出に着手した。9 月 6 日にはラジコンヘリによる空中写真撮影を行い、その後遺構の完掘を進め、個別写真撮影・実測等の記録を行い、10 月 20 日には 8 区内に仮置きしている残土を搬出し、引き続いて表土剥ぎを開始した。10 月 24 日には 7 区の埋め戻しを終了した。7 区の調査面積は 1,296㎡。11 月 6 日には 8 区に作業員を投入、撹乱の除去、遺構検出に着手した。1 月 24 日に空撮を行い、その後遺構完掘、写真撮影・実測を行い、3 月 8 日に一部埋め戻しに着手した。3 月 30 日に埋め戻しが終了、すべての調査を終了した。8 区の調査面積は 1,859㎡。



第2図　箱崎遺跡第26次調査地域周辺図



第 3 図　箱崎遺跡第 26 次調査 7 区遺構配置図

Ⅳ　7区の調査　－遺構と遺物－

1　検出遺構

井戸

SE 01（第4図　図版3）

調査区中央で検出した。掘り方は上面径4.2mの略円形を呈し、深さは2.3mを測る。南端は調査区域外に延びる。基底部中央に70cm、深さ60cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.7mを測る。

SE 02（第4図　図版3）

調査区中央で検出した。掘り方は上面径4.4mの円形を呈し、深さは2.2mを測る。北西がSE 03に切られる。基底部中央に直径60cm、深さ40cmと直径45cm、深さ35cmの木枠の痕跡がみられた。さらに2基の井戸が重複したものであるが、切り合いは不明。底面の標高0.75mを測る。

SE 03（第4図　図版3）

調査区中央で検出した。西半部が攪乱を受け、残存する掘り方は上面径3.0mの半円形を呈し、深さは2.0mを測る。基底部中央に直径55cm、深さ30cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.7mを測る。

SE 04（第4図　図版3）

調査区中央で検出した。掘り方は上面径4.8mの円形を呈し、深さは2.3mを測る。基底部中央に直径110cm、深さ55cmの木枠の痕跡がみられた。底面の標高0.7mを測る。

SE 06（第5図　図版3）

調査区中央のやや西側で検出した。掘り方は上面径3.4～3.8mの不整円形を呈し、深さは2.5mを測る。基底部中央に直径70cm、深さ30cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.5mを測る。

SE 07（第5図　図版3）

調査区中央のやや西側で検出した。掘り方は上面径4.5mの略円形を呈し、深さは2.4mを測る。基底部中央に直径60cm、深50cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.5mを測る。

SE 08（第6図　図版4）

調査区西側で検出した。掘り方は上面径5.0～6.5mの不整円形を呈し、南東がSE 07、北東がSE 09に切られる。深さは2.2mを測る。基底部中央に直径70cm、深45cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.6mを測る。

SE 10（第7図　図版4）

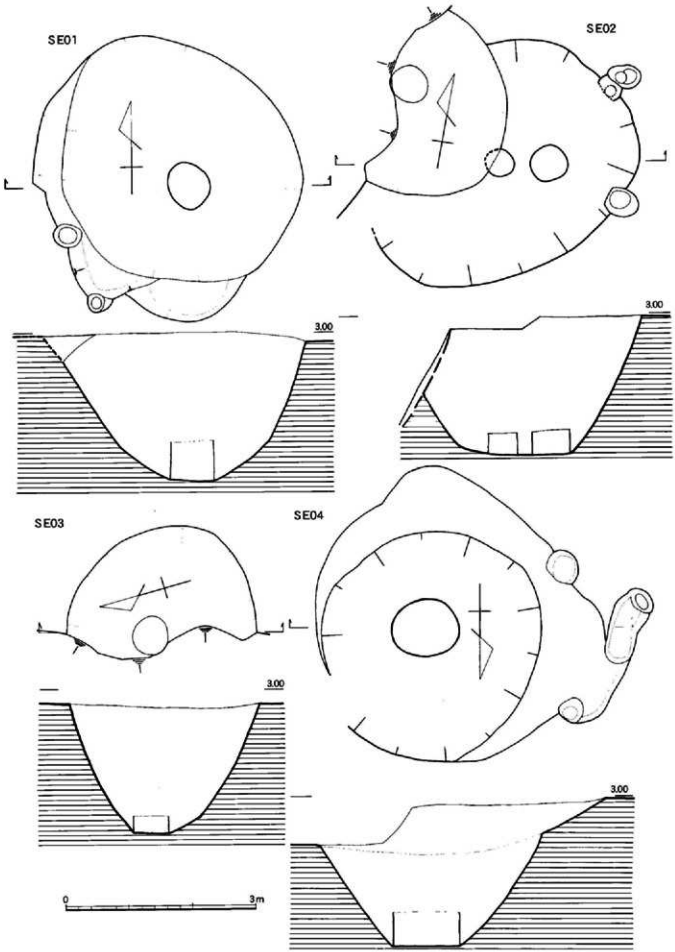
調査区北西で検出した。掘り方は上面径3.0～3.3mの不整円形を呈し、深さは2.0mを測る。桶側の痕跡は検出されなかった。底面の標高0.75mを測る。

SE 13（第7図　図版4）

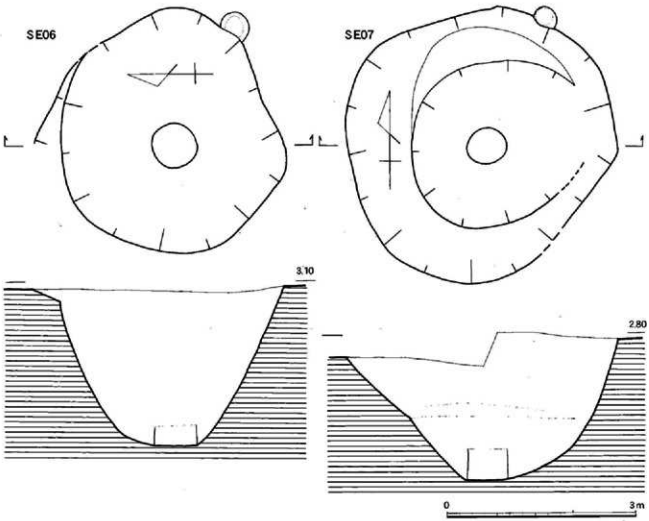
調査区西端で検出した。掘り方は上面径3.6mの円形を呈し、西端が調査区の壁面にかかる。深さ2.2mを測る。基底部中央よりやや北側に直径70cm、深45cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.55mを測る。

SE 14（第7図　図版4）

調査区西端で検出した。掘り方は上面径3.5～4.0mの略円形を呈し、深さ2.0mを測る。基底部中央に直径75cm、深25cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.7mを測る。



第4図　井戸実測図（1）



第５図　井戸実測図（2）

SE 15（第７図　図版４）

調査区西北端で検出した。掘り方は上面径2.8～3.4mの略円形を呈し、北端が調査区の壁面にかかる。深さ1.8mを測る。基底部中央に直径60cm、深45cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.6mを測る。

SE 16（第８図　図版５）

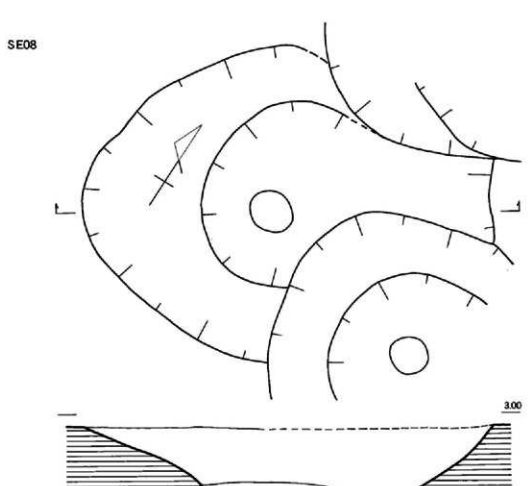
調査区中央北で検出した。南西が撹乱を受け、残存する掘り方は上面径3.1mの略円形を呈し、深さは2.4mを測る。基底部中央に直径80cm、深さ55cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.5mを測る。

SE 17（第８図　図版５）

調査区中央のやや西側で検出した。掘り方は上面径3.3～3.7mの略円形を呈し、深さ2.4mを測る。基底部中央に直径60cm、深さ70cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.6mを測る。

SE 18（第８図　図版５）

調査区中央のやや西側ＳＥ17の下面で検出した。掘り方の規模は確認できなかった。深さ2.5mを測る。一辺65cm、深さ30cmの井桁とその下部に直径55cm、深さ70cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高は0.5mを測る。



第6図　井戸実測図（3）

SE 21（第8図　図版5）

調査区南西端で検出した。掘り方は上面径2.8mの円形を呈し、深さ2.1mを測る。基底部中央に直径50cm、深さはほとんどない桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.7mを測る。

SE 20（第9図　図版5）

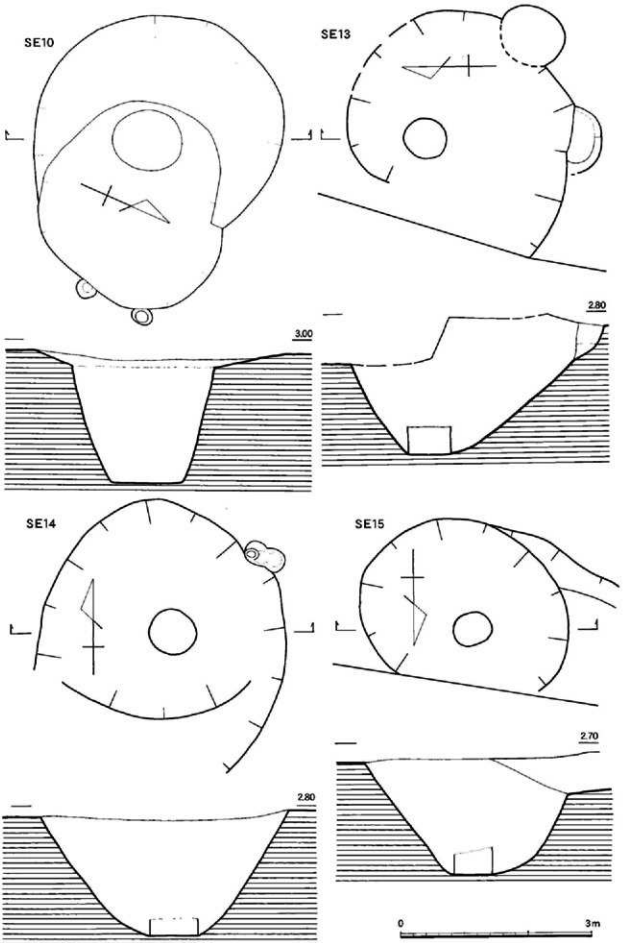
調査区中央南で検出した。掘り方は上面径5.0～5.2mの略円形を呈し、深さ2.4mを測る。基底部中央やや東側に直径70cm、深さ60cmの桶側が掘えられていた。底面の標高0.45mを測る。

SE 58（第9図　図版6）

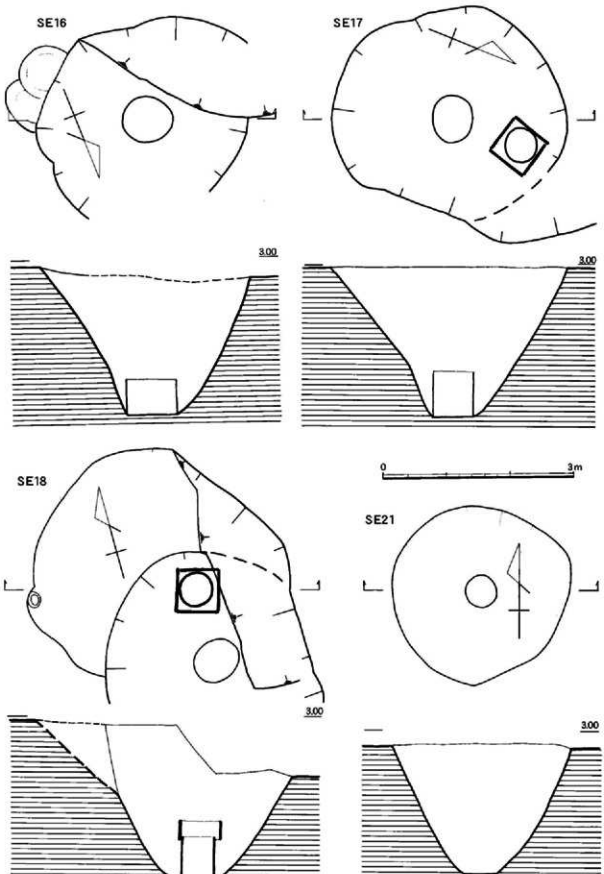
調査区中央のやや東側で検出した。掘り方は上面径2.8～3.1mの略円形を呈し、深さ2.5mを測る。基底部中央に直径55cm、深さ35cmの桶側の痕跡がみられた。底面の標高0.9mを測る。

SE 51（第9図　図版5）

調査区中央で検出した。掘り方は上面径2.1～2.6mの略円形を呈し、深さ2.2mを測る。基底部中央に一辺70cm、深さ75cmの隅丸方形の井桁とその下部に直径60cm、深さ35cmの桶側の痕跡



第7図　井戸実測図（4）



第8図　井戸実測図（5）

がみられた。底面の標高は 0.75 mを測る。

SE 57（第9図　図版6）

調査区中央のやや東側で検出した。掘り方は上面径 1.7 ～ 1.9m の略円形を呈し、深さ 2.0 mを測る。基底部中央に直径 65cm、深さ 5cm の桶側痕跡とその下部に直径 50cm、深さ 40cm の桶側痕がみられた。底面の標高は 0.7 mを測る。

SE 65（第9図　図版6）

調査区中央のやや東側で検出した。掘り方は上面径 3.5 ～ 3.7m の略円形を呈し、深さ 2.6 mを測る。基底部中央に直径 70cm、深さ 15cm の桶側痕とその下部に直径 60cm、深さ 25cm の桶側痕がみられた。底面の標高は 0.8 mを測る。

SE 55（第10図　図版5・6）

調査区中央のやや北東側で検出した。掘り方は一辺 4.5m の隅丸方形を呈し、深さは 2.4 mを測る。北端がＳＥ 56 に切られる。基底部中央に直径 60cm、深さ 25cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.9 mを測る。

SE 56（第10図　図版5・6）

調査区中央のやや北東側で検出した。掘り方は一辺 3.1m の隅丸方形を呈し、深さは 2.2 mを測る。南側はＳＥ 55 を切る。基底部中央に直径 60cm、深さ 60cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.9 mを測る。

SE 64（第10図　図版6）

調査区東側で検出した。掘り方は一辺4.1mの隅丸方形を呈し、深さは2.5 mを測る。南側は撹乱を受けている。基底部中央に直径 60cm、深さ 25cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.9 mを測る。

SE 100（第11図　図版7）

調査区西側で検出した。掘り方は一辺4.0mの隅丸方形を呈し、深さは1.8 mを測る。西側を除いて他の遺構に切られている。基底部中央に直径 60cm、深さ 50cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.5 mを測る。

SE 116（第11図　図版7）

調査区西側で検出した。掘り方は径4.0m前後の不整円形を呈し、深さは2.3 mを測る。周囲のほとんどが他の遺構に切られている。基底部中央に直径 60cm、深さ 45cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6 mを測る。

2　出土遺物

SE 01 出土遺物（第12図）

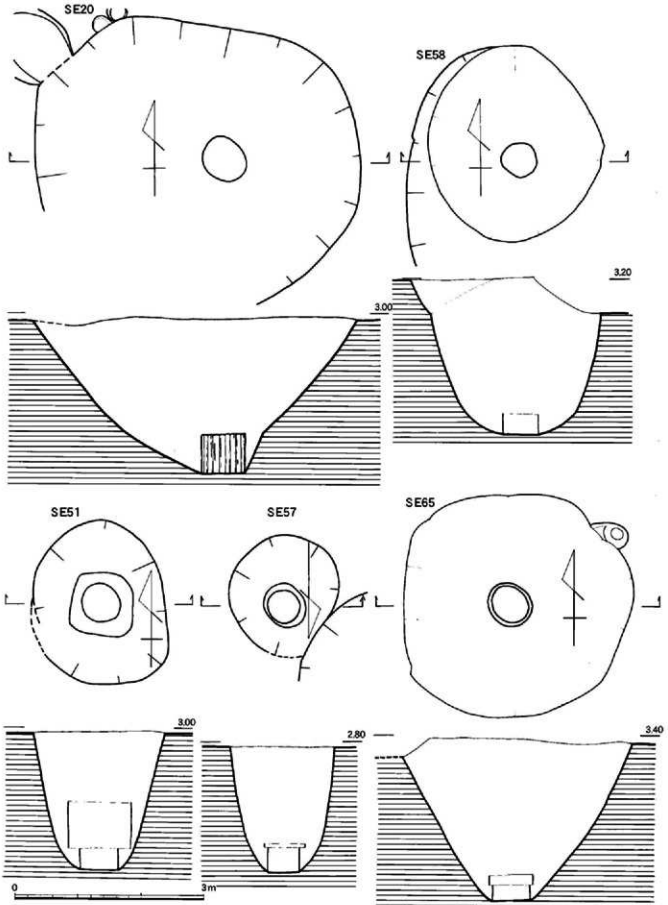
土師器　小皿（1）底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.2cm、器高 1.3cm、底径 6.9cm を測る。

SE 02 出土遺物（第12図）

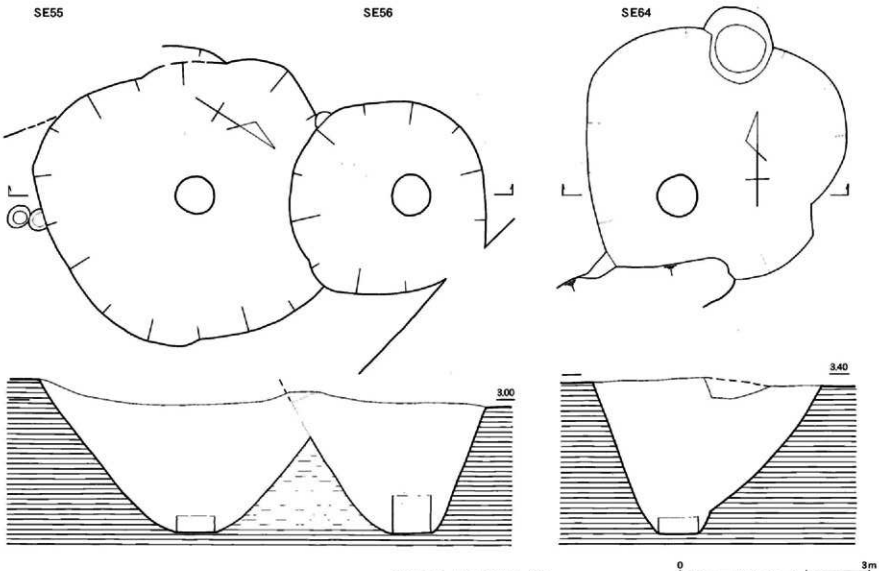
土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（2～7）底部はヘラ切り離しによる。口径9.1～9.8cm、器高1.2～1.5cm、底径5.8～6.7cmを測る。2・4・5は井戸枠内からの出土である。

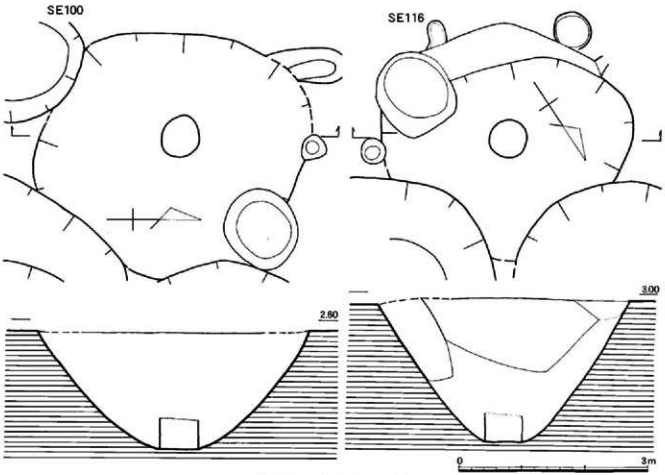
杯（8）底部は糸切り離しにより、口径 15.2cm、器高 3.0cm、底径 7.8cm を測り、口径に対する底径の比率が小さい。



第9図　井戸実測図（6）



第 10 図　井戸実測図 (7)



第 11 図　井戸実測図（8）

青磁　碗（9）　撥状に外側に開く高台が付く越州窯系青磁碗片である。透明な灰オリーブ色の釉が全面に掛けられ、貫入、気泡が入る。外底には目跡が残る。胎土は灰黄色を呈する。

SE 04 出土遺物（第 12 図、図版 21）

土師器

小皿（10・11）　底部はヘラ切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 10.4・9.2cm、器高 1.4・1.1cm、底径 8.0・7.0cm を測る。

杯（12 ～ 17）　底部は糸切り離し、15 が体部外面から内底まで回転横ナデされる他は、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 13.0 ～ 14.0cm、器高 2.5 ～ 2.9cm、底径 9.3 ～ 10.4cm を測る。

椀（18）　丸みをもつ体部から、直線的な口縁部がのび、口縁下で短く屈曲する。八の字状の高台が貼付される。口径 15.1cm、器高 5.7cm、高台径 8.3cm を測る。

青磁　碗（19・20）　撥状の貼り付け高台を持つ浅形の越州窯系青磁碗である。内面に花弁文を片切彫りする。19 は口縁部欠失する。釉は発色不良で、褐灰色を呈し、外底に目跡が残る。胎土は黄灰色を呈する。20 は直線的な体部からやや内湾する口縁部がのびる。黄灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が掛けられている。

SE 05s 出土遺物（第 12 図）

土師器　底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（21・22）　口径 8.9・10.2cm、器高 1.4・1.2cm、底径 6.7・7.6cm を測る。

杯（23・24）　口径 15.3・15.4cm、器高 3.7cm、底径 9.0・10.0cm を測る。

SE 05 出土遺物（第 12 図）

土師器　底部は 25・26 がヘラ、他は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。

小皿（25 ～ 29）　口径 8.7 ～ 10.3cm、器高 1.2 ～ 1.7cm、底径 6.0 ～ 7.9cm を測る。

杯（30）　口径 16.0cm、器高 3.4cm、底径 9.7cm を測る。

青磁　碗（31・32）　31 は越州窯系青磁碗の口縁部片で、内面に花弁文が片切彫りされている。明褐灰色の胎土に透明な灰黄褐色の釉が掛けられ、ほぼ全面に貫入が入っている。32 は輪状高台の底部片で、畳付に目跡がのこる。白色微粒子を含んだにぶい黄橙色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が掛けられ、貫入が入る。

SE 03 出土遺物（第 12 図）

青磁　碗（33）　撥状高台の越州窯系青磁碗で、内面に花弁文を片切彫りする。口縁部欠失、釉は発色不良で、灰色を呈し、外底に目跡が残る。胎土は褐灰色を呈する。

SE 06 出土遺物（第 13 図）

土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（34 ～ 36）　底部は糸切り、口径 9.0 ～ 9.5cm、器高 0.9 ～ 1.1cm、底径 8.2 ～ 9.2cm を測る。

托（37）　底部はヘラ切り離し、外面を直、内面は斜めにする高台を貼付する。口径 12.4cm、器高 2.5cm、高台径 7.1cm を測る。

青磁　碗（38）　体部内面に蓮華折枝文を片切彫りする。

SE 08 出土遺物（第 13 図）

土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（39・40）　底部の切り離しは 39 が糸、40 はヘラによる。口径 9.2・9.6cm、器高 1.1・1.2cm、底径 7.4・7.8cm を測る。

托（41）　底部の切り離しは不明、外に開く高めの高台を貼付する。口径 12.3cm、器高 4.5cm、高台径 8.0cm を測る。

高杯（42）　底部の切り離しは不明、内面をコテ状の工具で平滑にした丸底杯に円筒状の脚を接合し、丸底杯の底部から脚の中心は穿孔される。復元口径 15.0cm を測る。

SE 10 出土遺物（第 13 図）

土師器　小皿（43 ～ 45）　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.6 ～ 10.3cm、器高 1.2 ～ 1.9cm、底径 5.9 ～ 7.4cm を測る。

SE 13 出土遺物（第 13 図）

白磁　皿（46）　口禿の皿で、口縁部は直線的である。

SE 14 出土遺物（第 13 図）

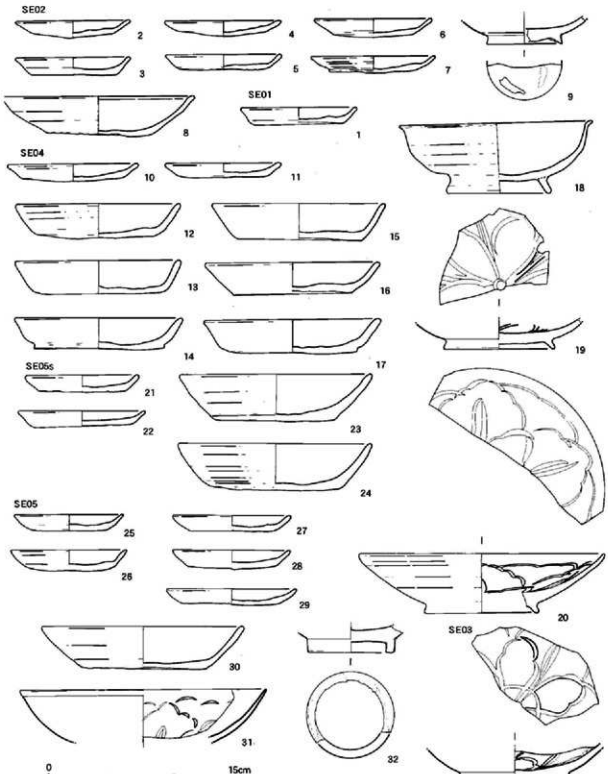
土師器　小皿（47・48）　底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.0・8.1cm、器高 1.1・0.8cm、底径 6.5・6.0cm を測る。

SE 15 出土遺物（第 13 図）

土師器　小皿（49 ～ 52）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。49 ～ 51 の底部は糸切り、52 はヘラ切り、口径 8.8 ～ 9.8cm、器高 0.8 ～ 1.4cm、底径 6.8 ～ 7.2cm を測る。

青磁　小碗（53）　越州窯系青磁小碗の底部片で、断面逆台形の高台はやや小さめで、端部は丸みを持つ。外底には目跡がのこる。緻密な灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が掛けられる。

SE 16 出土遺物（第 13 図）

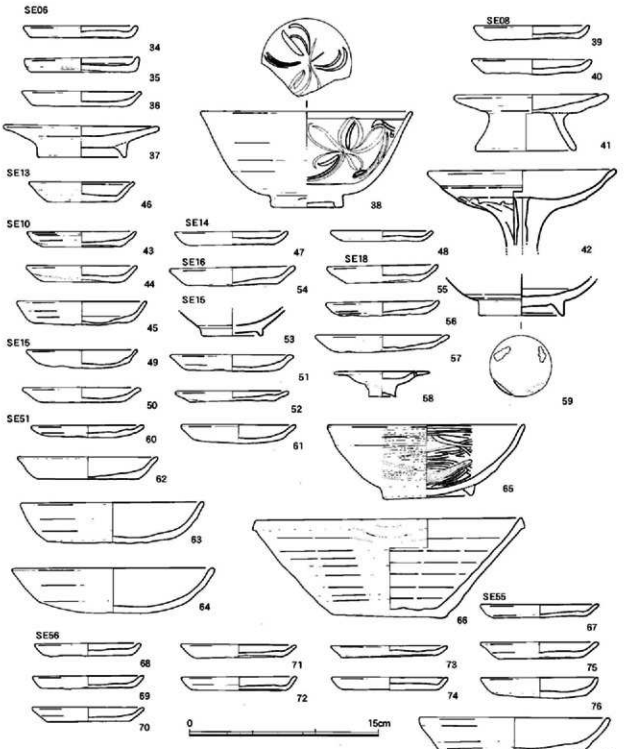


第 12 図　出土遺物実測図（1）

土師器　小皿（54）底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 10.0cm、器高 1.5cm、底径 7.1cm を測る。

SE 18 出土遺物（第 13 図）

土師器　小皿（55 ～ 57）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。55・56 の



第 13 図　出土遺物実測図（2）

底部は糸切り、57 はヘラ切り、口径 8.8～10.6cm、器高 1.1～1.3cm、底径 6.8～7.8cm を測る。55・56 は井戸枠内からの出土である。

白磁　蓋（58）　口縁部に穿孔、灰白色の胎土に透明な灰白色の釉が掛けられる。

青磁　碗（59）　外面を直、内面を斜めに削り出すやや細い高台を持つ越州窯系青磁碗片である。口縁部は欠失し、体部はやや丸みを持ち、下位は回転ヘラ削りされる。内底見込、体部との境に沈圏線

をめぐらせる。灰褐色の胎土に透明なにぶい黄橙色の釉が全面に掛けられ、外底に目跡が残る。

SE 51 出土遺物（第 13 図、図版 21）

土師器

小皿（60 ～ 62） 体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。60・61 の底部はヘラ、62 は糸切り離しによる。60・61 の法量はそれぞれ口径 8.9・9.0cm、器高 1.0・1.5cm、底径 6.5・6.8cm を測る。やや大型の 62 は口径 11.1cm、器高 1.8cm、底径 7.9cm を測る。

杯（63） 底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 14.5cm、器高 3.2cm、底径 9.9cm を測る。

丸底杯（64） 体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径 16.0cm、器高 3.6cm を測る。

瓦器 椀（65） やや深めの椀である。丸みをもった体部の上位で屈曲し、外反する口縁部がつく。体部内外面ともヘラ磨きされる。

須恵器 片口鉢（66） 口縁部は直線的にのび、端部が外傾する。胎土には黒色微粒子、粗い砂粒を多量に含み、黄灰色を呈する。復元口径 21.6cm、器高 7.8cm、底径 9.1cm の小ぶりの鉢である。

SE 55 出土遺物（第 13 図）

土師器 小皿（67） 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.4cm、器高 1.1cm、底径 7.8cm を測る。

SE 56 出土遺物（第 13 図）

土師器 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（68 ～ 76） 口径 8.4 ～ 9.3cm、器高 0.9 ～ 1.6cm、底径 6.4 ～ 7.4cm を測る。69・70 は井戸枠内からの出土である。

杯（77） 口径 15.1cm、器高 2.8cm、底径 11.0cm を測る。

SE 58 出土遺物（第 14 図、図版 22）

土師器

椀（78・79） 丸みをもった体部の上位で屈曲し、外反する口縁部がつく。外側に開く八の字状の高台が貼付される。口径 14.8・15.9cm、器高 5.7・5.5cm、高台径 8.1・7.6cm を測る。

小皿（80） 底部糸切り、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.6cm、器高 1.3cm、底径 6.2cm を測る。

杯（81 ～ 83） 底部糸切り、体部回転横ナデ、内底ナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 13.0 ～ 13.4cm、器高 2.8 ～ 3.4cm、底径 8.6 ～ 10.0cm を測る。

青磁 碗（84） 体部外面にヘラ状の施文具を用いて条線を放射状に彫る。内面はヘラに加え、クシ状の施文具を用いて文様が描かれる。灰白色の胎土に透明な橙～明黄褐色の釉が体部外面下半まで掛けられ、細かい貫入が入る。

SE 64 出土遺物（第 14 図）

土師器 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

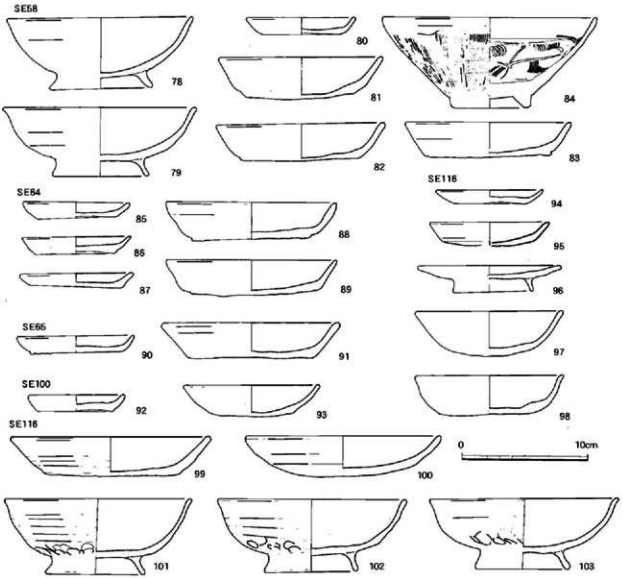
小皿（85 ～ 87） 口径 8.4 ～ 9.0cm、器高 1.1 ～ 1.3cm、底径 9.6 ～ 9.8cm を測る。

杯（88・89） 口径 13.5cm、器高 3.0・2.8cm、底径 9.6・9.8cm を測る。

SE 65 出土遺物（第 14 図）

土師器 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（90） 口径 9.2cm、器高 1.3cm、底径 7.2cm を測る。



第 14 図　出土遺物実測図（3）

杯（91）口径 14.0cm、器高 2.8cm、底径 9.8cm を測る。

SE 100 出土遺物（第 14 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

特小皿（92）口径 7.7cm、器高 1.3cm、底径 6.0cm を測る。

杯（93）灰白色、瓦質に焼成されているが、器面に研磨の痕跡はみられない。口径 10.8cm、器高 2.5cm、底 6.6cm を測る。

SE 116 出土遺物（第 14 図、図版 22）

土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（94・95）底部の切り離しは 94 が糸、95 はヘラによる。口径 8.5・9.5cm、器高 1.0・1.8cm、底径 5.7・7.2cm を測る。

托（96）底部の切り離しは不明、外に開く薄手の高台を貼付する。口径 11.4cm、器高 2.1cm、高台径 6.4cm を測る。

杯（98・99）底部の切り離しはヘラによる。小型の 98 は口径 11.8cm、器高 3.1cm、底径 8.0cm、大型の 99 は口径 15.8cm、器高 3.2cm、底径 10.7cm を測る。

丸底杯（97・100） 小型の97は口径11.8cm、器高3.6cm、大型の100は口径15.4cm、器高3.3cmを測る。

椀（101～103） 内湾する体部の上位で屈曲し、外反する口縁部がつく。外側に開く八の字状の高台が貼付される。体部外面下半に指頭圧痕が残る。口径14.8～15.1cm、器高5.7～6.1cm、高台径7.4～7.9cmを測る。

SK 07 出土遺物（第15図）

土師器 小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（104～113） 底部の切り離しは107・109・113が糸、他はヘラによる。口径8.8～10.6cm、器高1.0～1.9cm、底径6.3～7.4cmを測る。108は底部中央に穿孔がある。

高台付小皿（114） 底部の切り離しは不明、外に開く高台を貼付する。口径9.3cm、器高2.4cm、高台径7.0cmを測る。

杯（115・116） 底部の切り離しは糸による。口径14.4・15.8cm、器高3.0・2.8cm、底径9.8・11.5cmを測る。

丸底杯（117・118） 底部の切り離しはヘラによる。体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径15.1・15.2cm、器高3.1・3.0cmを測る。

SK 09 出土遺物（第15図）

土師器 底部は糸切り離し、小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（119・120） 口径8.7・9.2cm、器高1.2・1.3cm、底径5.7・6.4cmを測る。

杯（121） 口径12.8cm、器高3.6cm、底径8.6cmを測る。

丸底杯（122） 体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径14.1cm、器高3.3cmを測る。

SK 11 出土遺物（第15図）

土師器

小皿（123～131） 体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。126・129・130の底部はヘラ、他は糸切り離しによる。口径8.6～9.7cm、器高0.9～1.5cm、底径6.4～7.2cmを測る。

丸底杯（132） 底部はヘラ切り離しにより、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径15.5cm、器高3.4cmを測る。

瓦器 椀（133） 丸みをもった体部から直線的に口縁部がのびる。体部内外面ともヘラ磨きされる。口径16.0cm、器高5.5cm高台径6.6cmを測る。

白磁 皿（134） 体部は口縁部まで内湾気味にのび、底部は上げ底状を呈する。内面は見込に沈圏線をめぐらせ、花文を線彫りする。底部付近まで施釉され、釉下には化粧土が掛けられている。

青磁 碗（135） 断面逆台形の高台を持つ越州窯系青磁碗の底部片である。緻密な灰白色の胎土に透明な灰白色の釉が全面に掛けられ、外底には目跡が残る。

SK 16 出土遺物（第15図）

土師器 小皿（136・137） 体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。136の底部はヘラ、137は糸切り離しによる。口径8.8・9.3cm、器高1.1・1.3cm、底径7.4・6.4cmを測る。

SK 26 出土遺物（第15図）

土師器 杯（138～143）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。141の底部はヘラ、他は糸切り離しによる。口径12.9～15.7cm、器高2.8～3.5cm、底径10.0～11.9cmを測る。

SK 27 出土遺物（第15図）

土師器　小皿（144・145）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。144の底部は糸、145はヘラ切り離しによる。口径9.0・9.1cm、器高1.1・1.7cm、底径6.6・6.9cmを測る。

SK 32 出土遺物（第15図）

土師器

杯（146）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径14.2cm、器高3.2cm、底径9.5cmを測る。

丸底杯（147）底部は糸切り離しにより、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径15.3cm、器高3.1cmを測る。

青磁　碗（148）やや外側に開く輪状高台を持つ高麗青磁の底部片である。高台外面は粗く面取りされ、稜線をなす。内底見込、体部との境に沈圏線をめぐらせる。白色微粒子を含む褐灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が全面に掛けられ、底部の内外面には目跡が残る。

SK 33 出土遺物（第15図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（149）口径8.9cm、器高0.9cm、底径7.6cmを測る。

杯（150）口径14.2m、器高2.7cm、底径10.0cmを測る。

SK 35 出土遺物（第15図）

白磁　皿（151）体部は口縁部まで内湾してのび、底部は上げ底状である。内面見込に沈圏線をめぐらせ、無文である。体部外面下半まで施釉され、釉下には化粧土が掛けられている。

SK 36 出土遺物（第15図）

土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（152～158）底部の切り離しは157がヘラの他は糸による。口径8.8～10.0cm、器高1.1～1.8cm、底径6.4～7.9cmを測る。

杯（159・160）底部の切り離しはヘラによる。口径11.2・14.3cm、器高2.3・3.4cm、底径7.4・10.7cmを測る。

SK 37 出土遺物（第15図）

土師器　杯（161）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径14.8cm、器高3.5cm、底径9.9cmを測る。

SK 38 出土遺物（第16図）

土師器　小皿（162～164）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。底部の切り離しは164がヘラの他は糸による。口径8.6～9.3cm、器高1.3～1.4cm、底径6.5～7.4cmを測る。

SK 40 出土遺物（第16図）

土師器　小皿（165～167）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径8.6～9.2cm、器高1.1～1.2cm、底径6.2～7.3cmを測る。

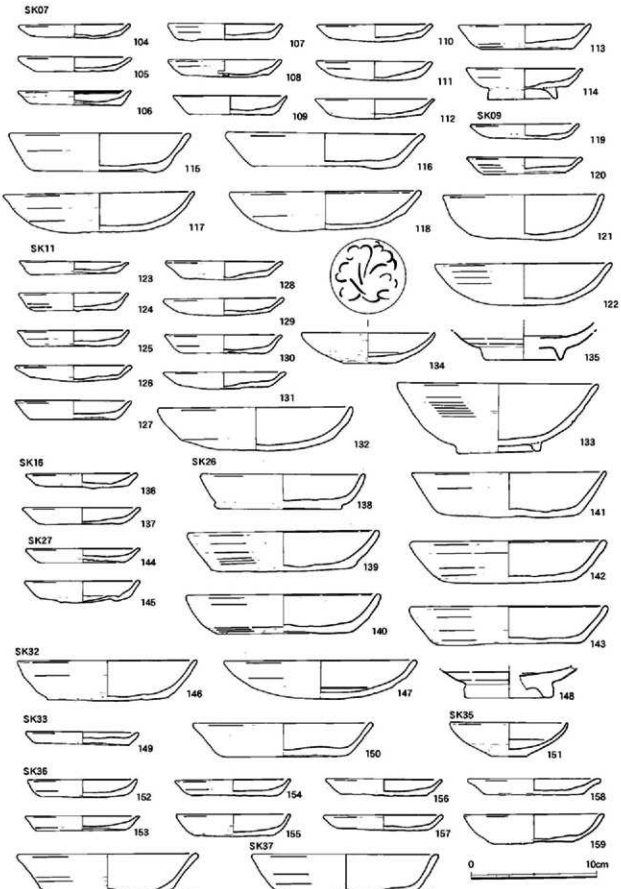
SK 41 出土遺物（第16図）

土師器　小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（168・169）底部の切り離しは168が糸、169はヘラによる。口径9.2・9.3cm、器高1.4cm、底径7.2・7.0cmを測る。

杯（170）底部の切り離しは糸による。口径15.2cm、器高2.8cm、底径10.6cmを測る。

丸底杯（171）底部の切り離しは糸による。体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径15.0cm、器高3.4cmを測る。



第 15 図　出土遺物実測図（4）

SK 42 出土遺物（第 16 図）

白磁　碗（172）　浅めの碗で、口縁部はく字状に外反し、体部内面の上位に沈圏線をめぐらせ、その内側に櫛目文を施す。

SK 47 出土遺物（第 16 図、図版 23）

土師器

小皿（173）底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.2cm、器高 1.2cm、底径 7.4cm を測る。

瓦器　椀（174・175）内湾する体部から口縁部が直線的にのびる。体部中位の屈曲部はやや肥厚する。体部内外面ともヘラ磨きされる。口径 16.4・16.1cm、器高 6.2・6.3cm 高台径 6.3・6.8cm を測る。

白磁

碗（176）　内底見込に沈線状の段がない碗Ⅳ類で、断面玉縁状の口縁は丸みをもつ。

皿（177）　体部から口縁部まで内湾してのび、上げ底状の底部である。内面は見込に沈圏線をめぐらせ、無文である。体部外面下半まで施釉され、釉下には化粧土が掛けられている。

SK 57 出土遺物（第 16 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（178・179）　口径 8.9cm、器高 1.1・1.3cm、底径 7.9・6.3cm を測る。

杯（180）　口径 13.4m、器高 2.7cm、底径 10.2cm を測る。

SK 60 出土遺物（第 16 図）

土師器　底部の切り離しはヘラによる。

小皿（181 ～ 183）　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.0 ～ 9.4cm、器高 1.5 ～ 1.6cm、底径 6.4 ～ 7.0cm を測る。

丸底杯（184）　体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 15.2cm、器高 3.3cm を測る。

SK 62 出土遺物（第 16 図、図版 23）

土師器

小皿（185 ～ 188）　底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.1 ～ 9.9cm、器高 1.2 ～ 1.3cm、底径 6.4 ～ 7.4cm を測る。

椀（190）　体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径 15.3cm、器高 6.2cm 高台径 6.7cm を測る。

黒色土器　椀（189）　丸みをもつ体部から、直線的な口縁部がのび、口縁下で短く外反する。高台は欠失している。口径 15.7cm を測る。

青磁　碗（191）　幅狭の輪状高台が付く越州窯系青磁碗の底部片である。内底見込、体部との境に沈線を有する。緻密な灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が全面に施釉され、外底に目跡が残る。

SK 63 出土遺物（第 16 図）

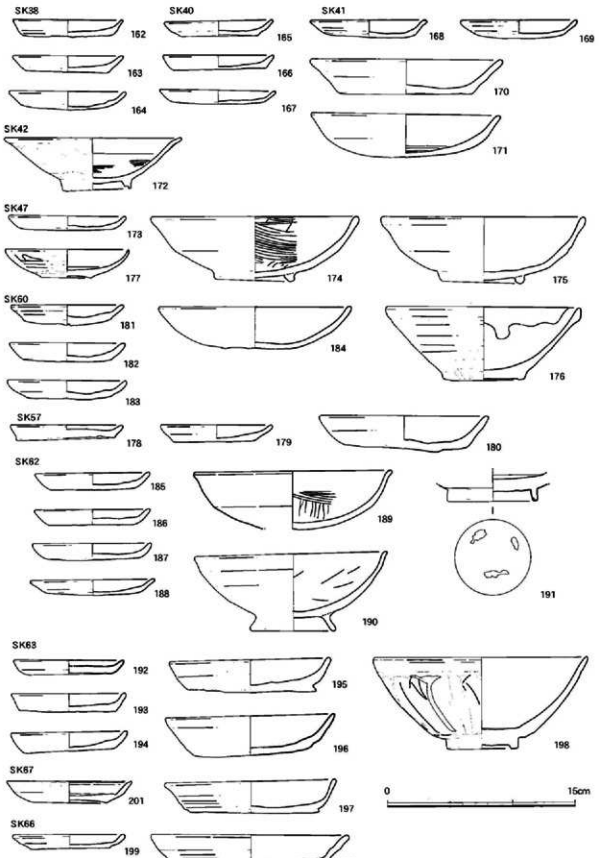
土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（192 ～ 194）　口径 8.8 ～ 9.3cm、器高 1.1 ～ 1.5cm、底径 6.7 ～ 7.5cm を測る。

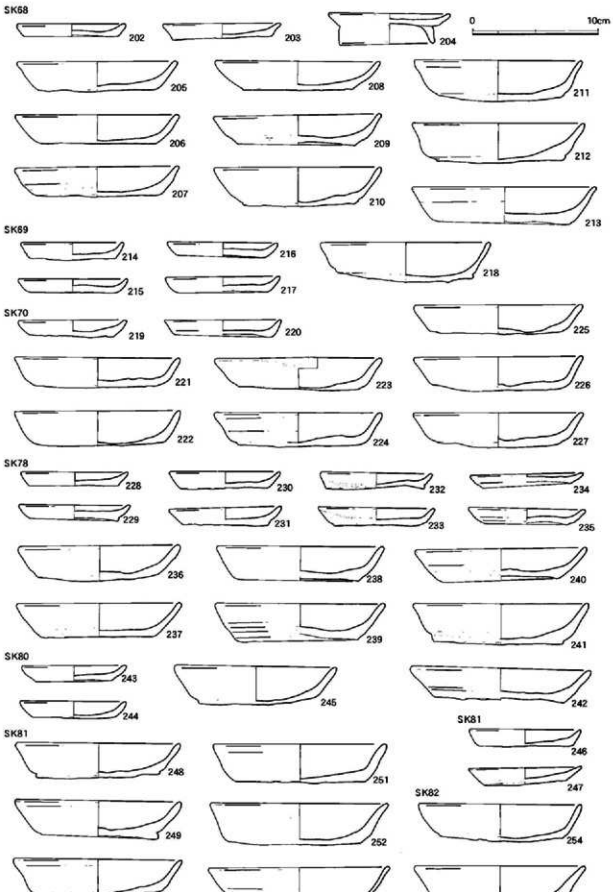
杯（195 ～ 197）　口径 12.8 ～ 13.5cm、器高 2.6 ～ 3.1cm、底径 9.1 ～ 10.2cm を測る。

青磁　碗（198）　体部外面に蓮弁を削り出す。焼成不良で、にぶい橙色の胎土に透明なにぶい橙色の釉が高台畳付まで掛けられている。全面に貫入、ピンホールが入る。

SK 66 出土遺物（第 16 図）



第 16 図　出土遺物実測図 (5)



第 17 図　出土遺物実測図（6）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（199）　口径 8.9cm、器高 1.1cm、底径 6.2cm を測る。

杯（200）　口径 15.7cm、器高 2.7cm、底径 11.5cm を測る。

SK 67 出土遺物（第 16 図）

白磁　皿（201）　口禿の皿で、口縁部は直線的である。

SK 68 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（202・203）　口径 8.7・9.3cm、器高 1.0・1.2cm、底径 7.3・7.8cm を測る。

高台付小皿（204）　外面を直、内面は斜めにする高台を貼付する。口径 9.6cm、器高 2.5cm、高台径 7.9cm を測る。

杯（205 ～ 213）　口径 12.6 ～ 14.7cm、器高 2.3 ～ 3.3cm、底径 8.6 ～ 10.2cm を測る。

SK 69 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（214 ～ 217）　口径 8.2 ～ 9.0cm、器高 1.1 ～ 1.4cm、底径 6.7 ～ 7.0cm を測る。

杯（218）　口径 13.5cm、器高 3.2cm、底径 10.6cm を測る。

SK 70 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（219・220）　口径 8.5・9.2cm、器高 1.3cm、底径 6.7・7.5cm を測る。

杯（221 ～ 227）　口径 13.1 ～ 13.5cm、器高 2.4 ～ 2.8cm、底径 9.5 ～ 10.4cm を測る。

SK 78 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（228 ～ 235）　口径 8.5 ～ 9.3cm、器高 0.9 ～ 1.4cm、底径 6.8 ～ 7.8cm を測る。

杯（236 ～ 242）　口径 12.8 ～ 14.4cm、器高 2.4 ～ 3.3cm、底径 8.8 ～ 10.3cm を測る。

SK 80 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（243・244）　口径 8.3・8.4cm、器高 1.3cm、底径 6.0・6.5cm を測る。

杯（245）　口径 12.9cm、器高 3.0cm、底径 9.0cm を測る。

SK 81 出土遺物（第 17 図）

土師器　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（246・247）　口径 8.8・9.0cm、器高 1.4cm、底径 7.3・6.6cm を測る。

杯（248 ～ 253）　口径 13.1 ～ 14.4cm、器高 2.8 ～ 3.3cm、底径 9.2 ～ 10.4cm を測る。

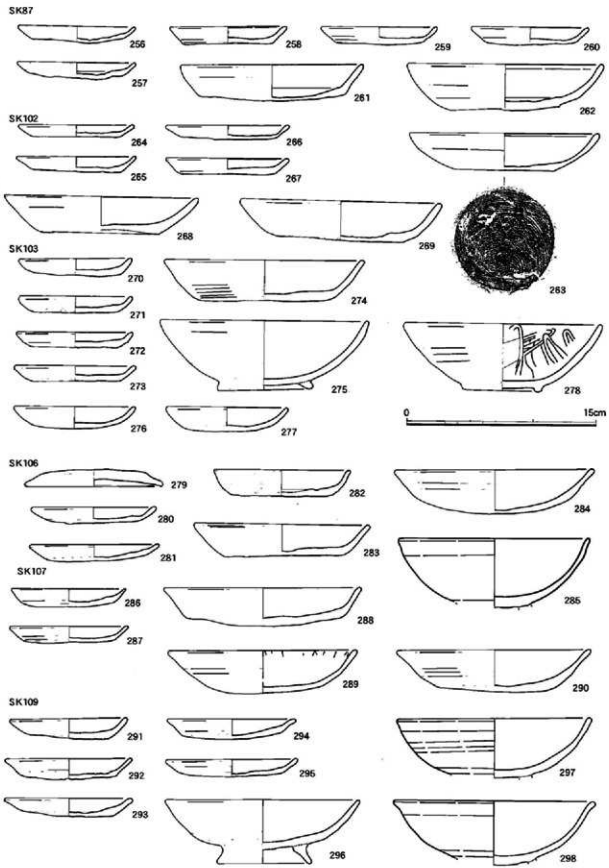
SK 82 出土遺物（第 17 図）

土師器　杯（254・255）　底部は糸切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 13.0・13.7cm、器高 3.0cm、底径 9.8・9.7cm を測る。

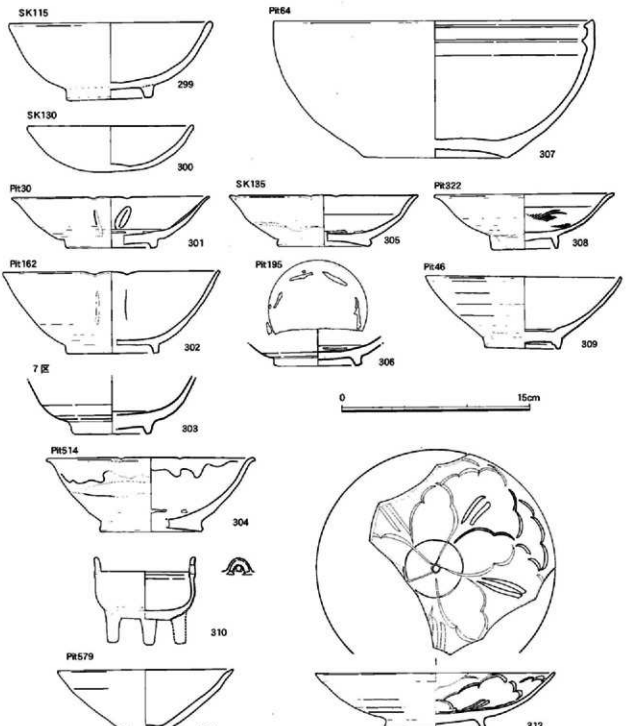
SK 87 出土遺物（第 18 図、図版 23）

土師器　体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（256 ～ 260）　底部はヘラ切り離しによる。256･257 の胎土は精良で浅黄橙色を呈する。白かわらけを意識したものか。一方、258・259・260 の胎土は砂粒を含み、にぶい橙色を呈する。赤かわらけを意識したものか。底部は平坦に作られている。口径 9.2 ～ 9.4cm、器高 1.2 ～ 1.4cm、底径 6.9 ～ 7.3cm を測る。



第 18 図　出土遺物実測図（7）



第 19 図　出土遺物実測図（8）

杯（261～263）　底部は糸切り離しによる。261 は胎土に砂粒を含み、にぶい橙色を呈する。258・259・260 と同じ胎土である。口径 14.4cm、器高 2.9cm、底径 11.4cm を測る。262・263 は体部が内湾し、底径が 261 に比べ小さい。263 の外底部は平坦に仕上げられている。豊前系か。口径 15.5・15.0cm、器高 3.7・3.0cm、底径 8.6・12.8cm を測る。

SK 102 出土遺物（第 18 図）

土師器　底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（264 ～ 267） 264 ～ 266 の胎土は精良で浅黄橙色（白かわらけ）を呈する。267 の胎土は砂粒を含み、にぶい橙色（赤かわらけ）を呈する。底部は平坦に作られている。口径 9.1 ～ 9.7cm、器高 0.9 ～ 1.2cm、底径 6.8 ～ 7.5cm を測る。

杯（268・269） 胎土に砂粒を含み、にぶい橙色を呈する。264 ～ 266 と同じ胎土である。底部は平坦に仕上げられる。口径 15.3・15.9cm、器高 2.9・3.1cm、底径 9.3・9.9cm を測る。

SK 103 出土遺物（第 18 図、図版 23）

土師器 小皿・杯の底部はヘラ切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（270 ～ 273） 口径 8.9 ～ 9.6cm、器高 1.2 ～ 1.3cm、底径 6.6 ～ 7.2cm を測る。

杯（274） 口径 15.4cm、器高 3.2cm、底径 10.8cm を測る。

椀（275） 体部は丸みをもち、上位で屈曲し、短い口縁部が直線的にのびる。体部の内外面が研磨され、浅黄橙色、土師質に焼成されている。口径 16.4cm、器高 5.6cm、高台径 7.4cm を測る。

瓦器

小皿（276・277） 底部はヘラ切り離し、体部の内外面が研磨され、灰色に焼成されている。口径 9.6cm、器高 1.8・2.0cm、底径 7.0・7.1cm を測る。

椀（278） 体部は丸みをもち、口縁部が直線的にのびる。体部の内外面が研磨され、褐灰色に焼成されている。口径 15.7cm、器高 5.4cm、高台径 6.2cm を測る。

SK 106 出土遺物（第 18 図）

土師器 底部の切り離しは 283 が糸による以外はヘラによる。小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（279・280・281） 279 は蓋で、口径 10.9cm、器高 1.4cm、天井部径 8.2cm を測る。身は口径 9.9・10.3cm、器高 1.3cm、底径 7.4・8.0cm を測る。

杯（282・283） 口径 10.8・13.9cm、器高 2.1・2.5cm、底径 7.4・9.2cm を測る。

丸底杯（284） 底部の切り離しは糸による。体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径 15.9cm、器高 3.5cm を測る。

黒色土器 椀（285） 丸みをもつ体部から、直線的な口縁部がのび、口縁下で短く外反する。高台は欠失している。口径 15.1cm を測る。

SK 107 出土遺物（第 18 図）

土師器 底部はヘラ切り離しによる。小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（286・287） 口径 9.1・9.4cm、器高 1.4・1.3cm、底径 7.0・7.2cm を測る。

杯（288） 口径 15.6cm、器高 3.1cm、底径 10.9cm を測る。

丸底杯（289・290） 289 は体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径 14.9cm、器高 2.4cm を測る。290 の内面体部は平滑であるが、底部はナデを施されている。口径 15.4cm、器高 3.3cm を測る。

SK 109 出土遺物（第 18 図、図版 23）

土師器

小皿（291 ～ 295） 底部はヘラ切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.4 ～ 10.4cm、器高 1.4 ～ 1.7cm、底径 6.2 ～ 8.2cm を測る。

椀（296） 体部は丸みをもち、口縁部が直線的にのびる浅めの椀である。体部は内外面との回転横ナデ、口径 15.3cm、器高 5.1cm、高台径 7.4cm を測る。

黒色土器　椀（297・298）　体部は丸みをもち、297 は直線的にのびる、298 は外反する口縁部が付く。高台は欠失している。口径 15.5・16.0cm を測る。

SK 115 出土遺物（第 19 図）

瓦器　椀（299）　丸みを持った体部から、口縁部が直線的にのびる。断面逆台形の高台は幅広で、口径 16.2cm、器高 7.1cm、高台径 6.8cm を測る。

SK 130 出土遺物（第 19 図）

土師器　丸底杯（300）　体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 13.2cm、器高 3.8cm を測る。

Pit 64 出土遺物（第 19 図）

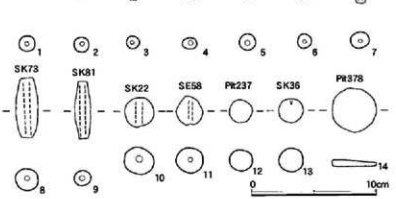
陶器　擂鉢（307）　口縁端部は内傾し、上面をくぼませる。口縁下内面に断面台形の隆帯をめぐらす。内面から体部外面にかけて回転横ナデされ、体部内面は使用によって平滑である。外底部は未調整である。無釉で、胎土には粗い砂粒を多量に含み、灰褐色を呈する。

Pit その他の遺構出土遺物（第 19 図、図版 24）

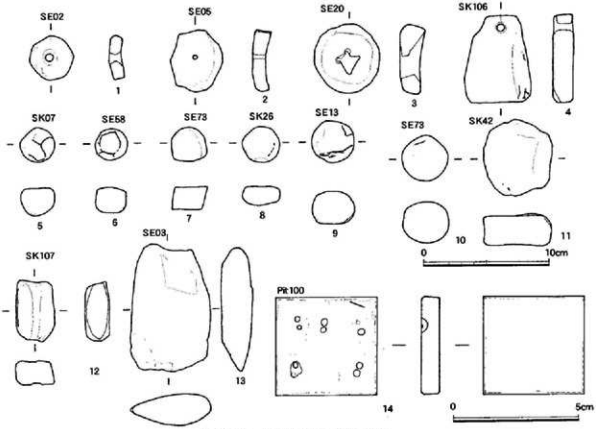
青磁　碗（301 ～ 306）　いずれも越州窯青磁である。301・302 は輪状高台を持ち、体部外面に縦方向の凹線を入れ、区割りする。口縁端部は輪花に刻まれる。全面に施釉される。301 は浅形の碗で、内底見込に沈圏線をめぐらせ、その内側に目跡が残る。細かい砂粒を少量含んだ灰黄色の胎土に、透明な灰オリーブ色の釉が掛けられる。ほぼ全面にピンホールが入る。Pit30 出土。302 は細めの高台で、緻密な灰色の胎土に、透明な灰オリーブ色の釉が掛けられる。Pit162 出土。303 は断面逆台形の高台を持つ底部片である。黄灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が全面に掛けられる。表面採取。304・305 は体部外面下半が施釉されず露胎となっている。釉下には化粧土が掛けられている。上げ底の円盤状底部内外面に目跡が残る。口縁端部を輪花にする。304 は黒色微粒子を多量に含んだ褐灰色の胎土に、透明な灰オリーブ色の釉が掛けられ、露胎の外底部は灰赤色に発色している。Pit514 出土。305 は浅形の碗で、体部中位で屈曲し外反する口縁部がのびる。直径 1 ㎜前後の黒色粒子を多量に含んだ褐灰色の胎土に、透明な灰オリーブ色の釉が掛けられ、発色にむらがあり、ほぼ全面に細かい貫入が入る。SK135 出土。306 はやや外に開く輪状高台を持ち、端部は鋭い。内底見込に沈圏線をめぐらせ、その内側に目跡が残る。緻密な灰黄褐色の胎土に透明な黄褐色の釉が全面に掛けられている。Pit195 出土。

白磁　碗（308・309）308 は浅碗で、口縁部は外反し、体部内面上位の沈圏線内側に櫛目文を施す。Pit322 出土。309 は口縁部が内湾気味にのびる。外面を直、内面を斜めに削り出した高台を持ち、内底見込に段が付き平坦となる。Pit46 出土。

青磁　鼎形香炉（310）　龍泉窯青磁で、管足、把手の一つを欠失している。灰白色の胎土に、透明な緑灰色の釉が全面にかけられ、外底部の釉はカキ取られる。堅



第 20 図　出土遺物実測図（9）



第21図　出土遺物実測図（10）

緻に焼成され、釉には細かい気泡が入る。Plt514 出土。

Pit 579 出土遺物（第19図、図版24・25）

黒釉陶器　碗(311) 東口の天目碗である。口縁下で屈曲し、口縁直下の内面はわずかにくぼむ。内底部は平坦で、高台の内抉りは浅く外側にやや開く。灰褐色の胎土に漆黒の釉が掛けられる。

青磁　碗(312)　撥状の貼り付け高台を持つ浅形の越州窯系青磁碗である。内面に花弁文を片切彫りする。丸みを持った体部から口縁部が直線的にのびる。黄灰色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉が全面に掛けられ、外底に目跡が残る。

土製品（第20・22図）

土錘（1～11）　1～9は管状土錘、10・11は球形を呈する。

12・13は球形、14は円盤状の土製品で、毬杖玉、瓦玉か。

毬杖玉（1・2）　直径2cm前後の小型のものである。

瓦玉（3～41）　瓦や土製品を再加工したもので、直径は2～8cm。

石製品（第21・23図）　製品ではないがSK 111からは水晶が出土している（図版25）。

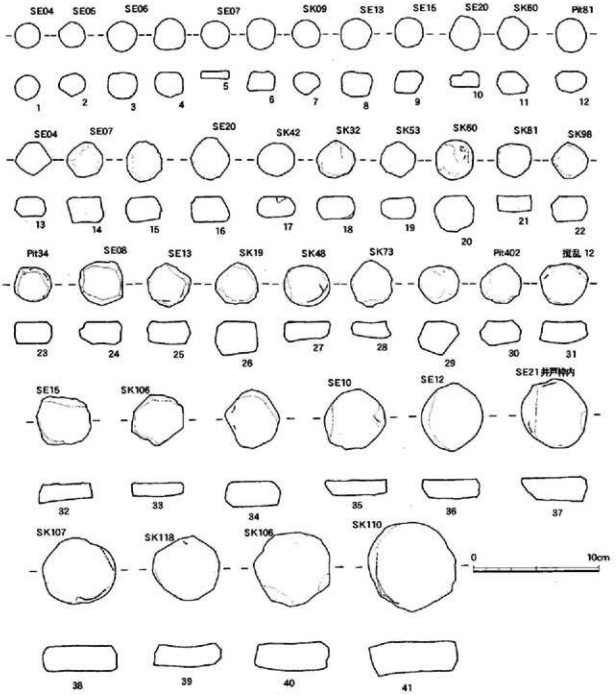
紡錘車（1～3）　円盤状を呈し、円の中心に穿孔される。滑石製石鍋を再加工したものである。

温石（4）　台形状の一端に穿孔されている。

毬杖玉（5・9・10）

瓦玉（6～8）

石錘（12）　紐掛けの溝を一本入れる。



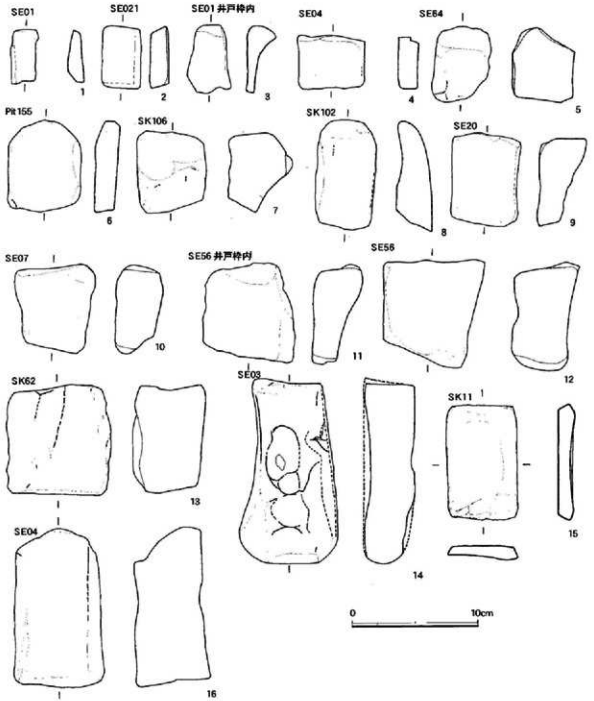
第 22 図　出土遺物実測図（11）

石斧（13）

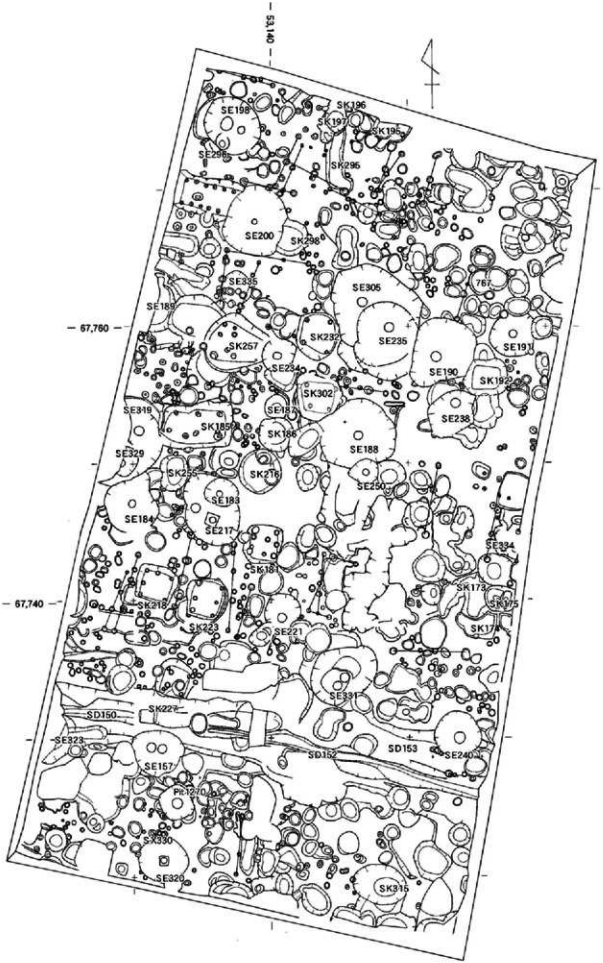
石帯巡方（14）長さ 4.0 cm、幅 3.9 cm、厚さ 0.7 cm を測り、裏面の一部が欠失している。裏面以外は丁寧に研磨され光沢が残り、漆黒色を呈する。裏面には 5 ヵ所 2 個ずつかがり穴が穿たれる。

砥石（23 － 1 ～ 14・16）

硯（23 － 15）滑石製石鍋を再加工したものである。



第 23 図　出土遺物実測図（12）



第 24 図　箱崎遺跡第 26 次調査 8 区遺構配置図

V　8区の調査　－遺構と遺物－

1　検出遺構

井戸

SE 157（第 25 図　図版 12）

調査区南西で検出した。掘り方は上面径 3.4 ～ 3.8m の略円形を呈し、深さは 1.7 mを測る。基底部中央に直径 60cm、深さ 30cm と直径 90cm、深さ 35cm の桶側の痕跡がみられた。２基の井戸が重複したものであるが、切り合いは不明。底面の標高 0.8 mを測る。

SE 217（第 25 図　図版 12）

調査区中央のやや西側で検出した。掘り方は上面径 4.2m の円形を呈し、北東がＳＥ 183 に切られる。深さは 2.2 mを測る。基底部中央に一辺 95cm、深さ 55cm の井桁とその下部に直径 50cm、深さ 40cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.7 mを測る。

SE 183（第 25 図　図版 12）

調査区中央のやや西側で検出した。掘り方は上面径 2.2 ～ 2.5m の略円形を呈し、ＳＥ 217 を切る。深さは 2.3 mを測る。基底部中央に直径 45cm、深さ 20cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6 mを測る。

SE 184（第 25 図　図版 12）

調査区中央西側で検出した。掘り方は上面径3.9m の円形を呈し、深さは 2.6 mを測る。基底部中央に直径 60cm、深さ 55cm の桶側が掘えられていた。底面の標高 0.4 mを測る。

SE 190（第 26 図　図版 13）

調査区中央のやや北東で検出した。掘り方は一辺4.5m の隅丸方形を呈し、深さは 2.0 mを測る。基底部の南西に直径 70cm、深さ 30cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.7 mを測る。

SE 191（第 26 図　図版 13）

調査区北東で検出した。掘り方は一辺 3.2 mの隅丸方形を呈し、深さは 2.2 mを測る。基底部中央に直径 55cm、深さ 20cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.7 mを測る。

SE 221（第 26 図　図版 14）

調査区中央のやや南側で検出した。掘り方は上面径2.5m の円形を呈し、深さは 2.4 mを測る。基底部中央よりやや南に直径 55cm、深さ 55cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.5 mを測る。

SE 200（第 26 図　図版 14）

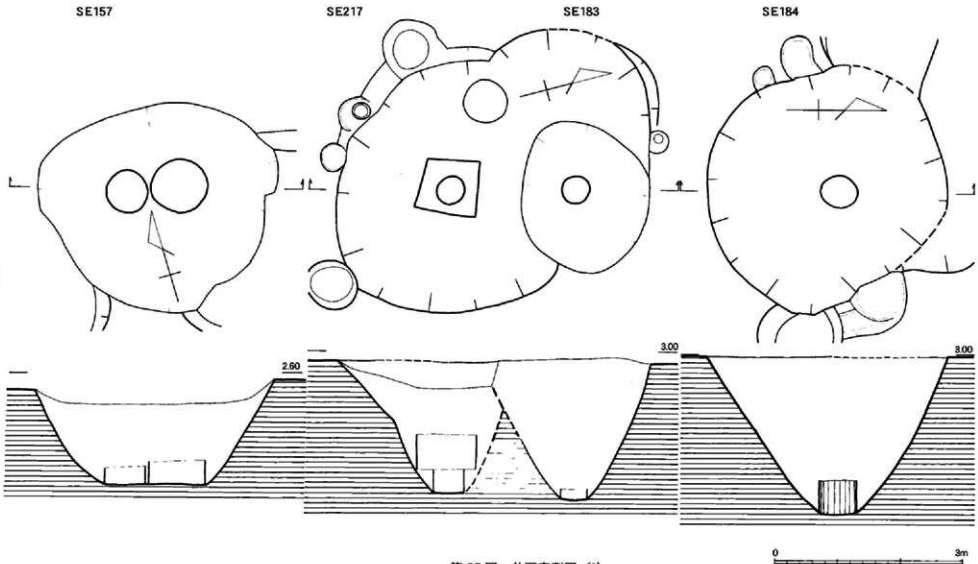
調査区北西で検出した。掘り方は上面径 4.2 ～ 5.0m の略円形を呈し、深さ 2.5 mを測る。基底部中央よりやや北側に直径 30cm、深さ 5cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.3 mを測る。

SE 188（第 27 図　図版 13）

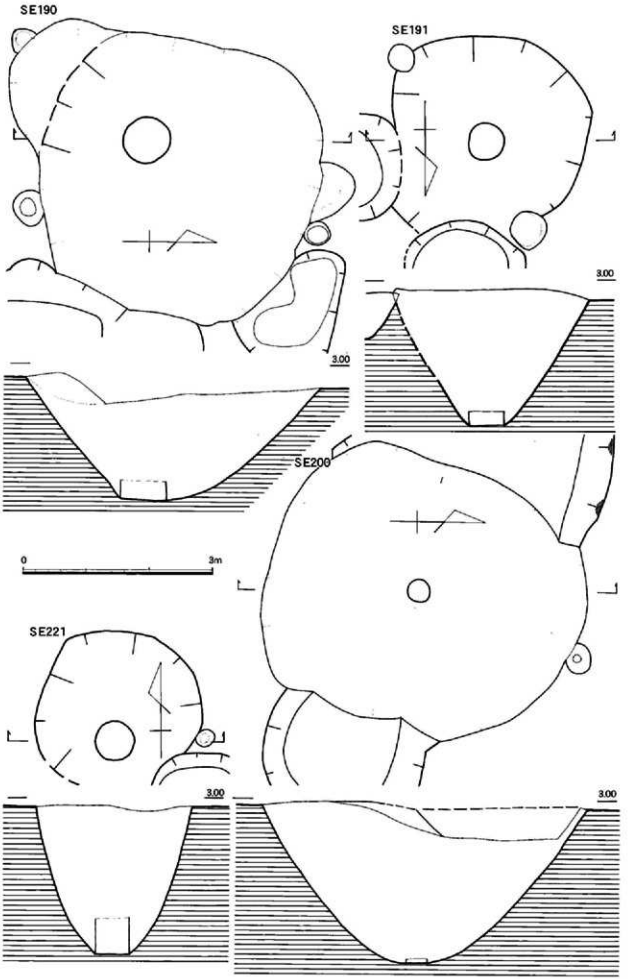
調査区中央で検出した。掘り方は上面径 5.0 ～ 5.6m の略円形を呈し、南端がＳＥ 250 に切られる。深さ 2.4 mを測る。基底部中央に直径 65cm、深さ 55cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.45 mを測る。

SE 250（第 27 図　図版 15）

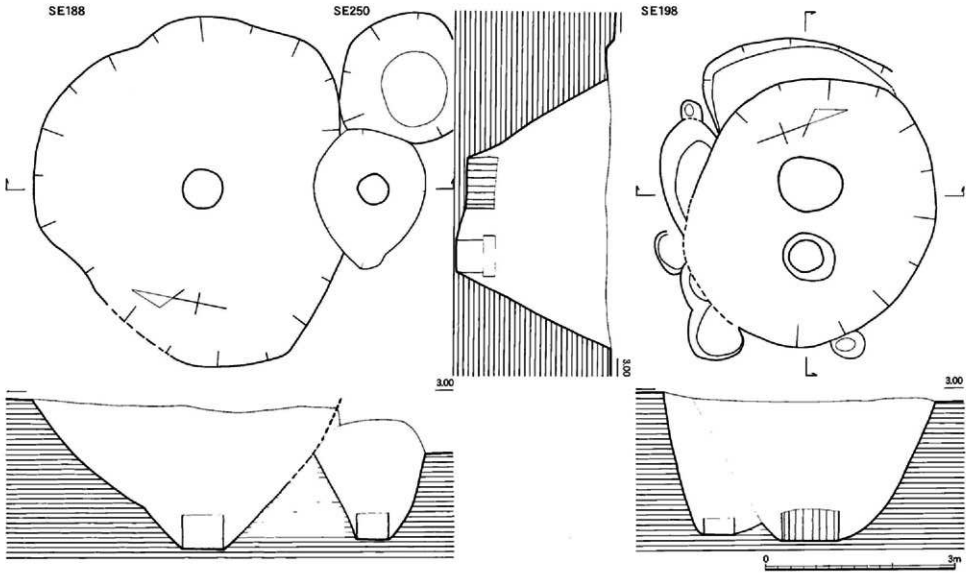
調査区中央で検出した。掘り方は上面径 1.8 ～ 2.0m の略円形を呈し、ＳＥ 188 を切る。深さ 1.9



第 25 図　井戸実測図 (1)



第 26 図　井戸実測図 (2)



第 27 図　井戸実測図 (3)

mを測る。基底部中央に直径 50cm、深 40cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6 mを測る。

SE 198（第 27 図　図版 13）

調査区北西端で検出した。掘り方は上面径 3.8 ～ 4.4m の略円形を呈し、深さは 1.7 mを測る。S E 296 を切る。基底部西側に直径 90cm、深さ 50cm の桶側が掘られ、東側には直径 65cm、深さ 20cm の桶側痕、その下部には直径 50cm、深さ 40cm の桶側痕がみられた。２基の井戸が重複したものであるが、切り合いは不明。底面の標高はそれぞれ 0.6・0.4 mを測る。

SE 235（第 28 図　図版 15）

調査区中央のやや北東で検出した。掘り方は上面径 4.5m の円形を呈し、S E 305 を切る。深さ 2.6 mを測る。基底部中央に直径 75cm、深 65cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.35 mを測る。

SE 305（第 28 図）

調査区中央のやや北側で検出した。掘り方は上面径 3.2m の略円形を呈し、S E 235 に切られる。深さ 2.5 mを測る。基底部中央に直径 65cm、深 35cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.4 m を測る。底面北側辺でさらにS E 305 に切られた直径 65cm、深 45cm の桶側の痕跡を検出した。底面の標高は 0.4 mを測る。

SE 234（第 28 図　図版 14）

調査区中央のやや北西で検出した。掘り方は上面径 2.2 ～ 2.5m の略円形を呈し、深さ 2.2 mを測る。基底部中央に直径 60cm、深さ 15cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.7 mを測る。

SE 238（第 29 図　図版 15）

調査区中央のやや北東で検出した。掘り方は上面径 3.0 ～ 3.6m の略円形を呈し、深さ 2.1 mを測る。基底部北側に直径 70cm、深さ 50cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6 mを測る。

SE 240（第 29 図　図版 15）

調査区南東で検出した。掘り方は上面径 3.2m の円形を呈し、深さ 2.4 mを測る。基底部中央に直径 80cm、深さ 40cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.55 mを測る。

SE 319（第 29 図　図版 16）

調査区中央西端で遺構の東半部を検出した。掘り方は上面径 4.8m の円形を呈し、深さ 2.3 mを測る。基底部中央に直径 65cm、深さ 15cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高は 0.75 mを測る。

SE 329（第 29 図　図版 16）

調査区中央西端で遺構の東半部を検出した。掘り方は上面径 2.2m の円形を呈し、深さ 0.85 mを測る。基底部中央に直径 55cm、深さ 35cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高は 0.6 mを測る。

SE 320（第 30 図　図版 16）

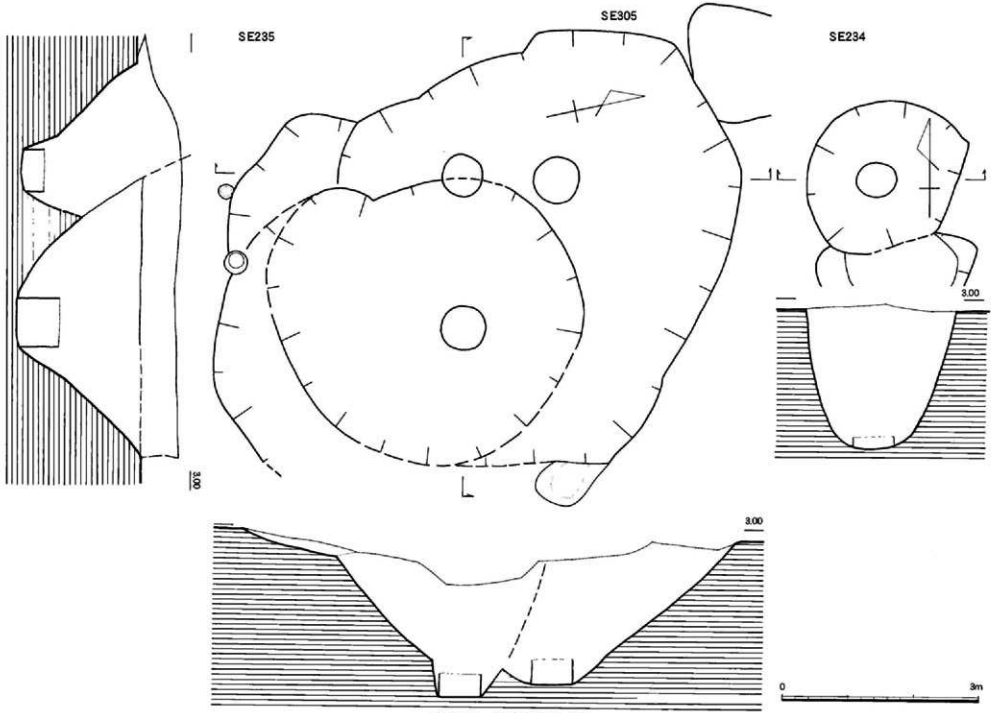
調査区南端で検出した。掘り方は上面径 3.2 ～ 3.6m の略円形を呈し、深さは 2.2 mを測る。基底部中央に一辺 65cm、深さ 5cm の井桁とその下部に直径 45cm、深さ 20cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.6 mを測る。

SE 331（第 30 図　図版 17）

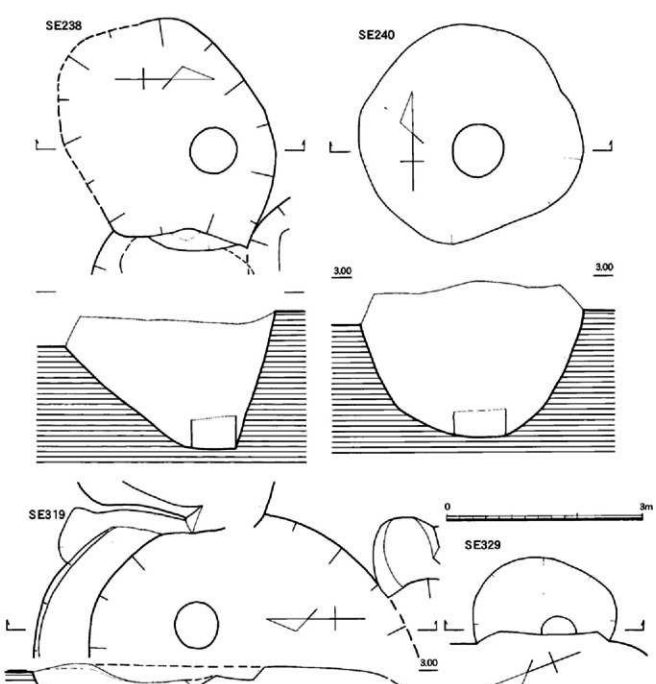
調査区南側で検出した。掘り方は上面径 4.0 ～ 5.2m の略円形を呈し、深さは 2.1 mを測る。基底部中央に直径 65cm、深さ 70cm と直径 70cm、深さ 40cm の桶側の痕跡がみられた。２基の井戸が重複したものであるが、切り合いは不明。底面の標高 0.6・0.65 mを測る。

SE 334（第 30 図）

調査区中央東端で検出した。掘り方は一辺 2.4m の円形を呈し、深さは 1.7 mを測る。桶側の痕跡はみられなかった。底面の標高 0.35 mを測る。



第28図　井戸実測図（4）

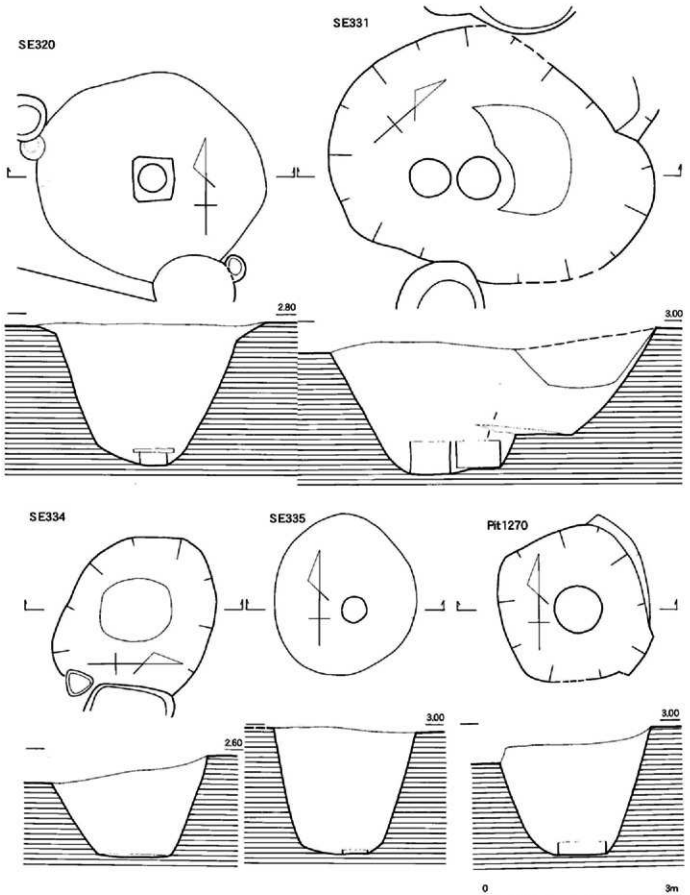


第 29 図　井戸実測図 (5)

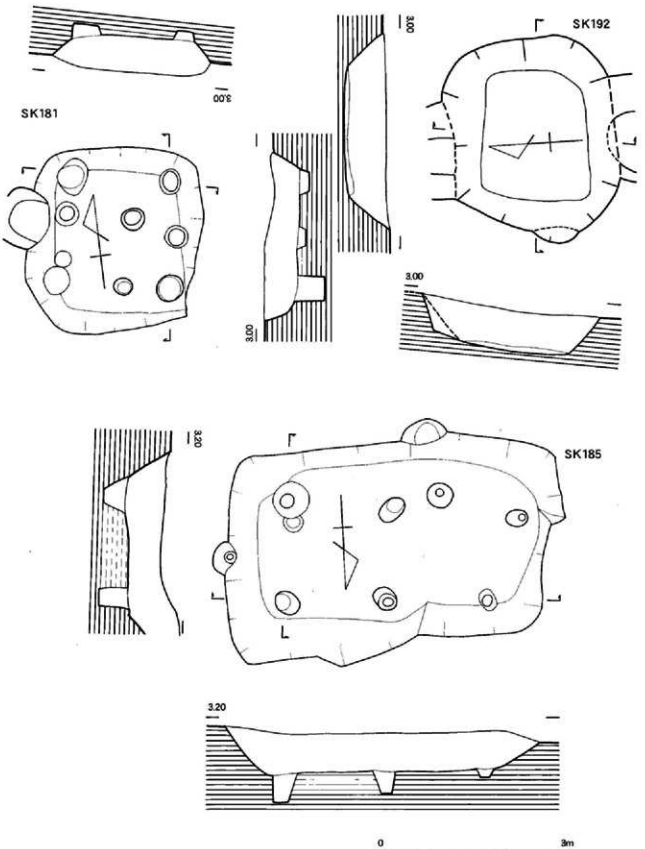
SE 335（第 30 図）

調査区北西で検出した。掘り方は上面径 2.3 ～ 2.6m の略円形を呈し、深さ 2.0 mを測る。基底部中央やや西寄りに直径 70cm、深さ 5cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.95 mを測る。

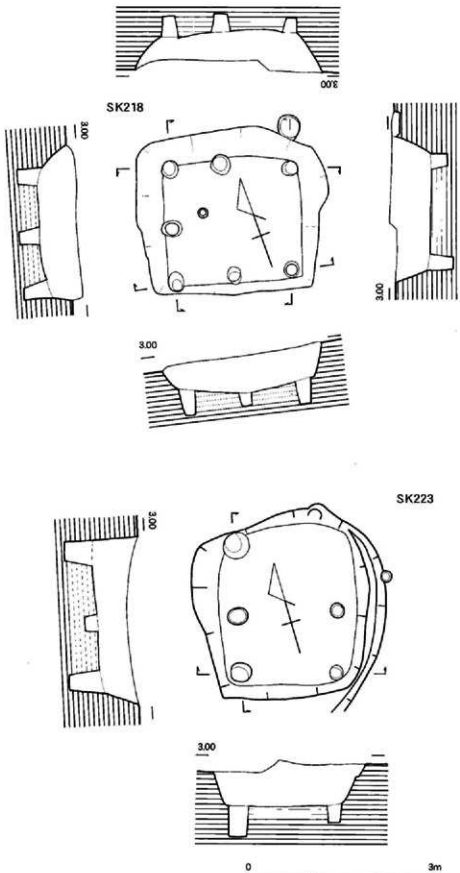
Pit 1270（第 30 図　図版 17）



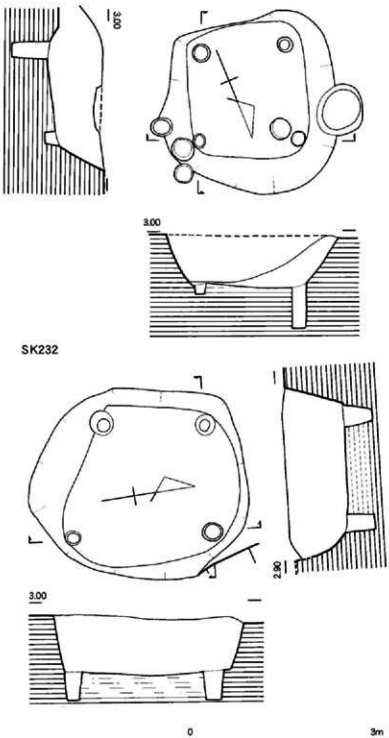
第 30 図　井戸実測図 (6)



第31図　方形竪穴実測図（1）



第 32 図　方形竪穴実測図（2）

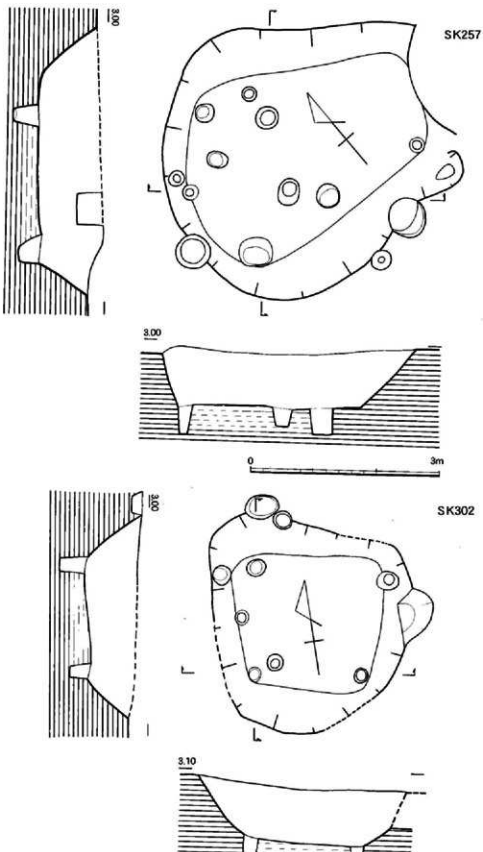


第 33 図　方形竪穴実測図（3）

調査区南西で検出した。掘り方は一辺 2.4 mの隅丸方形を呈し、深さは 2.0 mを測る。基底部中央に直径 75cm、深さ 20cm の桶側の痕跡がみられた。底面の標高 0.9 mを測る。

方形竪穴

SK 181（第 31 図　図版 17）



第 34 図　方形竪穴実測図 (4)

調査区の中央部で検出した。一辺 3.0 mの隅丸方形を呈し、深さは 0.5 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅には直径 40cm 前後の柱穴を配する。方位はほぼ真北に取る。

SK 185（第 31 図　図版 17）

調査区中央のやや西側で検出した。長辺 3.0 m、短辺 2.7 mの隅丸方形を呈し、深さは 0.65 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面に柱穴は検出されなかった。方位はほぼ真北に取る。

SK 192（第 31 図　図版 19）

調査区北東で検出した。一辺 3.0 mの隅丸方形の竪穴が 2 基重複するものであるが、切り合いは確認できなかった。2 基とも、深さは 0.65 mを測り、壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅には直径 30cm 前後の柱穴を配する。方位はほぼ真北に取る。

SK 218（第 32 図　図版 17）

調査区中央のやや南西で検出した。東側はＳＫ 223 方形竪穴と隣接する。長辺 3.0 m、短辺 2.6 mの隅丸方形を呈し、深さは 0.65 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅と東側を除くその中間に直径 30cm 前後の柱穴を配する。方位はN-20°-E に取る。

SK 223（第 32 図　図版 17）

調査区中央のやや南西で検出した。東側はＳＫ 218 方形竪穴と隣接する。長辺 3.0 m、短辺 2.6 mの隅丸方形を呈し、深さは 0.75 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の北東隅を除く四隅と南北方向の中間に直径 30cm 前後の柱穴を配する。方位はN-20°-E に取る。

SK 227（第 33 図　図版 18）

調査区南西で検出した。一辺 3.0 mの隅丸方形を呈し、深さは 0.85 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅には直径 40cm 前後の柱穴を配する。方位はN-20°-E に取る。

SK 232（第 33 図　図版 18）

調査区の中央部で検出した。いびつな一辺 3.0 m前後の隅丸方形を呈し、深さは 0.95 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅には直径 30cm 前後の柱穴を配する。方位はほぼ真北に取る。

SK 257（第 34 図　図版 18）

調査区中央のやや北西で検出した。長径 5.0 m、短径 4.5 mの不整円形を呈し、深さは 0.85 ～ 1.0 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面で直径 30 ～ 50cm の柱穴を検出したが、不規則に散在している。

SK 302（第 34 図　図版 18）

調査区中央部で検出した。遺構周囲の大半を他の遺構によって切られているが、元は一辺 3.3 m前後の隅丸方形を呈していたものであろう。深さは 0.85 mを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面の四隅には直径 30cm 前後の柱穴を配する。方位はN-20°-E に取る。

2　出土遺物

SE 157 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（1・2）底部は糸切り、1 は体部外面から内底まで回転横ナデ、2 は体部が回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.1・9.0cm、器高 1.3・1.4cm、底径 6.4・7.0cm を測る。

青磁　皿（3）体部中位で屈曲し、口縁部が短く直線的にのびる。内底見込に魚文の片切彫りを施している。

SE 183 出土遺物（第 35 図）

土師器　底部はヘラ切り離しによる。

小皿（4 ～ 7）1 ～ 6 は体部が回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.3 ～ 9.5cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、底径 6.9 ～ 7.6cm を測る。7 の器形は丸底杯を小型化したもので、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にされ、器面の調整方法も丸底杯と同じくする。口径 10.4cm、器高 1.9cm を測る。

高台付小皿（8）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残り、外に開く高台を貼付する。口径 10.7cm、器高 2.4cm、底径 7.9cm、高台径 5.7cm を測る。

SE 184 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（9）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.6cm、器高 1.1cm、底径 7.1cm を測る。井戸枠内出土である。

SE 190 出土遺物（第 35 図）

土師器

小皿（10）底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.2cm、器高 1.2cm、底径 6.9cm を測る。

（11）屈曲する体部の上位を欠失している。底部は糸切り離し、残存する体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。底径 4.8cm を測る。

SE 191 出土遺物（第 35 図）

土師器　杯（12・13）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 14.7・15.1cm、器高 2.8・2.7cm、底径 10.7・10.0cm を測る。

SE 198 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（14 ～ 16）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.0 ～ 9.5cm、器高 1.3 ～ 1.4cm、底径 7.2 ～ 7.9cm を測る。

SE 200 出土遺物（第 35 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（17 ～ 19）口径 8.2 ～ 8.6cm、器高 1.0 ～ 1.4cm、底径 5.8 ～ 6.9cm を測る。

杯（20・21）口径 15.7・16.2cm、器高 3.4・2.9cm、底径 9.9・12.4cm を測る。

SE 221 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（22・23）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.7・9.2cm、器高 1.0・1.3cm、底径 6.9・7.0cm を測る。

SE 235 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（24）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.8cm、器高 1.5cm、底径 6.5cm を測る。

SE 238 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（25）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.0cm、器高 1.0cm、底径 6.8cm を測る。

SE 240 出土遺物（第 35 図）

土師器　小皿（26）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.3cm、器高 1.1cm、底径 7.3cm を測る。

SE 326 出土遺物（第 35 図）　すべて井戸枠内からの出土である。

土師器　底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（27）口径 8.7cm、器高 1.5cm、底径 6.2cm を測る。

特小皿（28）口径 8.3cm、器高 2.2cm、底径 5.7cm を測る。27 より器高がやや高く、底径の口径に対する比率が大きい。

青磁　小碗(29)　高台は外面を直、内面を斜めに削り出す。灰白色の胎土に灰オリーブ色の釉が高台外側まで掛けられる。内底見込の釉は掻き取られ、露胎となっている。

SE 334 出土遺物（第 35 図）

土師器　底部はヘラ切り離しによる。

小皿（30）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 10.1cm、器高 1.3cm、底径 7.3cm を測る。

丸底杯(31)　体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状の工具で平滑にする。口径 15.5cm、器高 3.6cm を測る。

SD 150 出土遺物（第 35 図）　他に酒会壺片が出土している（図版 25）。

土師器　底部は糸切り離しによる。

特小皿（32）体部外面から内底まで回転横ナデ、口径 6.0cm、器高 1.6cm、底径 4.5cm を測る。

杯（34・35）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 14.5・14.3cm、器高 2.9・2.7cm、底径 9.4・9.3cm を測る。

陶器　皿(33)　朝鮮王朝陶器で、体部中位の屈曲部から口縁部が外反してのびる。高台内の削り出しは浅い。見込と畳付に目跡がみられる。

SD 151 出土遺物（第 35 図）

土師器　底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（36 ～ 42）口径 8.6 ～ 10.2cm、器高 1.0 ～ 1.5cm、底径 6.5 ～ 8.4cm を測る。39 ～ 42 の胎土は精良でほぼ橙色を呈し、底部は平坦に作られている。法量も 36 ～ 38 より大きい。

杯（44・45）口径 12.3・12.1cm、器高 2.8・2.4cm、底径 9.2・9.6cm を測る。

白磁　皿（43）体部・口縁部はほぼ直線的にのびる。底部は平坦で、全面施釉の後口縁端部の釉を削り取り、口禿となっている。

SD 152 出土遺物（第 35 図）

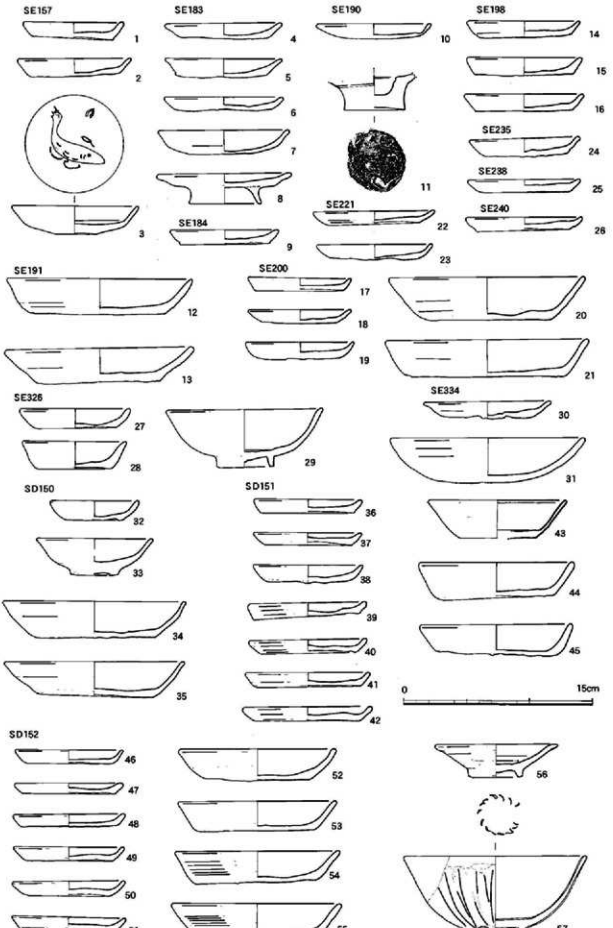
土師器　底部は糸切り離しにより、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（46 ～ 51）口径 8.5 ～ 8.9cm、器高 0.9 ～ 1.2cm、底径 6.3 ～ 7.5cm を測る。

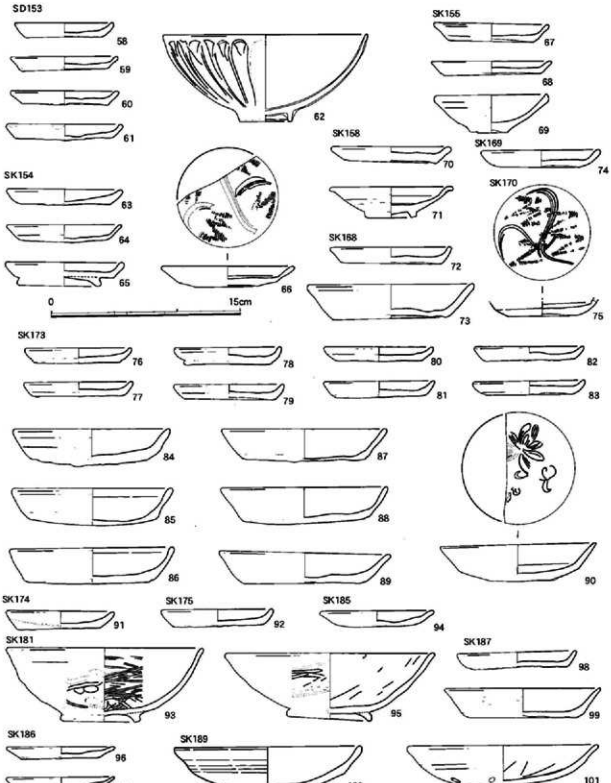
杯（52 ～ 55）口径 12.4 ～ 13.4cm、器高 2.3 ～ 2.8cm、底径 8.1 ～ 9.5cm を測る。

白磁　皿（56）口縁部が外反し、内底見込を輪状に掻き取る高台杯皿である。

青磁　碗（57）口縁部はやや外反し、体部外面には蓮弁を細長く削り出している。灰白色の胎土にマットに発色したオリーブ灰色の釉が幅狭の高台先端を除いて全面に掛けられる。



第35図　出土遺物実測図（1）



第 36 図　出土遺物実測図（2）

SD 153 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（58 ～ 61）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 7.8 ～ 9.2cm、器高 1.1 ～ 1.3cm、底径 5.9 ～ 7.7cm を測る。61 の口縁端部には煤が付着している。

青磁　碗(62)　細い高台先端を除き全面施釉され、丸みを持った体部から口縁部が直線的にのびる。高台径は小さく、体部外面には蓮弁を細長く削り出している。灰白色の胎土に明緑灰色の釉が掛けられている。

SK 154 出土遺物（第 36 図）

土師器　底部は 64 がヘラ、63・65 は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。

小皿（63・64）口径 9.1cm、器高 1.3・1.4cm、底径 7.1・6.9cm を測る。

高台杯小皿（65）外に開く低い高台を貼付する。口径 7.4cm、器高 1.8cm、高台径 7.6cm を測る。

青磁　皿（66）体部中位で屈曲し、外反する口縁部がのびる。平坦な内底見込に之字形点綴文を施す。

SK 155 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（67・68）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.1・9.5cm、器高 1.4・1.1cm、底径 6.7・7.9cm を測る。

陶器　碗（69）上げ底状の底部の削り出しは粗雑で、口縁部は直線的にのび、端部が外傾する。

SK 158 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（70）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.5cm、器高 1.2cm、底径 7.3cm を測る。

白磁　皿（71）口縁部が外反し、内底見込を輪状に掻き取る高台杯皿である。

SK 168 出土遺物（第 36 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（72）口径 9.1cm、器高 1.4cm、底径 6.7cm を測る。

杯（73）口径 13.1cm、器高 2.7cm、底径 8.8cm を測る。

SK 169 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（74）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.4cm、器高 1.4cm、底径 6.2cm を測る。

SK 170 出土遺物（第 36 図）

青磁　皿(75)　体部中位の屈曲まで残存し、口縁部は欠失している。平坦な内底見込に之字形点綴文を施す。

SK 173 出土遺物（第 36 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（76 ～ 83）口径 8.5 ～ 9.0cm、器高 1.1 ～ 1.3cm、底径 6.7 ～ 7.1cm を測る。

杯（84 ～ 89）口径 12.5 ～ 13.6cm、器高 2.5 ～ 3.0cm、底径 9.1 ～ 9.9cm を測る。

青磁　皿(90)　体部中位のやや下で屈曲し、口縁部が直線的にのびる。内底見込に花弁文のスタンプを押す。

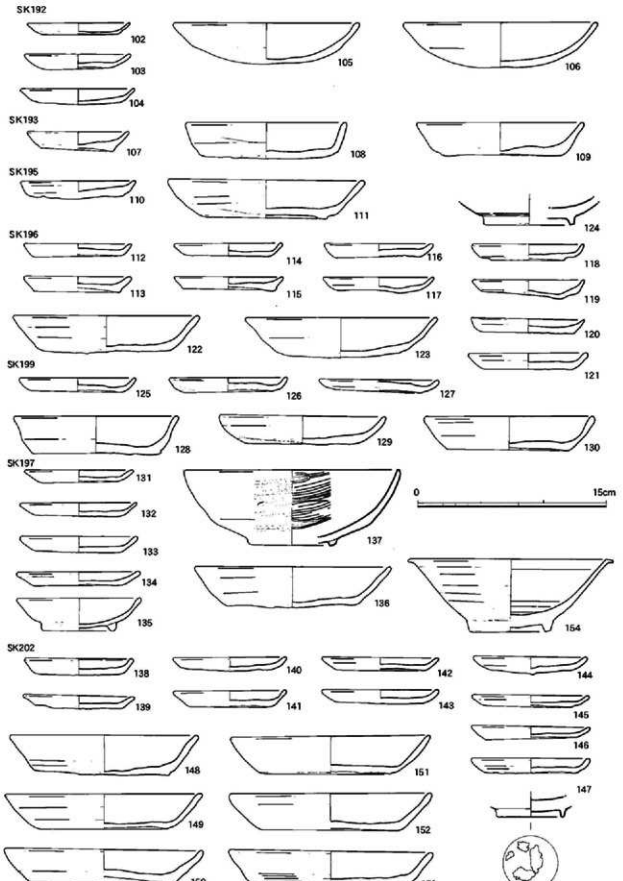
SK 174 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（91）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.5cm、器高 1.3cm、底径 6.5cm を測る。

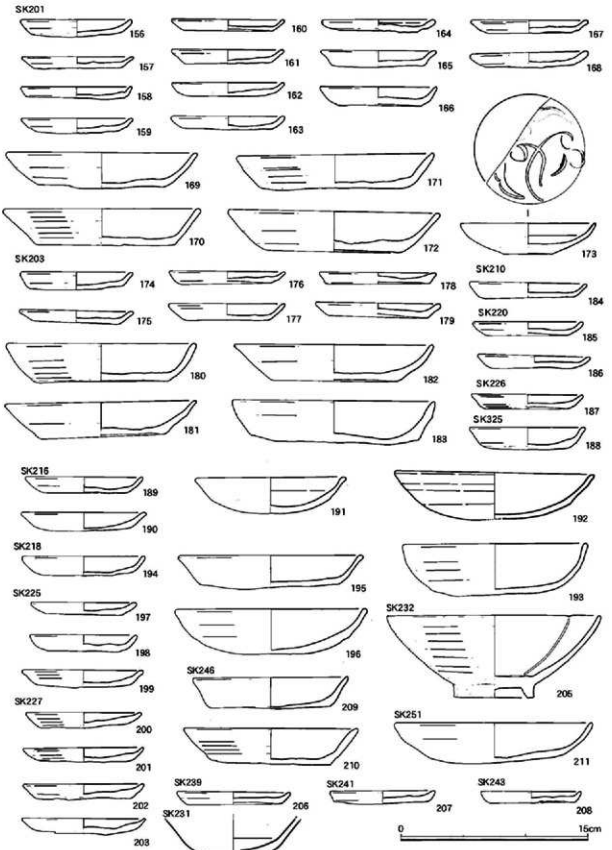
SK 175 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（92）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.8cm、器高 1.4cm、底径 7.1cm を測る。

SK 181 出土遺物（第 36 図）



第 37 図　出土遺物実測図（3）



第 38 図　出土遺物実測図 (4)

黒色土器　椀（93）　内湾する体部に外反する口縁部が短くつく。口径 15.7cm、器高 5.9cm、高台径 6.3cm を測る。

SK 185 出土遺物（第 36 図）

土師器

小皿（94）底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.1cm、器高 1.3cm、底径 6.7cm を測る。

椀（95）内湾する体部から口縁部が直線的にのびる研磨土師器椀である。体部中位がやや肥厚する。口径 16.6cm、器高 5.3cm、高台径 6.7cm を測る。

SK 186 出土遺物（第 36 図）

土師器　小皿（96・97）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.6cm、器高 1.0・1.1cm、底径 6.3・6.4cm を測る。

SK 187 出土遺物（第 36 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（98）口径 9.5cm、器高 1.2cm、底径 7.9cm を測る。

杯（99）口径 12.4cm、器高 2.3cm、底径 8.4cm を測る。

SK 189 出土遺物（第 36 図）

土師器　丸底杯（100・101）底部はヘラ切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。体底部に指頭圧痕が残る。口径 14.8・15.2cm、器高 3.5・3.2cm を測る。

SK 192 出土遺物（第 37 図）

土師器

小皿（102 ～ 104）底部は 104 がヘラ、102・103 は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。103 は口径 8.4cm、器高 1.2cm、底径 4.9cm を測り、底径の口径に対する比率が小さい。102・104 は口径 9.2・9.1cm、器高 0.9・1.3cm、底径 5.9・7.0cm を測る。

丸底杯（105・106）底部はヘラ切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 10.5・10.6cm、器高 3.3・3.6cm を測る。

SK 193 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（107）口径 8.0cm、器高 1.5cm、底径 5.6cm を測る。

杯（108・109）口径 12.8・14.3cm、器高 2.9・2.6cm、底径 9.9・9.6cm を測る。

SK 195 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（110）口径 9.1cm、器高 1.4cm、底径 7.1cm を測る。

杯（111）口径 15.5cm、器高 3.0cm、底径 10.0cm を測る。

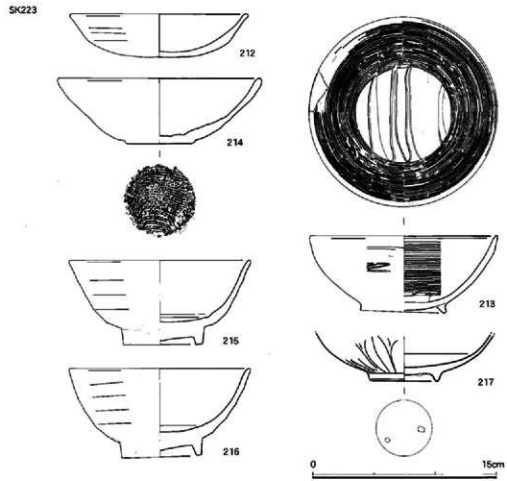
SK 196 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（112 ～ 121）口径 8.5 ～ 9.5cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、底径 5.9 ～ 7.4cm を測る。

杯（122・123）口径 14.8・15.3cm、器高 2.9・3.2cm、底径 10.2・9.5cm を測る。

青磁　碗（124）　靖部を鋭く輪状に高台を削り出した越州窯系青磁碗底部片で、緻密な灰黄褐色の胎土に透明な灰オリーブ色の釉を全面に掛ける。釉には気泡が入る。



第 39 図　出土遺物実測図（5）

SK 199 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（125 ～ 127）　口径 7.2 ～ 9.5cm、器高 0.9 ～ 1.1cm、底径 6.7 ～ 7.6cm を測る。

杯（128 ～ 130）　口径 13.0 ～ 13.5cm、器高 2.6 ～ 3.0cm、底径 8.8 ～ 10.2cm を測る。

SK 197 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（131 ～ 134）　口径 8.6 ～ 9.8cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、底径 5.9 ～ 7.0cm を測る。

高台付小皿（135）　小型化した丸底杯に断面半円形の高台を貼付する。体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面を平滑にし、丸底杯と同じ器面調整である。口径 9.8cm、器高 2.6cm、高台径 5.9cm を測る。

杯（136）　口径 15.5cm、器高 3.3cm、底径 10.3cm を測る。

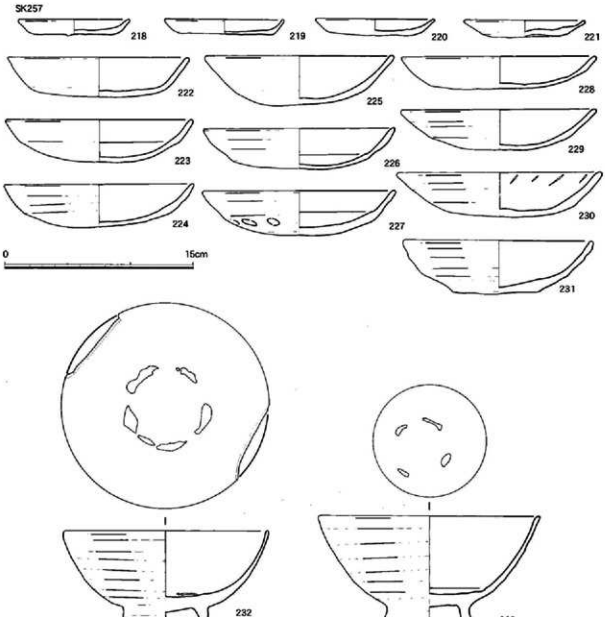
瓦器　椀（137）　体部中位で屈曲し、口縁部まで内湾気味にのびる。口径 17.1cm、器高 6.1cm、高台径 7.0cm を測る。

SK 202 出土遺物（第 37 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（138 ～ 147）　口径 8.6 ～ 9.5cm、器高 0.9 ～ 1.5cm、底径 6.4 ～ 7.3cm を測る。

杯（148 ～ 153）　口径 15.0 ～ 16.2cm、器高 2.8 ～ 3.1cm、底径 10.1 ～ 12.0cm を測る。



第 40 図　出土遺物実測図（6）

白磁　碗（154）直線的にのびる体部から口縁部を外反させ端部を水平におさめる。内底見込の釉を輪状に削り取っている。

青磁　碗（155）幅狭の輪状高台が付く越州窯系青磁碗底部片で、緻密な黄灰色の胎土に、透明な灰オリーブ色の釉が掛けられ、外底部には目跡がみられる。

SK 201 出土遺物（第 38 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（156 ～ 168）口径 8.7 ～ 9.4cm、器高 0.9 ～ 1.5cm、底径 6.4 ～ 7.4cm を測る。

杯（169 ～ 172）口径 15.2 ～ 16.8cm、器高 2.6 ～ 3.2cm、底径 9.9 ～ 11.2cm を測る。

白磁　皿（173）体部は口縁部まで直線的にのび、底部は平坦。屈曲する体部中位の内面に沈圏線をめぐらせ、その内側に蓮華折枝文を片切彫りする。

SK 203 出土遺物（第 38 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（174 ～ 179）口径 8.9 ～ 9.9cm、器高 0.7 ～ 1.4cm、底径 6.4 ～ 8.0cm を測る。

杯（180 ～ 183）口径 15.0 ～ 16.1cm、器高 2.8 ～ 3.4cm、底径 9.6 ～ 13.2cm を測る。

SK 210 出土遺物（第 38 図）

土師器　小皿（184）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.3cm、器高 1.2cm、底径 7.5cm を測る。

SK 220 出土遺物（第 38 図）

土師器　小皿（185・186）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.8・9.0cm、器高 1.1・1.0cm、底径 6.2・6.8cm を測る。

SK 226 出土遺物（第 38 図）

土師器　小皿（187）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 8.8cm、器高 1.1cm、底径 6.6cm を測る。

SK 325 出土遺物（第 38 図）

土師器　小皿（188）底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.2cm、器高 1.8cm、底径 6.8cm を測る。

SK 216 出土遺物（第 38 図）

土師器　底部はヘラ切り離しによる。

小皿（189・190）口径 9.3・10.0cm、器高 1.2・1.5cm、底径 6.6・7.7cm を測る。

丸底杯（191 ～ 193）体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。191 はやや小型で、口径 12.1cm、器高 2.9cm を測る。192・193 は口径 16.0・14.8cm、器高 3.7・4.0cm を測り、193 は椀の形状に近い。

SK 218 出土遺物（第 38 図）

土師器

小皿（194）底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。口径 9.8cm、器高 1.5cm、底径 7.6cm を測る。

杯（195）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。口径 14.7cm、器高 2.6cm、底径 10.9cm を測る。

丸底杯（196）底部はヘラ切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面を平滑にする。口径 15.3cm、器高 3.5cm を測る。

SK 225 出土遺物（第 38 図）

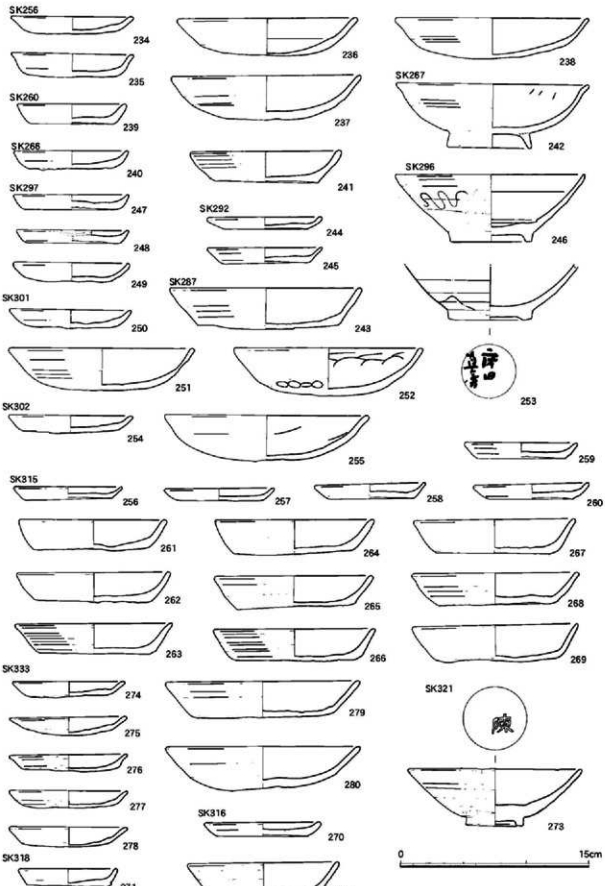
土師器　小皿（197 ～ 199）底部は 197 がヘラ、198・199 は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。口径 8.4 ～ 9.7cm、器高 0.9 ～ 1.3cm、底径 5.8 ～ 7.6cm を測る。

SK 227 出土遺物（第 38 図）

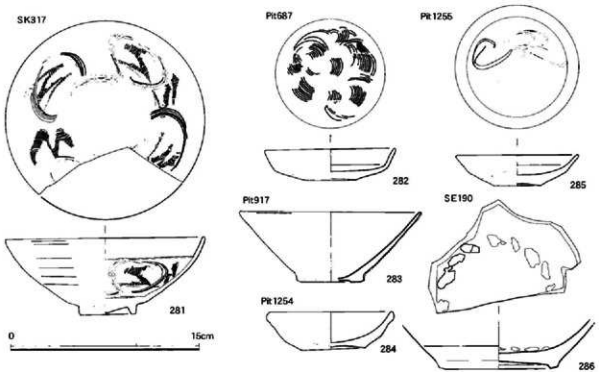
土師器　小皿（200 ～ 203）底部はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。口径 9.2 ～ 9.8cm、器高 1.1 ～ 1.2cm、底径 7.0 ～ 7.7cm を測る。

SK 231 出土遺物（第 38 図）

青磁　碗（204）体部下位で屈曲し、その内面に沈圏線をめぐらす。断面逆台形の高台が付く。口縁部は欠失している。胎土には直径 1 ㎜ 前後の白色粒子を含み、灰白色を呈する。透明な灰オリーブ色の釉が全面に掛けられ、釉には気泡が入る。目跡は削り取られている。



第 41 図　出土遺物実測図（7）



第 42 図　出土遺物実測図（8）

SK 232 出土遺物（第 38 図、図版 25）

白磁　碗（205）口縁部が 1/4 ほど欠失しているが、七輪花毎に体部内面を堆線で区割りしている。外面を直、内面を斜めに削り出した高台を持つ。内底見込に段が付き、その内側は平坦になっている。

SK 239・241・243 出土遺物（第 38 図）

土師器　小皿（206・207・208）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。法量（口径・器高・底径）は 206 が 9.1cm・0.9cm・7.5cm、207 が 8.4cm・1.0cm・7.2cm、208 が 8.0cm・1.0cm・6.8cm を測る。

SK 246 出土遺物（第 38 図）

土師器　杯（209・210）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕あり。口径 12.4・13.9cm、器高 2.5・2.8cm、底径 9.5cm を測る。

SK 251 出土遺物（第 38 図）

土師器　丸底杯（211）底部は糸切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面を平滑にする。口径 15.9cm、器高 3.2cm を測る。

SK 223 出土遺物（第 39 図、図版 26・27）

土師器　丸底杯（212）底部はヘラ切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面を平滑にする。口径 14.4cm、器高 3.5cm を測る。

瓦器　椀（213）口縁端部内面に沈線をめぐらせ、内面は密に、外面は粗いヘラ磨きを施す。口径 15.3cm、器高 6.2cm、高台径 7.0cm を測る。胎土には砂粒を少量含み、灰色を呈する。

須恵器　椀（214）内湾気味の体部から肥厚した口縁部が直線的にのびる。口縁端部は丸くおさめられている。口縁部外面から内底まで、回転横ナデされる。底部は糸切り離しによる。胎土には白色砂粒を含み、灰色を呈する。口径 16.7cm、器高 5.3cm、底径 5.5cm を測る。

白磁　碗（215・216）内湾気味の体部から口縁部が直線的にのびる。内底見込に沈線状の段がつ

く。高台は外面を直、内面を斜めに削り出す。

青磁 碗（217） 高麗青磁で、口縁部は欠失している。内湾する体部下位内面に沈圏線がめぐり、外面は鎬蓮弁が緩く削り出されている。緻密な灰色の胎土に、透明な緑灰色の釉が全面に掛けられ、全面に貫入が入る。断面に丸みを持った高台内に目跡が残る。

SK 257 出土遺物（第 40 図、図版 27）

土師器

小皿（218 ～ 221）底部は 218 が糸で、他はヘラ切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕が残る。口径 9.4 ～ 9.7cm、器高 1.2 ～ 1.3cm、底径 6.2 ～ 7.5cm を測る。

丸底杯（222 ～ 230） 底部はヘラ切り、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 14.4 ～ 16.4cm、器高 2.5 ～ 3.9cm を測る。

杯（231） 口径 15.2cm、器高 4.3cm、底径 7.5cm を測り、底径の口径に対する比率が小さい。

青磁 碗（232・233） 高麗青磁で、丸みを持った体部から、口縁部が直線的にのびる。全面に施釉され、内底見込に目跡がみられる。232 の高台はやや太く、外面を直、内面を斜めに削り出す。灰色の胎土に、透明なオリーブ灰色の釉が掛けられ、内面はピンホールが著しい。全面施釉の後掛付の釉を掻き取り、露胎部分は赤色に発色している。233 は内底見込に沈線状の段が付く。高台はやや高く、外に開く。灰色の胎土に、透明な灰オリーブ～緑灰色に発色した釉が掛けられ、全面には細かい貫入、部分的にピンホールが入る。

SK 256 出土遺物（第 41 図）

土師器 底部はヘラ切り離しによる。

小皿（234・235） 体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕が残る。口径 9.7cm、器高 1.4・1.9cm、底径 7.2・7.6cm を測る。

丸底杯（236 ～ 238） 体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 14.2 ～ 15.3cm、器高 2.9 ～ 3.5cm を測る。

SK 260 出土遺物（第 41 図）

土師器 小皿（239） 底部は糸切り、体部外面から内底まで回転横ナデされる。口径 8.6cm、器高 1.6cm、底径 6.6cm を測る。

SK 266 出土遺物（41 図）

土師器 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（240） 口径 9.1cm、器高 1.4cm、底径 6.7cm を測る。

杯（241） 口径 12.0cm、器高 2.4cm、底径 8.2cm を測る。

SK 267 出土遺物（第 41 図）

土師器 椀（242） 内湾する体部から外反する口縁部がのびる。外に開く高台が貼り付けられる。体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 15.3cm、器高 5.1cm、高台径 6.8cm を測る。

SK 287 出土遺物（第 41 図）

土師器 杯（243） 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 15.1cm、器高 3.3cm、底径 10.9cm を測る。

SK 292 出土遺物（第 41 図）

土師器 小皿（244・245） 底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.0・9.1cm、器高 0.9・1.2cm、底径 6.5・6.7cm を測る。

SK 296 出土遺物（第 41 図）

白磁　碗（246）内底見込に沈線状の段がないⅣ類で、断面玉縁状を呈する口縁下は強くなでられ、稜をなす。

SK 297 出土遺物（第 41 図）

土師器　小皿（247 ～ 249）247・248 の底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.1・8.9cm、器高 1.2・1.0cm、底径 7.2・7.3cm を測る。249 は成形の際、回転台を用いず、底部は未調整のままである。口径 9.3cm、器高 1.4cm、底径 7.8cm を測る。

SK 301 出土遺物（第 41 図、図版 28）

土師器　底部はヘラ切り離しによる。

小皿（250）体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕が残る。口径 9.6cm、器高 1.6cm、底径 7.2cm を測る。

丸底杯（251・252）体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 14.7・15.0cm、器高 3.3・2.8cm を測る。

白磁　碗（253）内底見込に沈線状の段がないⅣ類で、口縁部は欠失している。外底に墨書が記されている。

SK 302 出土遺物（第 41 図）

土師器

小皿（254）底部はヘラ切り離し、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕が残る。口径 9.8cm、器高 1.4cm、底径 7.4cm を測る。

丸底杯（255）底部に木目細かい繊維の圧痕が残り、切り離し方法は不明、体部外面から口縁端部内面まで回転横ナデ、内面をコテ状工具で平滑にする。口径 16.2cm、器高 3.6cm を測る。

SK 315 出土遺物（第 41 図）

土師器　底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。

小皿（256 ～ 260）口径 8.6 ～ 9.2cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、底径 6.5 ～ 6.9cm を測る。

杯（261 ～ 269）口径 11.7 ～ 13.3cm、器高 2.4 ～ 2.9cm、底径 8.6 ～ 9.8cm を測る。

SK 316 出土遺物（第 41 図）

土師器　小皿（270）底部は糸切り、体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。口径 9.2cm、器高 1.1cm、底径 7.2cm を測る。

SK 318 出土遺物（第 41 図）

土師器　底部は糸切り、体部外面から内底まで回転横ナデされる。

小皿（271）口径 7.8cm、器高 1.4cm、底径 6.4cm を測る。

杯（272）口径 12.0cm、器高 2.8cm、底径 7.9cm を測る。

SK 321 出土遺物（第 41 図、図版 28）

青磁　碗（273）器肉の厚い底部に断面四角の高台が付く。口縁端部を輪花にし、内底見込に「陳」が陽刻される。灰色の胎土に、灰オリーブ色の釉が外面高台付近までかけられる。

SK 333 出土遺物（第 41 図）

土師器　底部はヘラ切り、小皿・杯の体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底に板状圧痕が残る。

小皿（274 ～ 278）口径 8.9 ～ 9.4cm、器高 1.2 ～ 1.6cm、底径 6.3 ～ 7.6cm を測る。

杯（279）口径 15.1cm、器高 2.9cm、底径 11.2cm を測る。

丸底杯（280）口縁端部内面まで回転横ナデ、内面は平滑で、口径 15.4cm、器高 3.3cm を測る。

SK 317 出土遺物（第 42 図）

青磁　碗（281）外面無文の同安窯Ⅰ-１・a 類で、断面逆台形の高台を持ち、内湾気味の体部から口縁部が直線的にのびる。

Pit 687 出土遺物（第 42 図）

青磁　皿（282）やや小型の龍泉窯系青磁Ⅲ-2・a 類で、体部中位で屈曲し、口縁部は直にのびる。内底見込に櫛状の施文具で文様が描かれている。全面施釉した後外底の釉を削り取って露胎とする。

Pit 917 出土遺物（第 42 図、図版 27）

青磁　碗（283）幅１cm 前後の蛇の目高台を削り出す高麗青磁碗である。褐灰色の胎土に透明なオリーブ灰色の釉が全面に施釉され、全面に貫入、細かい気泡が入る。

Pit 1254 出土遺物（第 42 図）

白磁　皿（284）体部中位で屈曲し、玉縁状口縁が付く。底部は上げ底状を呈する。

Pit 1255 出土遺物（第 42 図）

白磁　皿（285）体部中位で屈曲し、口縁部は直線的にのびる。見込にヘラ状の工具で施文される。体部外面下半には施釉されず露胎となっている。

SE 190 出土遺物（第 42 図）

青磁　碗（286）輪状高台が付く越州窯青磁碗Ⅱ－１類で、緻密な灰白色の胎土に灰オリーブ色の釉が体部下半まで掛けられ、貫入が入る。

土製品（第 43・45 図）

１～44 は管状土錘、１・６・７・16～19・24～26・32 はＳＤ 150、２・23 は包含層、３はＳＫ 180、４・39・40 はＳＫ 199、５はＳＫ 305、８はＳＫ 193、９・10 はＳＫ 244、11 はＳＫ 257、12 はＳＫ 326、20 はＳＫ 168、21・22 はＳＫ 211、27 はＳＫ 176、28 はＳＥ 235、29 はＳＫ 299、33 はＳＤ 151、34 はＳＫ 164、35 はＳＫ 165、36・37 はＳＥ 190、38 はＳＫ 194、43 はＳＫ 185、44 はＳＥ 183、他はピットからの出土である。45～47 は扁球状の土錘で、紐掛けの溝を一本いれる。45 はＳＫ 226、46・47 はＳＫ 227 からの出土である。

瓦玉（45－１～39）　直径は２～7cm まであり、厚さは２cm 前後のものが大半である。瓦や土製品を再加工したものである。28～30 は球形に近く、碁杖玉として用いられたものかもしれない。１はＳＫ 173、２はＳＫ 199、３・４・35・39 はＳＥ 200、５・27 はＳＫ 211、６・７はＳＥ 235、８はＳＫ 257、９はＳＫ 302、12・25・36 はＳＤ 150、13・14・22 はＳＥ 157、15 はＳＫ 188、16 はＳＫ 189、17 はＳＫ 197、18 はＳＫ 203、19 はＳＫ 227、20 はＳＫ 305、21 はＳＫ 314、26・31 はＳＫ 165、32・33 はＳＥ 183、34 はＳＥ 184、37 はＳＫ154、38 はＳＫ 180、他はピットからの出土である。

石製品（第 44 図）１～19 は滑石製石鍋を再加工したもの。

石錘（８～13）８～10 は紐掛けの溝を一本いれる。８はＳＫ 261、９はＳＫ 305、10 はＳＫ 227 出土、11 はＳＫ 189、さらに紡錘状の両端に刳り込みを入れる。12 はＳＫ 154 出土、13 はＳＥ 183 出土で、一端が欠失しているが、残存する端部に刳り込みが入る。

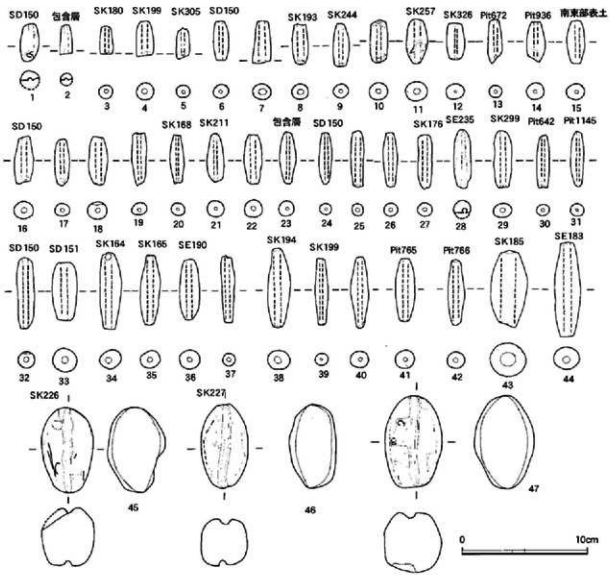
容器（14・15）14 はＳＫ 178、15 はＳＫ 202 出土で、矢立の一部とみられる。

権（17）釣鐘形の分銅で、つまみは２方向から穿孔されている。ＳＫ 188 からの出土である。

紡錘車（18）円盤状を成すが、中心部に穿孔はみられず、未製品か。８区表面採取。

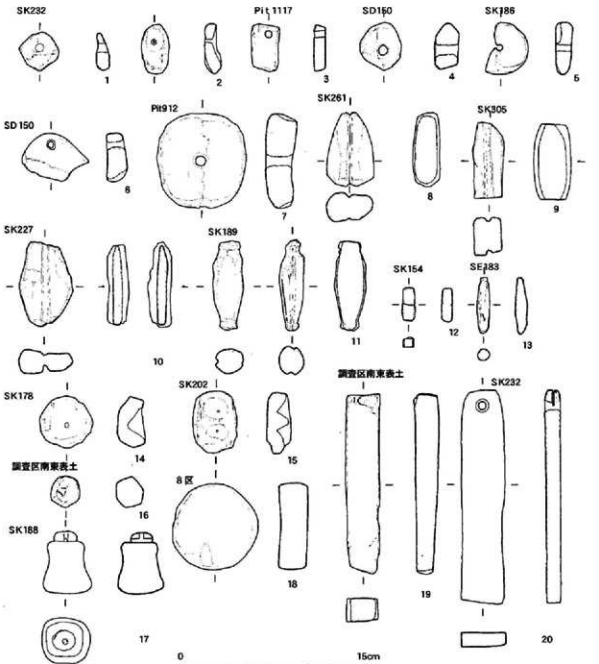
短冊形石製品（19）長さ 13.5cm、幅 2.5cm、厚さ 2.0cm を測る用途不明の石製品である。

砥石（20）長さ 17.0cm、幅 3.5cm、厚さ 1.0cm を測る短冊形の一端が穿孔されている。ＳＫ 232

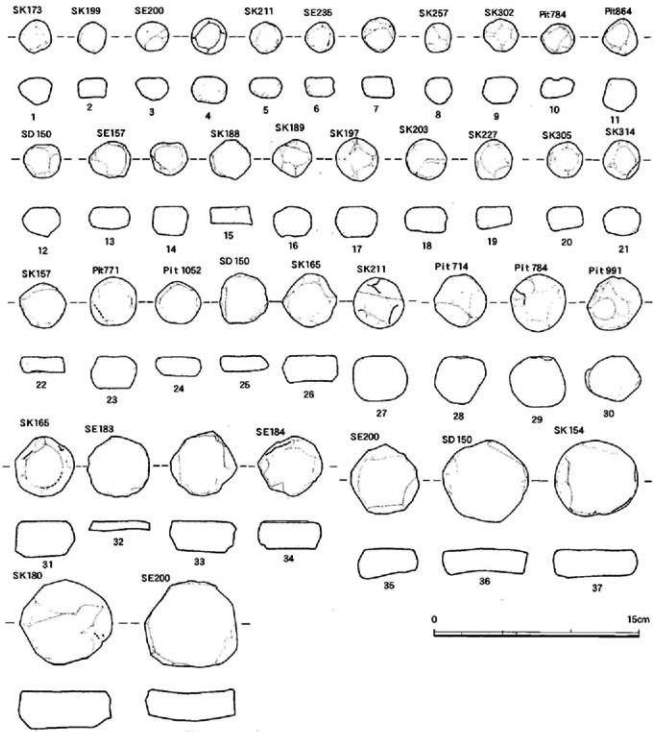


第 43 図　出土遺物実測図（9）

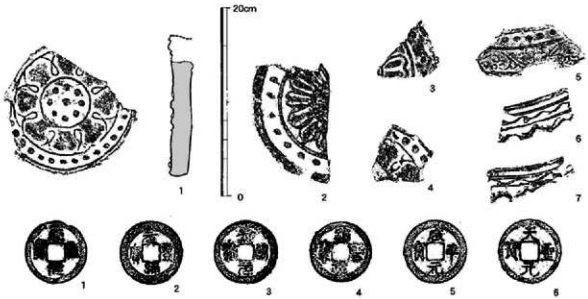
からの出土である。



第 44 図　出土遺物実測図（10）



第45図　出土遺物実測図（11）



第 46 図　出土瓦・銅銭拓影

瓦類（第 46 図）8 区では 7 区より瓦類の出土が目立つが、8 区西側の 13 区ではさらに多種多様の瓦が出土している。総括はその 13 区の報告で行う。

1 は瓦当径 13.4cm、瓦当厚 1.8cm の単弁八葉蓮華文軒丸瓦で、内区中央は圏線によって囲まれ 1＋8 の蓮子を配している。蓮弁は断面半円形の凸線で外形を表し、盛り上がっている。外区に復元 32 個の珠文を配している。胎土には砂粒を少量含み、焼成は良好で、青灰色を呈する。ＳＫ 317 出土。2 は磨耗した範を用いた複弁八葉蓮華文軒丸瓦で、圏線によって囲まれた内区中央のほとんどを欠失し、蓮子の配置は不明。外区に復元 24 個の珠文を配している。胎土には砂粒を多量に含み、焼成は良好で、青灰色を呈する。ＳＫ 203 出土。3 は複弁八葉蓮華文軒丸瓦片で、彫りは丁寧で浅い。胎土には砂粒を多量に含み、焼成は良好で、灰白色を呈する。ＳＤ 150 出土。4 は 1 と同じ型式の単弁八葉蓮華文軒丸瓦片で、橙色に焼成される。Ｐｉｔ 1281 出土。5 は偏向唐草文軒平瓦で、瓦当面の磨滅が著しい。7 区ＳＫ 41 からの出土。6・7 は押圧波状重弧文軒平瓦片で、ＳＫ 280・281 からの出土である。

銅銭（第 46 図）他にも腐蝕の著しいものや断片が出土している。

1 は磨滅が著しいが、至和元寶（初鋳 1054 年）とみられる。ＳＤ 150 出土。2～4 はＳＫ 165 出土で、3・4 は磨滅が著しい。2 は元豊通寶（初鋳 1078 年）、3 は至和元寶か、4 は解読不能。5 は咸平元寶（初鋳 999 年）で、ＳＫ 180 出土、6 は天聖元寶（初鋳 1023 年）で、ＳＥ 190 出土である。

壺棺墓

SX140

7区の西端で検出された。SE11によって遺構が切られている。[第3図] 壺棺上部が削られているものの、残存状態は良好である。大型甕の頸部以下を棺の身とし、中型の壺の胴部を棺の蓋として用いている。両者は棺身の突帯部で隙間無く重なる。内容物は出土していない。[図版20(3)]

土壙は約1.5m×1.2mの楕円形を呈し、長軸の方位はN-43°-Wである。地山から約40cmの深さで平坦面をもち、その南側に70cm×60cmのほぼ円形で平坦面からの深さ約20cmのピットが掘り込まれ棺身の設置孔としている。

壺棺は棺身を基準にして地面と32°の仰角で検出された。斜位もしくは正位に設置されたものであろう。壺棺の方位はN-18°-Wであり、土壙の長軸とは25°のずれがある。[第47図]

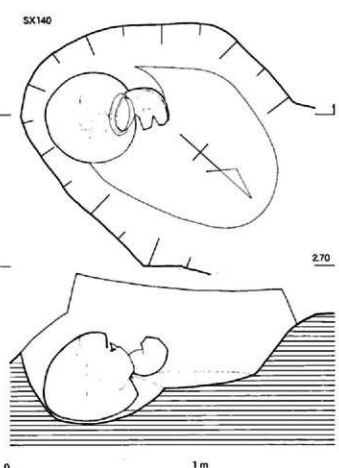
棺身[第48図下]

残存高46.2cm、胴部最大幅46.6cmを測る、大型の甕型土器である。色調は浅黄橙(10YR8/4)を呈する。焼成はやや悪い。胎土は径1～2mmの長石を含むやや粗いもの。頸部以下は80%程度復元できたが、頸部以上の破片は出土せず復元は出来なかった。壺棺として使用する前に頸部から上を取り除いたものと考える。

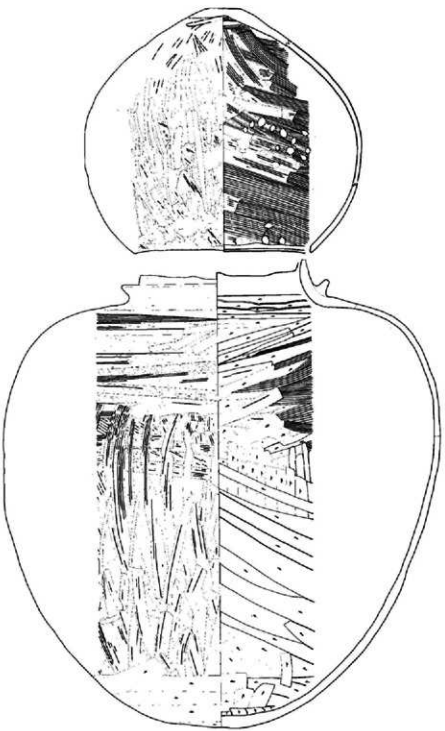
成形は胴部を完成させた後に頸部から上を作り、胴部と頸部の境に突帯を貼り付けている。突帯の断面は台形で高さ1.5cm幅1.5cmである。頸部の破断面はほぼ平行になっている。成形時の擬口縁であろう。底面は丸底である。

胴部外面調整は上半横ハケ→胴部中下半縦ハケ→底部ケズリの順に行う。ハケは横ハケが8本/cmと密で器面への入り込みも浅いのに対し、縦ハケは6本/cmとやや粗く入り込みも深い。ハケ調整における2種類の原体の使用が考えられる。横ハケは連続して施された回転ハケであり、上から見て時計回りに施す。縦ハケとの境付近にわずかに断続した沈線状の痕跡が観察できた。方向はハケと同じ時計回りであるが、意図的なものかどうかは不明。縦ハケは下→上へ施し、全体としては胴部中半から底部へと施していく。縦ハケは底部付近では隙間無く施すのに対し、横ハケとの境界付近ではハケとハケとの間に隙間が存在し、未調整のままの下地が露出している。底部のケズリは下から見て時計回りに施す。

胴部内面調整は上半斜ハケ→上半斜ケズリ→中半縦ケズリ→中下半斜ケズリ→底部ケズリの順に行っており、ケズリを多用している。上半の調整は下→上への斜ハケによって生じ



第47図 SX140実測図 [S=1/20]



第 48 図　SX140 出土土器実測図［S = 1/4］

た櫛状の痕跡を、同じく下→上方向の斜ケズリによって削り取るために行われたようである。上半斜ハケは8本/cmと密であるが器面への入り込みは深い。中半縦ケズリと中下半斜ケズリは下→上方向に施す。底部ケズリは周囲を上から見て時計回りに、底部中心は一方向にそれぞれ施す。

頸部は胴部に比して厚いため、接合時に内面にはみ出した部分を、下から見て時計回りにケズリを施し厚さを調整している。

棺蓋［第48図上］

残存高26.0cm、胴部最大径29.5cmを測る、中型の壺型土器である。色調は橙(7.5YR7/4)を呈する。焼成は良好。胎土は緻密なもので、径1mm以下の雲母片を含む。一部削平を受けたため頸部以下60%程度の復元となった。頸部以上の破片は出土せず復元は出来なかった。

成形は土器の割れ目が平行に2, 3回ることから粘土帯積み上げと考える。頸部の破断面は丁寧な面取りを施す。面取り部は内面の調整が及んでおらず擬口縁だったのだろう。だが、あまりにも面取りがきれいであることから、成形時ここで作業を止め、口頸部の無い現状の姿を当初からの完成形としていた可能性があることを指摘しておく。底部は径3cm程の円形平坦面をもつ平底である。

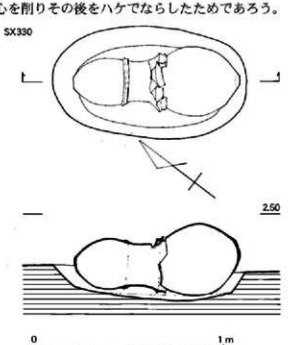
胴部外面調整は縦・斜ハケ→縦ミガキの順に全体に行う。縦・斜ハケは8本/cmと密であり、器面への入り込みも浅い。ハケの方向は上→下であり、全体では下半から上半に向かって施す。縦ミガキは幅3～8mmで上半が細く中半が太い。ミガキの方向は上→下であるが、全体では上半から底部に向かって施す。底部付近もミガキを施しているようだが磨耗していて不明瞭である。縦ミガキは底部～下半付近では隙間無く施すのに対し、上半ではミガキとミガキとの間に隙間があり、下の縦・斜ハケがそのまま露出している。

胴部内面調整は斜ハケのみである。ハケは5本/cmとやや粗く、器面への入り込みはやや深く明瞭に残っている。ハケの方向は下→上であり、全体では下半から上半に向かって施す。胴部内面上半と中半に指頭がハケの上から押圧されている。このことから胴部内面調整の後に外面調整を行ったものと考える。底部内面は上から見て反時計回りかつ断続的にハケを施す。これは成形時に底内面が平らだったのを、内面球形に整形するために、底部中心を削りその後をハケでならしたためであろう。

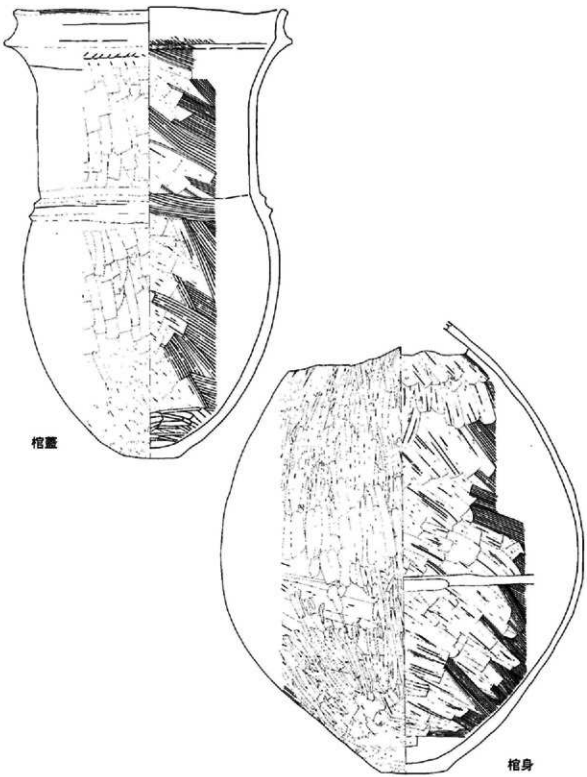
SX330

8区の南端で検出された。SE320によって遺構が切られている。［第24図］ 残存状態は良好である。大型壺の頸部以下を棺の身とし、大型の壺全体を棺の蓋として用いている。両者は棺身を棺蓋の中に差し込むように呑口式で組み合わされている。内容物は出土していない。［図版20(2)］

土壙は105cm×60cmの楕円形を呈し、長軸の方位はN-38°-Wである。地山から約20cmの深さで平坦面をもつ。壺棺はほぼ水平に検出された。横位に設置したものであろう。壺棺の方位は土壙の長軸と同一である。［第49図］



第49図 SX330実測図 [S＝1/20]



第 50 図　SX330 出土土器実測図［S = 1/4］

棺身［第 50 図右下］

残存高 43.0cm、胴部最大径 38.8cm を測る、大型の壺型土器である。色調は橙(5YR7/6)を呈する。焼成は良好。胎土は径 1 ～ 2mm の長石・赤褐色粒を含むやや粗いもの。径 1mm 以下の雲母片を含む。頚部以下はほぼ完全に残っていた。頚部以上の破片は出土せず復元は出来なかった。

土器の割れ目が平行に複数回っており、粘土帯積み上げによる成形と考える。破断面がかなりいびつであり、上半に行くほど破片が細かくなっていることから、壺棺として使用する前に頚部から上を打ち壊して取り除いたのであろう。底部は約 7cm の円形平坦面をもつ平底である。

胴部外面調整は縦・斜ハケ→縦ミガキの順に行う。縦・斜ハケは 8 ～ 10 本 /cm と密であり、器面への入り込みも浅い。ハケの方向は上→下であり、全体では下半から上半に向かって施す。縦ミガキは幅 3 ～ 15mm で上・下半が細く中半が太い。中半のミガキはかなり幅広く、ナデに近い。ミガキの方向は上→下であり、全体では上半から底部に向かって施すのを基本とするが、上半破断面付近では逆になっている。ミガキが細かいことから仕上げのミガキの可能性がある。底部付近もミガキを施すがやや粗い。縦ミガキは底部と上～中半では隙間無く施すのに対し、下半ではミガキとミガキとの間に隙間があり、下地の縦・斜ハケが露出している。

胴部内面調整は全体に斜ハケを施した後、内面ほぼ中央付近に一回りのナデを施す。ハケは 7 本 /cm とやや密で、器面への入り込みはやや浅いものの明瞭に残っている。ハケの方向は下→上であり、全体では下半から上半に向かって施す。内部上半のハケはナデに近いもので、中・下半のハケと雰囲気が異なる。おそらく上半のハケは口頚部を成形した後の調整であって、中・下半のハケとは時間差がありそうだ。中央のナデは上から見て反時計回りに、指頭で施したものである。底部内面は磨耗が著しく観察出来なかった。

棺蓋［第 50 図左上］

高さ 48.3cm、口縁部径 29.1cm、頚部径 30.5cm、胴部最大径 27.1cm を測る、大型の壺型土器である。残存状況はきわめて良好で、ほぼ完形である。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。焼成は良好で、胎土は径 1 ～ 2mm の長石を含むやや粗いもの。

口縁付近のひび割れが水平に回ることから、粘土帯積み上げ成形と推定する。成形の順番は底・胴部→頚部→口縁部→突帯であろう。口縁部は「く」の字状を呈し、ラッパ状に開いた頚部の上に、やや外反するように口縁部を貼り付けて成形している。底部は平底であるが、底面が平坦ではなく自立は難しい。また見た目にも球形を意識した胴部形状となっている。突帯は断面が幅広の M 字を呈し、高さ 0.5cm、幅 2.5cm を測る。

胴部外面調整は縦ハケ→底部縦ミガキの順に行う。ハケは 8 ～ 9 本 /cm とやや密で、器面への入り込みはやや深く明瞭である。ハケの方向は下→上であり、全体では下半から上半に向かって施す。ハケとミガキの境界部に未調整のままの隙間があり、ハケは胴部全体には施していないようである。

頚部外面調整も縦ハケのみであり、ハケは 5 ～ 6 本 /cm とやや粗く、器面への入り込みは深く明瞭である。ハケの方向は下→上であり、全体では下半から上半に向かって施す。口縁部との境界は上と下から向かい合う「ハ」の字のように連続的にナデを施した後に、幅約 2.5cm の回転ナデを施す。

口縁部は内外面とも上から見て時計回りの回転ナデを施す。

胴部内面調整は斜ハケ→底部回転ミガキの順に行う。ハケは 3 ～ 4 本 /cm とこの土器のハケの中で最も粗いが、器面への入り込みは浅くやや不明瞭である。この部位のハケ原体は他の部位のものとは異なっているようだ。ハケの方向は下→上であり、全体では下半から上半に向かって施す。底部ミガキは幅 5mm 前後で上から見て時計回りに施している。ミガキというよりは土器の生地の目をつぶす

ためのものであろうか。

頚部内面調整は斜ハケ→口縁接合部斜ハケの順に行う。斜ハケは6本/cmとやや粗く、器面への入り込みは浅くやや不明瞭である。口縁接合部の斜ハケは8本/cmとやや密で、器面への入り込みは浅く、ナデが上から施されているため不明瞭である。頚部と胴部の内面調整は屈曲部を境に連続しておらず、調整における時間差が考えられ、その場合は胴部→頚部の順で施したのであろう。

突帯はその上下と中央の凹部を上から見て時計回りの指ナデでなでつけられている。

まとめ

両者の時期を土器の面から検討する。SX330については、棺蓋に類似した土器が福岡県前原市三雲・井原遺跡の宮ノ下地区Bトレンチ祭祀土壙出土土器中にある（角ほか2002）。器高、口縁部の立ち上がり方と、突帯の形状が異なるが全体の形状や調整はよく類似している。この祭祀土壙からは布留式系統の土器は出ておらず、この土器群の時期は弥生終末から古墳初頭であろう。また口縁部先端がやや外反する口縁部の特徴は、柳田康雄により土師器Ⅰa期に位置付けられている（柳田1982）。これらの点からSX330の時期は庄内式併行期と考える。SX140については棺蓋・棺身とも明確な類例を得ることが出来なかった。ただ頚部突帯をもつ土器には博多遺跡62次調査方形周溝墓周溝内出土土器中に類例があり、それは在地化した二重口縁壺である（大庭1995）。SX140棺身をこのような二重口縁壺の在地化が進んだ土器と仮定するならば、SX140は布留式併行期といえよう。

SX330は、土器の類例が三雲遺跡群にあることや、土器を横位で呑口式に組み合わせることなど、糸島半島の甕棺墓の系譜に連なるもののようである。だがSX140の棺身は外面横ハケや内面ケズリといった土師器的な特徴をもち、器形も同時期の一般的な土器とは異なる特殊な形状である。さらに棺蓋も壺棺の蓋用に意図的に成形を中断した特殊なものである可能性があり、同じ壺棺墓であっても、SX140は古墳時代の墓制の中で考えるべきものであろう。

前述した博多遺跡群62次調査では甕棺墓は方形周溝墓の東側に営まれており、方形周溝墓に関連した埋葬だと想定されている（大庭1995）。本調査区では周溝墓は検出されていないが、区画整理の他調査区で同時期の方形周溝墓が検出されており、特に博多62次と類似点のあるSX140は方形周溝墓の周辺に営まれていた可能性がある。

今回、箱崎遺跡で初の古墳時代初頭の墓の事例を追加できたが、住居址などまだ不明な点は多い。現在、調査整理中の他調査区でもこの時期の遺構・遺物の出土があり、弥生～古墳時代にかけての箱崎遺跡についての詳細はこうした資料が蓄積された上で、さらに深く追求していくべき課題である。

引用文献

大庭康時1995『博多48』福岡市埋蔵文化財報告書397集　福岡市教育委員会
柳田康雄1982「三・四世紀の土器と鏡」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』
角浩行・川村博・岡部裕俊・比佐陽一郎・片多雅樹・牟田華代子2002『三雲・井原遺跡　八龍・三雲堺・宮ノ下・井原堺地区編』前原市文化財調査報告書第82集　前原市教育委員会

Ⅵ 小　結

主な遺構の時期

各遺構の時期を推定する場合、まとまった個数の土師器、特に時期による法量の変化が大きな杯、出土する遺構の時期が限定できる輸入陶磁器の出土があった遺構に限られ、以下の通りである。諸々の制約により、出土遺物の図化も限られたものである。

7区

11世紀前半～SE02・04・05・SK106・109　11世紀後半～SK62　12世紀前半～SE56・SK11・57　12世紀後半～SE64・SK07・26・41・66・SK87・102・103・107　13世紀前半～SK81・82

13世紀後半～SK63・68・69・70・78・80

8区

11世紀後半～SE334　12世紀前半～SE183・198・221・SK192・197・223・227・256・257・333

12世紀後半～SE191・SK154・196・201・202・203　13世紀前半～SE157・200

13世紀後半～SD151・152・153・SK173・199・315　14世紀前半～SE326

遺構分布の変遷・消長

7区では11世紀前半～中頃の井戸や土坑がまとまって検出され、北部九州においても出土例が限られる北宋前半の越州窯青磁が多く出土した。また、官衙関連の遺跡に出土が限られる石帯巡方の出土と合わせ、遺跡の性格を窺うヒントとなろう。建物遺構が後世の井戸等の遺構によって復元不可能であるだけに、今後周辺での墨書土器等文字資料の出土が期待される。

8区の中西部では方形竪穴が集中して検出された。方位は真北もしくは現在の町割に近いN-20°-Eに取る。その内SK192・223・227・257は出土遺物から12世紀前半から中頃にかけての時期と推測される。その時期から13世紀前半にかけての井戸や土坑は調査区のほぼ全域に満遍なく分布しており、箱崎遺跡南東部における最盛期とみなされる。方形竪穴SK223から東播系須恵器椀・樟葉型瓦器椀、土坑SK297からは回転台を用いず手づくね成形による土師器小皿が出土している。いずれも流通する範囲が限られる畿内からの搬入品で、1051年に筥崎宮が石清水八幡宮の別宮となってからの畿内との密接な結びつきを示すものである。

SK223・257からは希少な高麗中期の青磁が出土している。北部九州では11世紀後半から12世紀前半にかけては「白磁の時代」とされ、博多遺跡群では圧倒的な量の白磁の中に少数の初期龍泉窯・耀州窯・高麗青磁が散見されるのみである。箱崎遺跡においては中国輸入陶磁器の数量・在地土師器に占める割合は一般集落にはまさるものの、博多遺跡群には到底及ぶものではない。その中にあって高麗中期青磁の占める割合は博多のそれに匹敵するものである。新羅の滅亡（935年）以前から高麗は日本との交流を要求するが、ようやく1019年の刀伊の入寇を契機として交流が行われるようになり、11世紀後半から北部九州で高麗青磁が出土するようになる。筥崎宮創建の理由として「異国敵伏」、9世紀から度重なる新羅海賊の襲来で日本人が抱いていた新羅に対する脅威の意識が挙げられるが、反新羅勢力の高麗と逸早く独自に交渉を持ったとしても、まったく不自然なことではない。

13世紀後半以降、検出される遺構は7・8区ともに東半部、特にSD150の南東部に集中する。こ

の一帯は旧地名では「御所の内」と呼ばれていた。この時期の遺構からは奢侈品とされた香炉や壺といった南宋後半の龍泉窯青磁が出土している。韓国全羅南道新安沖の沈没船から引き揚げられた木簡の中に「筥崎奉加銭」と記されたものがある。1323年に慶元（寧波）から日本へ向けて出帆した寺社造営料唐船と推測される新安沈船であるが、その経営主体の一つとして出資した筥崎宮がそれよりややさかのぼった時期に他の寺社造営料唐船にも積極的に関わり、将来されたものの一部であろうか。次年度以降報告予定の13区（8区西に隣接、2002年度調査）、その北側にあたる14区（2002年度調査）・17・18（2003年度）・20区（2004年度）ではSD 150と同時期の溝が検出されている。その報告の際にその時期の町割については詳説することとしたい。

14世紀後半から15世紀前半にかけての遺構は今回報告する7・8区では検出されなかったが、北側100mの18・20区ではその時期の遺構が検出されている。今回報告の土地区画整理事業地内に限っていえば、11世紀前後に南側から仮に官人居住区が興り、11世紀後半には広範囲に町屋が展開し、12世紀前半から13世紀前半にかけてピークを迎え、13世紀後半以降有力者が限られた範囲に居を構え、衰退もしくは北側へ移転するといった大まかな流れを追うことができる。

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SE01	小皿	1	9.2	1.3	6.9
SE02	小皿	2	9.1	1.4	6.0
		3	9.1	1.4	6.7
		4	9.2	1.2	5.8
		5	9.2	1.2	6.9
		6	9.3	1.5	6.1
		7	9.8	1.3	6.7
	杯	8	15.2	3.0	7.8
SE04	小皿	10	10.4	1.4	8.0
		11	9.2	1.1	7.0
	杯	12	13.0	2.7	9.3
		13	13.1	2.7	9.8
		14	13.3	2.5	10.4
		15	13.7	2.9	9.7
		16	13.8	2.5	9.4
		17	14.0	2.7	10.1
	椀	18	15.2	5.7	8.3
SE05s	小皿	21	8.9	1.4	6.7
		22	10.2	1.2	7.6
	杯	23	15.3	3.7	9.0
		24	15.4	3.7	10.0
SE05	小皿	25	8.7	1.3	6.0
		26	9.2	1.7	6.3
		27	9.3	1.3	6.5
		28	9.3	1.5	6.8
		29	10.3	1.2	7.9
	杯	30	16.0	3.4	9.7
SE06	小皿	34	9.0	0.9	8.2
		35	9.1	1.1	8.3
		36	9.5	1.1	9.2
	托	37	12.4	2.5	7.1
SE08	小皿	39	9.2	1.1	7.4
		40	9.6	1.2	7.8
	托	41	12.3	4.5	8.0
	高杯	42	15.0		
SE10	小皿	43	8.6	1.2	5.9
		44	8.8	1.3	6.0
		45	10.3	1.9	7.4
SE14	小皿	47	9.0	1.1	6.5
		48	8.1	0.8	6.0
SE15	小皿	49	8.8	1.4	7.2
		50	9.4	1.2	6.8
		51	9.8	1.3	7.2
		52	9.0	0.8	6.8
SE16	小皿	54	10.0	1.5	7.1
SE18	小皿	55	8.8	1.3	7.8
		56	9.0	1.1	6.8
		57	10.6	1.3	7.4
SE51	小皿	60	8.9	1.0	6.5
		61	9.0	1.5	6.8
		62	11.1	1.5	7.9
	杯	63	14.5	3.2	9.9
	丸底杯	64	16.0	3.6	
	瓦器椀	65	15.6	7.2	5.8
	須恵器甕胴部	66	21.6	7.8	9.1
SE55	小皿	67	9.4	1.1	7.8
SE56	小皿	68	8.4	1.1	6.8
		69	8.8	1.1	7.2
		70	8.9	1.1	6.4
		71	9.1	1.0	6.9
		72	9.1	1.1	7.1
		73	9.3	0.9	7.4
		74	9.2	1.0	7.4
		75	9.3	1.3	6.3
		76	9.3	1.6	7.3
	杯	77	15.1	2.8	11.0
SE58	椀	78	14.8	5.7	8.1
		79	15.9	5.5	7.6
	小皿	80	8.6	1.3	6.2
	杯	81	13.0	3.4	8.6
		82	13.4	3.0	9.3
		83	13.2	2.8	10.0
SE64	小皿	85	8.4	1.2	6.2
		86	8.6	1.3	6.2
		87	9.0	1.1	7.0
	杯	88	13.5	3.0	9.6
		89	13.5	2.8	9.8
SE65	小皿	90	9.2	1.3	7.2
	杯	91	14.0	2.8	9.8
SE100	特小皿	92	7.7	1.3	6.0
	杯	93	10.8	2.5	6.6
SE116	杯	94	8.5	1.0	5.7
		95	9.5	1.8	7.2
	托	96	11.4	2.1	6.4
	丸底杯	97	11.8	3.6	
	杯	98	11.8	3.1	8.0
		99	15.8	3.2	10.7
	丸底杯	100	15.4	3.3	
	椀	101	14.8	6.1	7.9
		102	15.0	5.8	7.4
		103	15.1	5.7	7.5
SK07	小皿	104	8.8	1.0	7.1
		105	9.0	1.1	6.3
		106	9.0	1.1	6.7
		107	9.0	1.3	7.1
		108	9.0	1.4	7.0
		109	9.0	1.5	6.7
		110	9.2	1.4	7.2
		111	9.2	1.4	7.4
		112	9.4	1.6	7.4
		113	10.6	1.9	7.3
	高台付小皿	114	9.3	2.4	7.0
	杯	115	14.4	3.0	9.8
		116	15.8	2.8	11.5

第1表　7区出土土器計測表（1）

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SK07	丸底杯	117	15.1	3.1	
		118	15.2	3.0	
SK09	小皿	119	8.7	1.2	5.7
		120	9.2	1.3	6.4
	杯	121	12.8	3.6	8.6
	丸底杯	122	14.1	3.3	
SK11	小皿	123	8.6	0.9	6.6
		124	8.7	1.4	6.4
		125	8.8	1.2	6.5
		126	9.2	1.3	6.8
		127	9.2	1.5	6.5
		128	9.3	1.5	6.8
		129	9.5	1.4	7.2
		130	9.3	1.5	6.6
		131	9.7	1.3	7.1
	丸底杯	132	15.5	3.4	
	瓦器椀	133	16.0	5.5	6.6
SK16	小皿	136	8.8	1.1	7.4
		137	9.3	1.3	6.4
SK26	杯	138	12.9	2.8	10.0
		139	15.2	3.2	11.3
		140	15.4	3.0	10.4
		141	15.4	3.5	11.1
		142	15.6	3.4	10.9
		143	15.7	2.9	11.9
SK27	小皿	144	9.0	1.1	6.6
		145	9.1	1.7	6.9
SK32	杯	146	14.2	3.2	9.5
	丸底杯	147	15.3	3.1	
SK33	小皿	149	8.9	0.9	7.6
	杯	150	14.2	2.7	10.0
SK36	小皿	152	8.8	1.4	6.7
		153	9.1	1.1	6.9
		154	9.1	1.3	6.8
		155	9.1	1.8	6.4
		156	9.2	1.3	6.8
		157	9.5	1.2	7.1
		158	10.0	1.3	7.9
	杯	159	11.2	2.3	7.4
		160	14.3	3.4	10.7
SK37	杯	161	14.8	3.5	9.9
SK38	小皿	162	8.6	1.3	7.0
		163	8.8	1.3	6.5
		164	9.3	1.4	7.4
SK40	小皿	165	8.6	1.2	6.2
		166	8.8	1.1	7.3
		167	9.2	1.1	7.1
SK41	小皿	168	9.2	1.4	7.2
		169	9.3	1.4	7.0
	杯	170	15.2	2.8	10.6
	丸底杯	171	15.0	3.4	
SK47	小皿	173	9.2	1.2	7.4
	瓦器椀	174	16.4	6.2	6.3
		175	16.1	6.3	6.8
SK57	小皿	178	8.9	1.1	7.9
		179	8.9	1.3	6.3
	杯	180	13.4	2.7	10.2
SK60	小皿	181	9.0	1.6	6.8
		182	9.2	1.5	7.0
		183	9.4	1.5	6.4
	丸底杯	184	15.2	3.3	
SK62	小皿	185	9.1	1.3	6.4
		186	9.2	1.2	6.7
		187	9.4	1.3	7.2
		188	9.9	1.2	7.4
	黒色土器椀	189	15.7		
	椀	190	15.3	6.2	6.7
SK63	小皿	192	8.8	1.1	6.7
		193	9.1	1.5	7.5
		194	9.3	1.5	7.0
	杯	195	12.8	2.6	10.1
		196	13.3	3.1	9.1
		197	13.5	2.6	10.2
SK66	小皿	199	8.9	1.1	6.2
	杯	200	15.7	2.7	11.5
SK68	小皿	202	8.7	1.0	7.3
		203	9.3	1.2	7.8
	高台付小皿	204	9.6	2.5	7.9
	杯	205	12.6	2.4	9.1
		206	12.9	2.3	9.0
		207	13.0	2.4	9.8
		208	13.1	2.4	8.6
		209	13.2	2.4	9.2
		210	13.2	3.1	10.1
		211	13.3	3.3	10.2
		212	13.7	3.2	10.2
		213	14.7	2.8	10.1
SK69	小皿	214	8.2	1.4	6.7
		215	8.7	1.1	6.8
		216	8.7	1.2	6.7
		217	9.0	1.2	7.0
	杯	218	13.5	3.2	10.6
SK70	小皿	219	8.5	1.3	6.7
		220	9.2	1.3	7.5
	杯	221	13.1	2.4	9.5
		222	13.1	2.8	10.3
		223	13.2	2.5	9.4
		224	13.3	2.7	10.4
		225	13.4	2.3	10.1
		226	13.4	2.7	10.1
		227	13.5	2.8	9.8
SK78	小皿	228	8.5	1.1	7.1
		229	8.8	1.2	7.0
		230	8.8	1.3	6.9

第2表　7区出土土器計測表（2）

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SK78	小皿	231	8.8	1.4	6.8
		232	8.9	1.2	7.8
		233	9.1	1.4	6.8
		234	9.1	0.9	7.1
		235	9.3	1.3	6.5
	杯	236	12.8	2.7	9.4
		237	13.0	2.6	8.8
		238	13.2	2.7	9.3
		239	13.5	3.0	9.2
		240	13.6	2.4	9.1
		241	14.0	3.3	10.3
		242	14.4	2.5	10.2
SK80	小皿	243	8.3	1.3	6.0
		244	8.4	1.3	6.5
	杯	245	12.9	3.0	9.0
SK81	小皿	246	8.8	1.4	7.3
		247	9.0	1.4	6.6
	杯	248	13.1	2.8	9.8
		249	13.2	2.8	9.2
		250	13.4	3.2	9.9
		251	13.8	3.0	10.3
		252	14.1	3.3	10.4
		253	14.4	3.3	10.1
SK82	杯	254	13.0	3.0	9.8
		255	13.7	3.0	9.7
SK87	小皿	256	9.2	1.2	7.0
		257	9.4	1.2	7.3
		258	9.2	1.4	7.0
		259	9.2	1.4	6.9
		260	9.3	1.4	7.0
	杯	261	14.4	2.9	11.4
		262	15.5	3.7	8.6
		263	15.0	3.0	12.8
SK102	小皿	264	9.1	0.9	6.8
		265	9.4	1.2	6.9
		266	9.7	1.1	7.5
		267	9.7	1.2	7.3
	杯	268	15.3	2.9	9.3
		269	15.9	3.1	9.9
SK103	小皿	270	8.9	1.3	7.2
		271	9.0	1.3	6.6
		272	9.2	1.2	6.7
		273	9.6	1.2	6.8
	杯	274	15.4	3.2	10.8
	椀	275	16.4	5.6	7.4
	瓦器小皿	276	9.6	1.8	7.0
		277	9.6	2.0	7.1
	瓦器椀	278	15.7	5.4	6.2
SK106	小皿蓋	279	10.9	1.4	8.2
	小皿	280	9.9	1.3	7.4
		281	10.3	1.3	8.0
	杯	282	10.8	2.1	7.4
		283	13.9	2.5	9.2
	丸底杯	284	15.9	3.5	
	黒色土器椀	285	15.1		
SK107	小皿	286	9.1	1.4	7.0
		287	9.4	1.3	7.2
	杯	288	15.6	3.1	10.9
	丸底杯	289	14.9	2.4	
		290	15.4	3.3	
SK109	小皿	291	9.4	1.6	6.2
		292	10.1	1.6	7.0
		293	10.2	1.4	7.2
		294	10.2	1.7	7.9
		295	10.4	1.4	8.2
	椀	296	15.3	5.1	7.4
	黒色土器椀	297	15.5		
		298	16.0		
SK115	瓦器椀	299	16.2	7.1	6.8
SK130	椀	300	13.2	3.8	

第3表　7区出土土器計測表（3）

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SE157	小皿	1	8.1	1.3	6.4
		2	9.0	1.4	7.0
SE183	小皿	4	9.3	1.2	6.9
		5	9.3	1.3	7.2
		6	9.5	1.0	7.6
		7	10.4	1.9	
	高台付小皿	8	10.7	2.4	5.7
SE184	小皿	9	8.6	1.1	7.1
SE190	小皿	10	9.2	1.2	6.9
	不明	11			4.8
SE191	杯	12	14.7	2.8	10.7
		13	15.1	2.7	10.0
SE198	小皿	14	9.0	1.3	7.2
		15	9.2	1.4	7.9
		16	9.5	1.4	7.7
SE200	小皿	17	8.2	1.0	6.9
		18	8.2	1.1	5.8
		19	8.6	1.4	6.9
	杯	20	15.7	3.4	9.9
		21	16.2	2.9	12.4
SE221	小皿	22	9.7	1.0	6.9
		23	9.2	1.3	7.0
SE235	小皿	24	8.8	1.5	6.5
SE238	小皿	25	9.0	1.0	6.8
SE240	小皿	26	9.3	1.1	7.3
SE326	小皿	27	8.7	1.5	6.2
	特小皿	28	8.3	2.2	5.7
SE334	杯	30	10.1	1.3	7.3
		31	15.5	3.6	
SD150	特小皿	32	6.0	1.6	4.5
	杯	34	14.5	2.9	9.4
		35	14.3	2.7	9.3
SD151	小皿	36	8.6	1.1	7.3
		37	8.6	1.0	6.9
		38	8.7	1.5	6.5
		39	9.4	1.1	8.4
		40	9.3	1.1	7.5
		41	9.8	1.2	8.4
		42	10.2	1.2	8.2
	杯	44	12.3	2.8	9.2
		45	12.1	2.4	9.6
SD152	小皿	46	8.5	1.1	6.6
		47	8.5	0.9	7.2
		48	8.8	1.0	7.5
		49	8.7	1.1	6.7
		50	8.8	1.2	6.3
		51	8.9	1.2	7.0
	杯	52	12.4	2.5	8.1
		53	12.5	2.3	9.1
		54	12.9	2.5	9.5
		55	13.4	2.8	8.7
SD153	小皿	58	7.8	1.1	5.9
		59	8.5	1.1	6.8
		60	8.5	1.2	6.8
		61	9.2	1.3	7.7
SK154	小皿	63	9.1	1.3	7.1
		64	9.1	1.4	6.9
	高台付小皿	65	7.4	1.8	7.6
SK155	小皿	67	9.1	1.4	6.7
		68	9.5	1.1	7.9
SK158	小皿	70	9.5	1.2	7.3
SK168	小皿	72	9.1	1.4	6.7
	杯	73	13.1	2.7	8.8
SK169	小皿	74	9.4	1.4	6.2
SK173	小皿	76	8.5	1.2	6.8
		77	8.7	1.1	7.1
		78	8.5	1.3	7.0
		79	8.8	1.2	6.8
		80	8.7	1.2	6.7
		81	8.8	1.3	7.0
		82	8.2	1.3	7.0
		83	9.0	1.1	6.8
	杯	84	12.5	2.9	9.1
		85	12.8	3.0	9.9
		86	13.1	2.9	9.7
		87	13.1	2.6	9.8
		88	13.2	2.9	9.9
		89	13.6	2.5	9.5
SK174	小皿	91	8.5	1.3	6.5
SK175	小皿	92	8.8	1.4	7.1
SK181	黒色土器椀	93	15.7	5.9	6.3
SK185	小皿	94	9.1	1.3	6.7
	椀	95	16.6	5.3	6.7
SK186	小皿	96	8.6	1.0	6.3
		97	8.6	1.1	6.4
SK187	小皿	98	9.5	1.2	7.9
	椀	99	12.4	2.3	8.4
SK189	丸底杯	100	14.8	3.5	
		101	15.2	3.2	
SK192	小皿	102	9.2	0.9	5.9
		103	8.4	1.2	4.9
		104	9.1	1.3	7.0
	丸底杯	105	14.8	3.3	
		106	15.6	3.6	
SK193	小皿	107	8.0	1.5	5.6
	杯	108	12.8	2.9	9.9
		109	14.3	2.6	9.6
SK195	小皿	110	9.1	1.4	7.1
	杯	111	15.5	3.0	10.0
SK196	小皿	112	8.5	1.0	6.8
		113	8.5	1.2	6.8
		114	8.6	1.0	6.7
		115	8.6	1.0	7.4
		116	8.6	1.1	6.8

第4表　8区出土土器計測表（1）

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SK196	小皿	117	8.8	1.1	6.8
		118	8.9	1.3	5.9
		119	8.9	1.2	7.3
		120	9.0	1.1	7.2
		121	9.5	1.3	6.9
	杯	122	14.8	2.9	10.2
		123	15.3	3.2	9.5
SK199	小皿	125	7.2	1.1	7.2
		126	9.4	1.1	7.6
		127	9.5	0.9	6.7
	杯	128	13.0	3.0	10.2
		129	13.2	2.8	8.8
		130	13.5	2.6	9.6
SK197	小皿	131	8.6	1.0	5.9
		132	9.2	1.1	6.5
		133	9.2	1.3	6.7
		134	9.8	1.1	7.0
	高台付小皿	135	9.8	2.6	5.9
	杯	136	15.5	3.3	10.3
	瓦器椀	137	17.1	6.1	7.0
SK202	小皿	138	8.6	1.4	6.4
		139	8.8	1.0	6.9
		140	9.0	1.1	6.8
		141	9.0	1.3	6.4
		142	9.3	1.0	6.9
		143	9.3	1.2	6.8
		144	9.1	1.5	6.4
		145	9.3	0.9	6.6
		146	9.4	1.0	7.3
		147	9.5	1.2	7.1
	杯	148	15.0	3.1	11.1
		149	15.6	2.8	10.1
		150	15.8	2.6	11.4
		151	15.8	3.0	10.3
		152	16.1	2.9	10.9
		153	16.2	2.8	12.0
SK201	小皿	156	8.7	1.4	7.0
		157	8.8	0.9	6.9
		158	8.8	0.9	7.4
		159	8.8	1.2	6.4
		160	8.9	0.9	7.0
		161	9.0	1.1	6.6
		162	8.9	1.1	7.5
		163	9.0	1.2	6.9
		164	9.0	0.8	6.3
		165	9.1	1.3	7.2
		166	8.3	1.5	6.7
		167	9.3	1.0	6.5
		168	9.4	1.2	7.1
	杯	169	15.2	2.9	9.9
		170	15.7	3.1	11.2
		171	15.6	2.6	11.1
		172	16.8	3.2	10.2
SK203	小皿	174	8.9	1.4	7.3
		175	9.0	1.0	6.6
		176	9.2	1.0	7.1
		177	9.2	1.3	6.4
		178	9.3	0.7	8.0
		179	9.9	1.1	7.8
	杯	180	15.0	3.0	10.6
		181	15.7	2.8	9.6
		182	15.8	2.9	10.0
		183	16.1	3.4	13.2
SK210	小皿	184	9.3	1.2	7.5
SK220	小皿	185	8.8	1.1	6.2
		186	9.0	1.0	6.8
SK226	小皿	187	8.8	1.1	6.6
SK325	小皿	188	9.2	1.8	6.8
SK216	小皿	189	9.3	1.2	6.6
		190	10.0	1.5	7.7
	丸底杯	191	12.1	2.9	
		192	16.0	3.7	
		193	14.8	4.0	
SK218	小皿	194	9.8	1.5	7.6
	杯	195	14.7	2.6	10.9
	丸底杯	196	15.3	3.5	
SK225	小皿	197	8.4	0.9	6.1
		198	8.5	1.3	5.8
		199	9.7	1.3	7.6
SK227	小皿	200	9.2	1.2	7.0
		201	9.6	1.1	7.4
		202	9.6	1.2	7.7
		203	9.8	1.2	7.3
SK239	小皿	206	9.1	0.9	7.5
SK241	小皿	207	8.4	1.0	7.2
SK243	小皿	208	8.0	1.0	6.8
SK246	杯	209	12.4	2.5	9.5
		210	13.9	2.8	9.5
SK251	丸底杯	211	15.9	3.2	
SK223	丸底杯	212	14.4	3.5	
	瓦器椀	213	15.3	6.2	7.0
	須恵器椀	214	16.7	5.3	5.5
SK257	小皿	218	9.4	1.2	6.2
		219	9.5	1.2	7.4
		220	9.5	1.3	7.5
		221	9.7	1.3	6.6
	丸底杯	222	14.4	3.2	
		223	14.9	3.4	
		224	15.1	3.5	
		225	15.1	3.9	
		226	15.3	3.2	
		227	15.4	3.6	
		228	15.5	2.5	
		229	15.6	3.2	

第5表　8区出土土器計測表（2）

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SK257	丸底杯	230	16.4	3.6	
	杯	231	15.2	4.3	7.5
SK256	小皿	234	9.7	1.4	7.2
		235	9.7	1.9	7.6
	杯	236	14.2	2.9	
		237	15.0	3.5	
		238	15.3	3.3	
SK260	小皿	239	8.6	1.6	6.6
SK266	小皿	240	9.1	1.4	6.7
	杯	241	12.0	2.4	8.2
SK267	椀	242	15.3	5.1	6.8
SK287	杯	243	15.1	3.3	10.9
SK292	小皿	244	9.0	0.9	6.5
		245	9.1	1.2	6.7
SK297	小皿	247	9.1	1.2	7.2
		248	8.9	1.0	7.3
		249	9.3	1.4	7.8
SK301	小皿	250	9.6	1.6	7.2
	丸底杯	251	14.7	3.3	
		252	15.0	2.8	
SK302	小皿	254	9.8	1.4	7.4
	丸底杯	255	16.2	3.6	
SK315	小皿	256	8.6	1.0	6.7

遺構番号	土器器種	遺物番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
		257	8.7	1.0	6.5
		258	8.8	1.2	6.6
		259	8.9	1.3	6.9
		260	9.2	1.2	6.6
	杯	261	11.7	2.4	8.9
		262	12.2	2.4	8.6
		263	12.5	2.4	8.7
		264	12.6	2.8	9.2
		265	12.6	2.4	9.3
		266	12.8	2.6	9.4
		267	12.8	2.7	9.0
		268	13.3	2.5	8.7
		269	13.2	2.9	9.8
SK316	小皿	270	9.2	1.1	7.2
SK318	小皿	271	7.8	1.4	6.4
	杯	272	12.0	2.8	7.9
SK333	小皿	274	8.9	1.2	6.3
		275	9.3	1.5	6.6
		276	9.3	1.3	7.6
		277	9.4	1.4	6.5
		278	9.4	1.6	6.8
	杯	279	15.1	2.9	11.2
	丸底杯	280	15.4	3.3	

第6表　8区出土土器計測表（3）

(1) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景空中写真

(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区東半空中写真

図版 2

(1) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景空中写真（やや近接）

(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 7 区全景（北西から）

(1) SE01 井戸（東から）

(2) SE03・02 井戸（南から）

(3) SE04 井戸（東から）

(4) SE06 井戸（北西から）

(5) SE07 井戸（西から）

(6) SE06 井戸（南から）

図版4

(1) SE08 井戸（北東から）

(2) SE10 井戸（北から）

(3) SE11 井戸（南から）

(4) SE13 井戸（西から）

(5) SE14 井戸（西から）

(6) SE15 井戸（西から）

(1) SE117・16 井戸（西から）

(2) SE17・18 井戸（南から）

(3) SE20 井戸（南から）

(4) SE21 井戸（東から）

(5) SE51 井戸（南から）

(6) SE55・56 井戸（北東から）

図版 6

(1) SE55 井戸（北から）

(2) SE57・58 井戸（北西から）

(3) SE64 井戸（南東から）

(4) SE65 井戸（南から）

(5) SE56 井戸（北から）

(6) SE73 井戸（北西から）

(1) SE100 井戸（北から）

(2) SE116 井戸（南から）

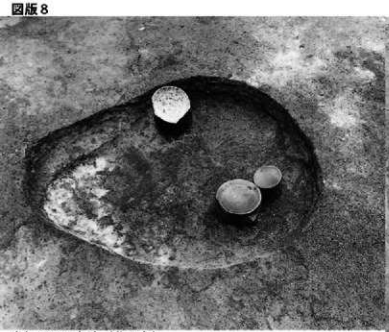
(3) SK41 土坑（南西から）

(4) SK42 土坑（東から）

(5) SK43 土坑（南から）

(6) SK42 土坑（東から）

図版 8



(1) SK44 土坑（北から）

(2) SK70 土坑（南から）

(3) SK70 土坑（北から）

(4) SK68 土坑（北西から）

(5) SK69 土坑（北西から）

(1) Pit28（西から）

(2) SK78 土坑（南西から）

(3) SK80 土坑（北東から）

(4) SK78 土坑（南西から）

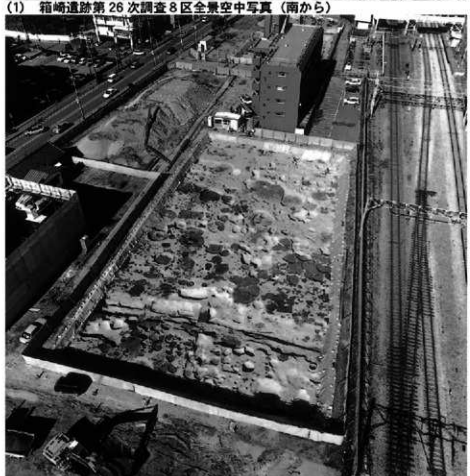
(5) SK81 土坑（北から）

図版 10

(1) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区東半空中写真（北西から）

(2) 箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真

(1)　箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真（南から）



(2)　箱崎遺跡第 26 次調査 8 区全景空中写真（南からやや近接）

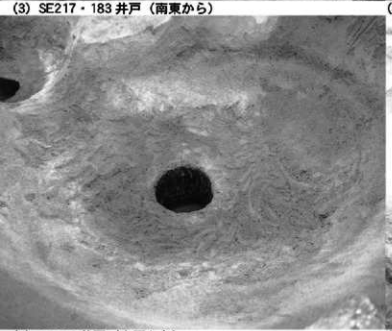
図版 12

(1) SD150 溝土層（南東から）

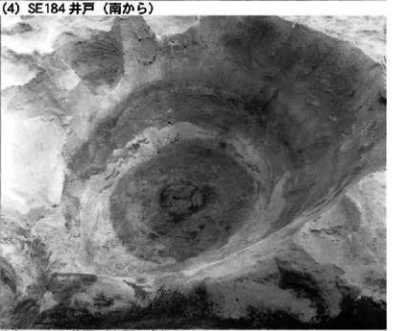
(2) SE157 井戸（北東から）

(3) SE217・183 井戸（南東から）

(4) SE184 井戸（南から）



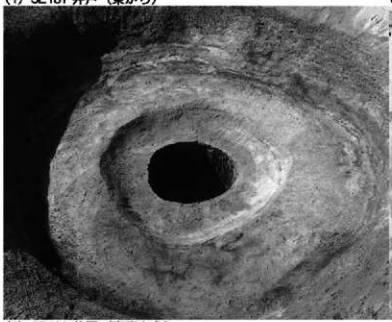
(5) SE184 井戸（南西から）



(6) SE184 井戸（南西から）

(1) SE187 井戸（東から）

(2) SE188 井戸（東から）



(3) SE188 井戸（南東から）

(4) SE190 井戸（西から）

(5) SE191 井戸（南西から）

(6) SE198 井戸（南東から）

図版 14

(1) SE200 井戸（南東から）

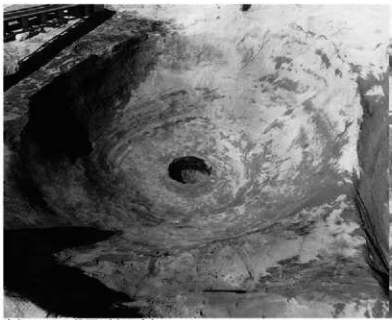
(2) SE200 井戸（北から）

(3) SE221 井戸（南東から）

(4) SE234 井戸（南東から）

(5) SE234 井戸（北西から）

(6) SE234 井戸（東から）

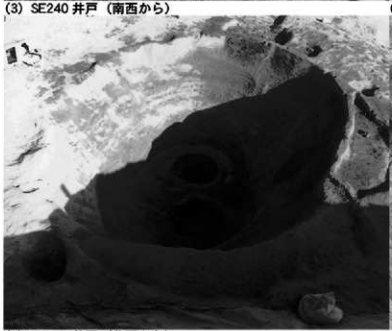


(1) SE235 井戸（南から）

(2) SE238 井戸（南から）

(3) SE240 井戸（南西から）

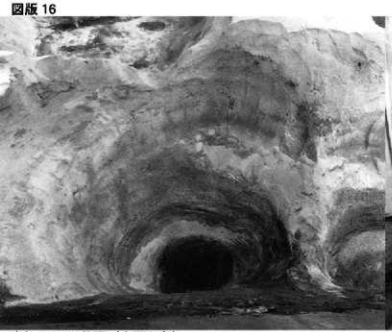
(4) SE250 井戸（北西から）



(5) SE296 井戸（北西から）

(6) SE296 井戸（北東から）

図版 16



(1) SE319 井戸（南西から）

(2) SE319 井戸（南東から）

(3) SE319 井戸（南西から）

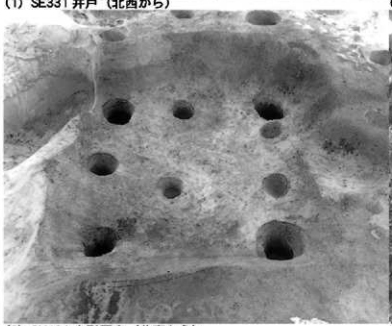
(4) SE320 井戸（南から）

(5) SE323 井戸（南東から）

(6) SE329 井戸（南西から）

(1) SE331 井戸（北西から）

(2) Pit1270 井戸（南西から）



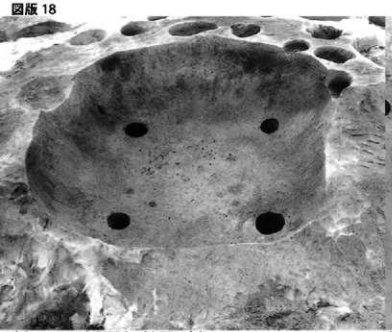
(3) SK181 方形竪穴（北東から）

(4) SK185 方形竪穴（東から）

(5) SK218 方形竪穴（南西から）

(6) SK223 方形竪穴（南東から）

図版 18



(1) SK227 方形竪穴（南西から）

(2) SK232 方形竪穴（北から）

(3) SK257 方形竪穴（南東から）

(4) SK257 方形竪穴（南東から）

(5) SK302 方形竪穴（北西から）

(6) SK302 方形竪穴（南西から）

(1) SK192 土坑（南から）

(2) SK196 土坑（南から）

(3) SK315 土坑（北東から）

(4) Pit687（南から）

(5) Pit767（北東から）

(6) Pit784・783（北西から）

図版 20

(1) Pit927（南から）

(2) SX330 壺棺墓（南西から）

(3) SX140 壺棺墓（北西から）

(4) Pit1381（南から）

18

65

20

66

出土遺物（1）

78

101

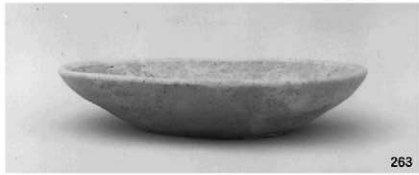
79

102

出土遺物（2）

176

190


263

275

296

出土遺物（3）

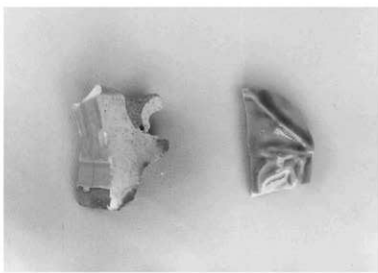
301

304

305

312

出土遺物（4）



出土遺物（5）

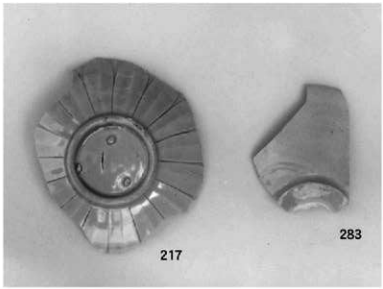
213

215

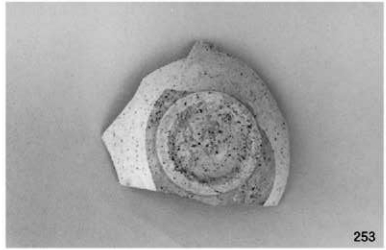
214

216

出土遺物（6）



出土遺物（7）



出土遺物（8）

ふりがな	はこざき
書名	箱崎　23
副書名	―箱崎遺跡群第 26 次調査報告(2)―
巻次	筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅴ
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 853 集
編著者名	佐藤一郎
発行機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810 - 8621　福岡市中央区天神１－８－１　TEL 092 － 711 － 4667
発行年月日	2005（平成 17）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
箱崎遺跡	福岡市東区 馬出5丁目22番・ 箱崎１丁目１番	130		33° 36′ 34″	130° 25′ 38″	2001.6.1 ～ 2002.3.31	3,155	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
箱崎遺跡	集落 墳墓	弥生時代終末 ～古墳時代初 平安時代中期 ～鎌倉時代末	墳墓・井戸・方形竪穴・土坑・溝	土師器小皿・杯・高杯，瓦器椀・小皿，須恵器片口鉢・椀，陶磁器碗・皿，瓦，	

箱　崎　23

―箱崎遺跡第 26 次調査報告(2)―

2005年(平成17年) 3月31日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８－１
(092) 711－4667

印　刷　末松印刷株式会社
福岡市博多区東那珂２丁目４番 36 号
(092) 411－6131